

平成26年度

シ ラ バ ス

桐生大学 医療保健学部

看護学科

平成24年度以降カリキュラム…【1・2・3年生】

平成26年度 シラバス

科目名	心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日			
	教養科目	(時間)	(30時間)	時限						
授業の概要	ものを見聞きすること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するしないとにかくわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、私たちのそうした心のはたらきを実証的に明らかにすることを目的とした科学である。看護職をめざすものとして、人の心の多様なはたらきについて学修することは、人間理解の一環にもなる。本講義はそうした観点から、人の心の多様なはたらきがどのように明らかにされてきたかについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうたうれる試みもする予定である。									
学習目的	人の心のはたらきについて広く知識を獲得し、人（患者）を理解する基本的態度を習得することを目的とする。									
到達目標	1. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかる専門用語の意味を理解する。 2. 知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかる心理学理論について理解する。 3. 日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。 4. 人の心の全般的なしくみについて理解する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 心理学で取り扱う問題	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 講義で取り上げる内容、患者心理のメカニズム	第10章
第2回	感覚・知覚の心理学	心と身体の世界 ～外界を捉えるしくみ、知覚の特徴（視覚を中心に）、知覚のズレ	第1章
第3回	認知の心理学①	心と行動の形成① ～ものを覚える／忘れるしくみ、記憶の錯誤	第2章
第4回	認知の心理学②	心と行動の形成② ～注意と思考、人の認知的特性からみた医療事故予防	第2章
第5回	学習の心理学①	心と行動の形成③ ～新しい行動を身につけるしくみ（条件づけ理論と認知理論）	第2章
第6回	学習の心理学②	心と行動の形成④ ～動機づけ理論、動機づけを高めるためには	第2章
第7回	社会的関係の心理学①	対人関係① ～対人認知の諸相	第7章
第8回	社会的関係の心理学②	対人関係② ～話を聞くこと：ノンバーバルコミュニケーションの重要性	第7章
第9回	発達の心理学①	心と行動の発達①～生涯発達の視点、人間発達のしくみ、人生初期の発達	第3章
第10回	発達の心理学②	心と行動の発達②～発達の理論（フロイト、エリクソン、ピアジェを中心）	第3章
第11回	個人差の心理学①	心の個性と深層～個性を反映するもの（知能と性格）、性格の理論、性格形成の要因	第4章
第12回	個人差の心理学②	医療に役立つ心理テスト～心理テスト（心理検査）の種類（知能検査、性格検査、発達検査）	第8章
第13回	臨床の心理学①	心の適応と障害 ～感情の種類、感情の表出、欲求と適応機制	第5章
第14回	臨床の心理学②	心と身体の心理臨床～ストレスと代表的な精神疾患（不安障害、気分障害、統合失調症を中心に）	第6章
第15回	臨床の心理学③	医療に役立つ心理臨床～ストレスへの対処法、カウンセリング理論（精神分析理論、学習理論、自己理論を中心に）	第9章
教科書	藤田主一・山崎晴美編『新 医療と看護のための心理学』福村出版		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験90%、レポート・課題等10%		
授業時間外の学習	各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。		
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待する。		
オフィス・アワー	曜日・時間等については11号館3階第8研究室にて、もしくは講義終了後などに、適宜設ける。		

平成26年度 シラバス

科目名	教育原論		担当者	占部慎一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
	教養科目	(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	教育に関する基本的事項を学びます。まず、人間存在と教育の必要性などを理解しやすい事例・実験から学びます。次に教育の目的、意義、理念、方法、学校教育の歴史などを先人たちの教育思想や実践を通して体系的に学びます。さらに今日の学校の教育課程、学習指導、生徒指導などについて学びます。最後に、これらを土台として、今日の学校教育が抱える問題を考察し、新しい教育の在り方について学びます。初めて学ぶ概念や考えが多く出てくるため、ノートを正確にとり、意味を理解し、自分の考えを発表して深める勇気を持ち、予習・復習を欠かさないことが大切です。															
学習目的	①教育の基本的事項を理解する。 ②先人の教育実践と教育思想の変遷を理解する。 ③今日の学校教育とその抱える問題を理解する。															
到達目標	一般到達目標 理解した授業内容を深め、自分の人生に活用できるようにする。 教職到達目標 教員採用試験合格に役立てるとともに、教師としての資質開発・向上に役立てるようにする。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	人間存在と教育		人間と動物の違い、変化し発展する存在を支える教育、文化的・社会的存在と教育													
第2回	学びと教え		教えの原初的形態と伝承、教えの発達と教育、言語・記号の使用と教育、共同・協働行為と教育													
第3回	発達と教育		教育による可能性の拡大、経験的学びと科学的学び、知の受け身者から知の構成者へ、自己実現志向とピークエクスペリエンス													
第4回	学校の成立		成立の社会的環境、教授方法・学習内容の変遷、現代の学校教育の価値、養成される能力													
第5回	教育方法から見る学校教育Ⅰ		系統主義教育（系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点）													
第6回	教育方法から見る学校教育Ⅱ		学習者中心主義教育（系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点）と正統的周辺参加論（系譜と特徴、養成される能力、長所と欠点）													
第7回	日本教育史Ⅰ		古代から江戸時代までの教育、明治から戦前までの教育													
第8回	日本教育史Ⅱ		戦後の教育（目的、制度、学習指導要領の変遷、教授法の変遷）進学率の変遷と校種の変遷等													
第9回	学校教育と法		憲法、教育基本法、学校教育法、免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律													
第10回	教育課程		意義と目的、教育目標と教育計画との関係性、学習指導要領と学校における教育課程の編成													
第11回	教授と学習		実物教育、直観教授、4段階教授法、発達の最近接理論 能力観の変遷と学習、グループ学習と個人学習、社会的学習理論													
第12回	生徒理解と生徒指導		「生徒指導提要」、生徒理解と関係づくり、問題行動の予防・対応・ケア、現代の問題行動の特徴													
第13回	学校の抱える問題		いじめ、体罰、授業忌避、不登校、自傷とOD、私事化と公共性の喪失、親の世界づくりの先取り、モンスター・ペアレンツ													
第14回	新しい教育		アクティブラーニング、P／P学習、自己調整学習、生涯学習													
第15回	社会の変化と教育展望		グローバルコミュニケーション力、3Dプリンターに見られる創造力、高等教育のWeb公開と連携及び新たな相互学習													
教科書	やさしい教育原理 田島一也 有斐閣															
参考書	①よくわかる教育原論 安彦忠彦 ミネルヴァ書房 、②人はいかに学ぶか 稲垣佳世子、波多野 誠余夫 中公新書															
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験80% 小テスト、レポート、授業中の意見20%で評価する															
授業時間外の学習	授業日中に最低3回の復習をする（方法については、第1回目の授業で説明する）。提示された事項を予習してくる。															
履修のポイント	実際の教育事象を学んだ概念と知識を活用して考え、深い理解が得られるように努力することが大切である。															
オフィス・アワー	アポイントをとって来室ください。															

平成26年度 シラバス

科目名	法学		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(30時間)					時限									
授業の概要	保健医療に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。一方で、国際化・情報化の進展とともに、紛争の解決が訴訟へと持ちこまれることが多くなってきており、保健医療分野においても、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的事情からについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につける。															
学習目的	社会人として必要な法知識を身につける。また、医療者として不可欠な法知識・法感覚を身につける。															
到達目標	法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。また、日常生活に関わりのある法令を理解する。さらに、医療者として理解しておく必要のある具体的法令のうちのいくつかを読んで、理解できるようにする。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	オリエンテーション 法と社会		私たちの社会に存在するルールの中で、法とは何を指すのかについて学習し、その意義について理解する。													
第2回	法令の種類		法令には、どのような種類があるのか、またどのような効力があるのかについて学習する。また、法令で規定する分野・範囲について、理解する。													
第3回	法令の基本形式・構造(1)		法令は、一定の形式で構成されているが、その基本的な構造について学習する。法令を構成している要素がそれぞれどのような働きをしているのかについて、理解する。													
第4回	法令の基本形式・構造(2)		法令はある一定のルールに従ってその内容が構成されているが、そのルールを学習する。また、その法令の改正の仕方について、具体的なやり方について理解する。 ★確認テスト1「法とは何か、法令の基本構造」													
第5回	法令の読み方(1)		医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。 ☆レポート1「自分が知りたいと思った法令もしくは、その条文の一部を取り上げ、概要を記述する」													
第6回	法令の読み方(2)		規律する必要のある分野について、法律・省令等のいくつかの種類の法令が一括して規定している。そうした法令相互間の関係を具体的な法令を利用して、理解する。													
第7回	法令の読み方(3)		法令は、その種類によってはかなり頻繁に改正されるものがある。そうした改正法について、医療保健に関する法令の具体例を使って理解する。													
第8回	消費生活と法(1)		財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「売買」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。 ★確認テスト2「法令の読み方」													
第9回	消費生活と法(2)		財産的生活関係の中でも、特に消費者として日常的に関わる法について学習する。具体的に、「契約」についての法規定を日常生活の場面に即して理解する。													
第10回	家族関係と法(1)		家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する。 ☆レポート2「法に関するニュース・法的事項について」													
第11回	家族関係と法(2)		家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。 ★確認テスト3「民事法」													
第12回	雇用関係と法(1)		労働者の権利を中心で学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、男女雇用機会均等法などの諸法令について、理解する。													
第13回	雇用関係と法(2)		労働者の受け取る給与・報酬の法的側面について、最低賃金法などの労働条件に関する法律と関連させながら、学習する。													
第14回	雇用関係と法(3)		労働者の負担する税・社会保険料について、その概要を学習し、負担者の立場からの社会保障制度を学習する。													
第15回	全体のまとめ		・現代社会における法の意義とその課題 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「医療保健に関する法的問題について」													
教科書	使用しない															
参考書	『ポケット六法』江頭憲治郎・小早川光郎・他 編 (有斐閣)															
成績評価	単位認定 60点以上 平常点(授業への参加度・学習態度等) [15%]、レポート [40%]、確認テスト [45%] を総合して評価。															
授業時間外の学習	次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。															
履修のポイント	具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることがらに関する授業なので、よく理解しておくこと。															
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時(授業時間以外)、9号館3階第9研究室															

平成26年度 シラバス

科目名	日本国憲法		担当者	松原直樹	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要								自民党への政権交代後、経済状況は上向きつつあると言われている。しかし、国における課題は山積しており、消費税増税、原発の可否を含むエネルギー対策、社会保障と税の一体改革等については、国民全体で考えるべき問題であり、最終的には国民に判断が迫られる問題である。現在、国民は政治が自分たちの生活に直結していることを実感しつつある。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ國の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、学習していく。								
学習目的								社会人として必要な憲法の知識を身につける。また、教職課程履修者については、教員として必要な最低限の憲法に関する知識、人権感覚を身につける。								
到達目標								憲法の基本的構造を理解する。憲法とわたしたちの日常生活との関係を理解する。どのような基本的人権がどういう目的でどのように保障されているかを学習する。現在の日本の統治構造について学習し、人権保障との関係を理解する。								
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	日本国憲法とは		現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。													
第2回	日本国憲法はどのようにつくられたか		日本国憲法の制定過程について、第二次大戦後からG H Qによる憲法案の提示、国会での審議等について、V T Rに沿って学習する。													
第3回	人権保障とは		基本的人権の享有主体について学習する。特に、外国人・子どもの人権について、人権保障はどのようになされうるのか、また法人は人権主体となり得るのかについて、学習する。													
第4回	法の下の平等		憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。 ★確認テスト1「日本国憲法の成立と基本原理」													
第5回	信教の自由		信教の自由はなぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。さらに、信教の自由に関する問題について、判例を素材として、学習する。その制度的に保障する「政教分離」について学習した後、それに関する判例を学習する。 ☆レポート1「憲法に関するニュースについて」提出													
第6回	表現の自由		表現の自由について、その意義と内容について、学習する。そして、表現の自由において認められるべき具体的な内容とその限界について、判例に沿って学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。													
第7回	生存権		社会権と区分される人権について学習した後、社会権に区分される生存権について、その意義と法的内容を知る。また、憲法26条の規定と「医療・社会保障・公衆衛生」に対する施策の関係を考える。													
第8回	教育と人権		教育を受ける権利とその内容について学習し、教育基本法の関係について理解する。さらに、現代の日本の教育制度の概要を学習し、また教育を受ける権利に関する判例を検討する。 ★確認テスト2「基本的人権」													
第9回	犯罪と人権		憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。													
第10回	象徴天皇制選挙制度		憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。日本における国政・地方の選挙制度の概要と現状について学習する。 ☆レポート2「基本的人権に関する現代における問題について」													
第11回	国会のしくみ		国会のさまざまの権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。													
第12回	内閣と行政活動		内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ★確認テスト3「統治機構」													
第13回	裁判のしくみ		裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、V T Rに沿って学習する。													
第14回	平和主義と防衛憲法改正		平和主義の意義について学習した上で、日本の防衛政策の現状について、自衛隊、日米安全保障条約との関係をで理解する。さらに、憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。													
第15回	全体のまとめ		全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について、検討する。 ★確認テスト4「全体のまとめ」 ☆レポート3「日本の統治機構の問題点について」提出													
教科書	『目で見る憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）															
参考書	『ポケット六法』菅野和男・江頭憲治郎・他 編（有斐閣）															
成績評価	単位認定 60 点以上 平常点（授業への参加度・学習態度等）[15%]、レポート[30%]、確認テスト[55%]を総合して評価。															
授業時間外の学習	次回の授業についての資料を読んでおくこと。授業終了後は、授業で説明された部分をハンドアウト等で復習しておく。レポート・確認テストについて、準備しておく。															
履修のポイント	教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。															
オフィス・アワー	月・火・木曜日、11時～15時（授業時間以外）、9号館3階第9研究室															

平成26年度 シラバス

科目名	スポーツ科学Ⅰ (レクリエーションとしてのスポーツ)		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期						
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1年	曜日							
	教職に関する科目	必修	(時間)	(30時間)			時限							
授業の概要	身体活動の必要性を理解し、身体の健全な維持などの合理的な方法を学ぶ。すなわち、スポーツを通してそれぞれの身体機能の維持あるいは向上を図るための基礎知識を知る。レクリエーションは精神的なストレスの解消ばかりでなく身体的な健康の維持にも重要である。レクリエーション理論について幅広く学ぶと共に、生涯に渡りレクリエーションとしてのスポーツを実践していく能力を高める。さらに実際のレクリエーションの計画・実施を行い、その効果の判定方法などについて学ぶ。													
学習目的	自己身体運動の理解と分析													
到達目標	レクリエーションの概念の理解 身体機能の維持・向上を図るための方法論の習得													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	オリエンテーション		授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能				運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シユーズを用意してください。							
第2回	メディカルチェック		スポーツの意識調査、スポーツ経験調査、ストレッチ											
第3回	コミュニケーション・ワーク		①ホスピタリティ・トレーニング ②アイスブレーキング											
第4回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習①)											
第5回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習②)											
第6回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(基礎練習③)											
第7回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム①)											
第8回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム②)											
第9回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム③)											
第10回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム④)											
第11回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑤)											
第12回	球技		レクリエーションバレーボールの実践(ゲーム⑥)											
第13回	屋内レクリエーション スポーツ		レクリエーションスポーツの実践											
第14回	レクリエーション		指導方法、レクリエーションプログラム作成											
第15回	レクリエーション		プログラム発表・実践											
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。													
参考書														
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、課題等で総合評価する													
授業時間外の学習	レクリエーションの意義について事前に学習すること。 バレーボールの基本的なルールや技能について学習をすること。													
履修のポイント														
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	人間発達学		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	人間の誕生から人生を終えるまでの身体的・心理社会的、及び知性や倫理道徳観の発達過程を学ぶ。また各成長発達段階の発達課題とは何かを理解する															
学習目的	1. 発達領域（身体的・論理的・心理社会的・倫理道徳的）において、それぞれの発達課題を学び実際との関連性を理解する 2. 人間は生涯を通して成長をしていることから、「よりよく生きるとは」について理解を深める															
到達目標	1. 発達の原則に基づいた人間の成長発達過程を理解できる 2. 身体的・思考（知性）・心理社会的・倫理道徳的な領域におけるそれぞれの発達課題を理解できる 3. 各領域の成長発達の関連性があることを学習し、個人が抱えるさまざまな背景に基づいた成長発達過程を関連付けられる。 4. 生涯を通じて、「生きていくこと」の意義を述べることができる															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	人間の成長発達概念		発達の原則・発達課題について													
第2回	身体的な成長発達(1)		胎児期から学童期													
第3回	身体的な成長発達(2)		思春期から成人期													
第4回	身体的な成長発達(3)		高齢期、身体的な成長発達の課題学習				レポート(1)									
第5回	思考の成長発達(1)		「思考の発達とは」、ピアジェの発達段階（感覚一運動期）													
第6回	思考の成長発達(2)		ピアジェの発達段階（前操作期・具体的な操作期）													
第7回	思考の成長発達(3)		ピアジェの発達段階（形式的操作期）													
第8回	身体的・知的発達の関連性		身体的な成長発達が及ぼす思考の発達への影響				小テスト(1)									
第9回	心理社会的な成長発達(1)		「心理社会的な発達とは」、エリクソンの発達段階（0歳～4歳）													
第10回	心理社会的な成長発達(2)		エリクソンの発達段階（5歳～青年期）													
第11回	心理社会的な成長発達(3)		エリクソンの発達段階（成人期・高齢期）				レポート(2)									
第12回	倫理道徳観の成長発達(1)		「倫理道徳観の発達とは」、コールバーグの発達段階（前慣習期）													
第13回	倫理道徳観の成長発達(2)		コールバーグの発達段階（慣習期・後慣習期）													
第14回	生涯発達について		誕生から「老い」や「死」に至るまでの生涯にわたる発達について													
第15回	高齢期からの発達課題について		高齢期の発達課題・問題点、「より良く生きるとは」について考える				小テスト(2)									
教科書	必要な資料はクラス内で配付します															
参考書	自分自身の成長過程との関連性を考えながら取り組んでもらいたい。															
成績評価	単位認定 60点以上 レポート(1)・(2)各10点、小テスト(1)・(2)各40点 (合計100点)															
授業時間外の学習	講義の進行に合わせて、身体と心、知性の発達などの関連性をレポートにまとめる															
履修のポイント																
オフィス・アワー	在室時は随時対応します															

平成26年度 シラバス

科目名	物理学		担当者	榎沢龍次郎	学科	看護・栄養学科	開講期	前期						
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	2単位 (30時間)	学年	1学年	曜日	時限						
授業の概要	看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数的処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していくなくても、十分理解できる内容と構成になっています。(教科書の内容をベースにして、物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする)													
学習目的	看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学の基礎「原理・原則」を理解する ・看護・栄養分野への物理学の応用を理解する ・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする 													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	物理学と人体の関わり		・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器											
第2回	人体の力学		・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学											
第3回	流体と人体①(静止流体)		・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面張力・陰圧 ・肺胞と表面張力											
第4回	流体と人体②(運動流体)		・心臓と血液の流れ・血圧の変化・血圧測定											
第5回	流体と人体③(流体と医療)		・気体を流す場合 ・液体を流す場合(点滴装置の原理)											
第6回	熱と体温 ①(熱と温度)		・温度と温度計・熱と比熱・融解と蒸発・熱と仕事(エネルギー)											
第7回	熱と体温 ②(体温調節)		・体温と温度調節・体内で発生する熱・身体からの放熱 ・生理的体温調節機構・物理的放熱機構											
第8回	熱と体温 ③(体温測定)		・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー											
第9回	音と光と人体①(音波)		・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用											
第10回	音と光と人体②(光波)		・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用											
第11回	電気と磁気の世界①(基礎知識)		・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱											
第12回	電気と磁気の世界②(生体と電気)		・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器											
第13回	原子と放射線①(基礎知識)		・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質											
第14回	②(医学における放射線)		・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護											
第15回	③(医療への応用機器)		・医療における放射線の応用 ・X線CT ・MRI装置 ・ポジトロンCT装置											
教科書	医療系のための物理(佐藤幸一・藤城敏幸著) 東京教学社													
参考書														
成績評価	単位認定 60点以上(筆記試験80% 平常点(含・出席点)(20%))													
授業時間外の学習	新聞・雑誌等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようとする。													
履修のポイント	・種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。													
オフィス・アワー	月曜日(13:00~17:00) : 4号館2F(第3研究室)													

平成26年度 シラバス

科目名	生物学		担当者	荒井 勝己	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期						
区分	学部共通科目 (教養科目)	選択	単位 (時間)	2単位 (30時間)	学年	1学年	曜日							
授業の概要	看護師・管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。													
学習目的	看護師・管理栄養士として必要な生物学の基礎の習得する。													
到達目標	生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて学ぶ。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につける。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	生物学の基本		進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など											
第2回	細胞のプロフィール		細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など											
第3回	何が細胞の形や機能を決めているのか		形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど											
第4回	細胞が生きて活動していくために		ATPの産生、代謝経路のネットワークなど											
第5回	タンパク質が細胞のさまざまな活動を担う		タンパク質のさまざまな機能											
第6回	多細胞生物への道Ⅰ		細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど											
第7回	多細胞生物への道Ⅱ		DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など											
第8回	多細胞生物への道Ⅲ		減数分裂、生殖細胞の形成、受精など											
第9回	個体を守る免疫システム		非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫機能の制御など											
第10回	生きること、死ぬこと		細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子の関係など											
第11回	個体としてのまとまり		内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調整、動物の行動など											
第12回	生物の進化と多様性		進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るためになど											
第13回	遺伝とはⅠ		遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など											
第14回	遺伝とはⅡ		さまざまな遺伝											
第15回	遺伝とはⅢ		性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など											
教科書	『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第2版 和田 勝著(羊土社) ※単元毎にプリントを配布													
参考書														
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験 100%													
授業時間外の学習	単元毎に復習問題を配付するので、解いて理解を深めること。													
履修のポイント	教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。													
オフィスアワー	授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室6で随時受け付ける。													

平成26年度 シラバス

科目名	化学		担当者	小林	学科	看護	開講期	前期
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	2 30時間	学年	1	曜日	
授業の概要	生体反応を理解するため必要な化学を学ぶ。パーセント濃度やモル濃度、原子の構造と化学結合、化学反応と化学平衡、溶液の化学、酸化と還元、有機化合物など看護師、管理栄養士の専門科目で必要とされる化学の基礎について学ぶ。							
学習目的	生体反応を理解するための化学の基礎知識を身に付ける。日常的な化学計算ができるようになる。。							
到達目標	1、パーセント濃度、モル濃度が計算できる。 2、SI 単位の理解 3、酸、塩基、酸化、還元、pH を理解する。 4、化学構造式を見て物質の性質がわかるようにする。							

授業計画

回	主題	授業内容	備考		
第1回	実力テスト/化学で使う数字のルール	これまでの基礎学力の試験・指数・有効数字			
第2回	化学の世界	原子の性質と周期			
第3回	原子の構造	原子の電子配置、規則、荷電子			
第4回	化学結合 1	イオン結合、共有結合			
第5回	化学結合 2	共有結合、金属結合、分子間力、水素結合			
第6回	原子量と物質量	原子量、分子量、式量、物質量			
第7回	単位	SI単位、単位の変換	電卓		
第8回	化学反応の量的関係	化学反応式			
第9回	酸と塩基	酸・塩基、pH			
第10回	酸化と還元	酸化・還元の定義			
第11回	化学平衡と溶液の性質	化学平衡、電離平衡、溶液の性質			
第12回	濃度計算	濃度の計算 1	電卓		
第13回	濃度計算	濃度の計算 2	電卓		
第14回	濃度計算	濃度の計算 3	電卓		
第15回	総合演習	複数の項目を関連付け、実力を確認する。	電卓		
教科書	図表から学ぶ化学 インプレス化学基礎ノート				
参考書	化学総合資料				
成績評価	単位認定 60 点以上	時間内のテスト・レポートにより評価			
授業時間外の学習	授業でおこなった範囲を問題集を使って必ず復習する。次の授業時間で問題を解き、学習の理解度を確認する。				
履修のポイント	濃度計算、化学構造を理解し、生化学・栄養学などの専門科目が理解できるようになる。理解度にあわせ、シラバスを変更する。				
オフィス・アワー	授業内で連絡				

平成26年度 シラバス

科目名	コミュニケーション論		担当者	占部慎一	学科	看護学科	開講期	後期									
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日										
	(時間)		(時間)	(30時間)			時限										
授業の概要	現代の若者のコミュニケーションの現状を導入として、その苦手意識の背景要因である傷つきやすさや対人恐怖などを分析する。それらを基盤としてセルフアサーション、聞くこと、身体・表情のコミュニケーションについて知見を論じる。また、ロールプレイやワークショップによって実際の活用法などを習得し、日常生活や学習の場面で役立て得る講義内容となっている。さらに教職を目指す諸君のために教室の会話分析を紹介し、多様なディスコースと物語に出会える場として<学校の再生>が求められている点について言及する。																
学習目的	現代の若者のコミュニケーションの貧困さとその要因を知る。それらを改善する視点としてセルフアサーション、聞くこと、身体・表情のコミュニケーションについて知見と理解を深める、実際の活用法・技能などを習得し、日常生活や学習の場面で役立て自らの人生の充実を図る。																
到達目標	①コミュニケーション苦手意識の背景要因を理解する。 ②コミュニケーション改善の理論を理解する。 ③改善のための手法を習得し、活用してみる。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	コミュニケーションの意義と機能	コミュニケーションの形態と特徴その機能															
第2回	コミュニケーションの現状	コミュニケーションが苦手な若者たち 触れ合い恐怖 SNSの発達とネット依存、二次元マン															
第3回	傷つきやすさと対人恐怖	傷つきやすさの構造と対人関係からの撤退 ネットのコミュニケーションと生のコミュニケーションの差異															
第4回	モノローグとダイアローグ	イントラパーソナルな世界とインタークーパーナルな世界															
第5回	オptyimismとpessimism	楽天主義者の成功と会話の豊かさ、悲観主義者の落ち込みと会話の貧困さ															
第6回	セルフ・アサーション（1）	自己を発現し理解を得ることの重要さ															
第7回	セルフ・アサーション（2）	アサーションの技法と活用															
第8回	聞くことと聴くこと（1）	他者の語りを聞き、他者の当事者性を理解し、他者の想いに応え															
第9回	聞くことと聴くこと（2）	聴くことの実際															
第10回	身体・表情のコミュニケーション（1）	身体・表情のコミュニケーションの貧困さと豊かさ															
第11回	身体・表情のコミュニケーション（2）	身体・表情のコミュニケーションの技法と活用															
第12回	嫌いな人とのコミュニケーション（1）	感情の発生と論理、自己説明スタイルと反芻論理療法の活用、ソーシャルスキルの活用															
第13回	嫌いな人とのコミュニケーション（2）	嫌いな人とのコミュニケーションの改善															
第14回	学びのディスコース	ピグマリオン効果、IREディスコース、ヒドンカリキュラム															
第15回	まとめ	コミュニケーションによる人生の充実と健康															
教科書	使用せず																
参考書	占部慎一著『子どもたちの逸脱・非行』学文社、相川充・猪刈恵美子著『子どものソーシャルスキル』合同出版																
成績評価	単位認定 60 点以上 小レポート、総括レポート、授業への取り組みで総合評価する。																
授業時間外の学習	受講日の内に3回復習すること（方法については初回の授業で説明する）。提示された事項を予習してくる。																
履修のポイント	日常生活のコミュニケーション状況と照らし合わせ活用してみよう。																
オフィス・アワー	授業後もしくは昼休み。必ずアポイントメントをとってください。																

平成26年度 シラバス

科目名	基礎英語Ⅰ		担当者	松本恭代	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	スピーキング・リスニング力向上のため、'Speak English'によるシャドウイングを導入し、同時に臨床現場での看護英語を学び、患者と看護師の会話を聞きながら、看護臨床の場で使う英語を習得する。ペアワークで学習する。															
学習目的	英語に対する苦手意識を克服し、英語学習の楽しさを体験しながら、看護英語を習得し、看護実習時に役立てる。															
到達目標	どんな相手とも学習することができる習慣を身に着け、英語のリズムを体感しながら、リスニング力とスピーキング力を向上させ、看護英語を習得することを目的とする。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回			VELC test (Pre-test)													
第2回	Unit 2		Speak English の使用説明, Unit 2: "Don't worry" and Speak English "Self-introduction"													
第3回	Unit 3		Shadowing 2 and Unit 3: How are you feeling? 体の名称と患者と看護師の会話, Quiz 1													
第4回	Unit 4		Shadowing 3 and Unit 4: Take the elevator, please 体の名称と英語で院内案内, Quiz 2													
第5回	Unit 5		Shadowing test 1 and Unit 5: What are your symptoms? 症状名と患者と看護師の会話、Quiz 3													
第6回	Unit 6		Shadowing 4 and Unit 6: Where does it hurt? 痛みの場所と患者と看護師の会話、Quiz 4													
第7回	Unit 7		Unit 7: How long have you had these symptoms? 症状名と患者と看護師の会話、Quiz 5 and shadowing 6													
第8回			中間テスト units 2-7, and Shadowing test 2													
第9回	Unit 8		Shadowing 7 and Unit 8: Have you ever had any serious illnesses? 1病歴を聞きましょう、Quiz 6													
第10回	Unit 9		Shadowing 8 and Unit 9: I'm going to take a blood sample 精神科、小児科、外科、整形外科、耳鼻科、その他、Quiz 7													
第11回	Unit 11		Shadowing 9 and Unit 11: Let me take your vital signs 接頭辞と患者と看護師の会話、Quiz 8													
第12回	Unit 12		Shadowing 10 and Unit 12: Your surgery will be tomorrow 手術、麻酔、痛みと患者と看護師の会話、Quiz 9													
第13回	Unit 13		Shadowing 11 (preparation for the test) and Unit 13: There are three kinds of medicine 薬の説明と患者と看護師の会話とQuiz 10													
第14回			Shadowing test 3 and the final test													
第15回			VELC test (Post-test)													
教科書	LIFESAVER by MACMILLAN LANGUAGE HOUSE , VELC tests and プリント教材															
参考書	看護辞典、教科書付随のCD、携帯電話、インターネット															
成績評価	単位認定 60 点以上 シャドウイング3回、テスト2回、クイズ10回 合計300点満点															
授業時間外の学習	各自、教科書付属のCDで予習すること。特にスピーキングと練習問題を自宅で学習すること。															
履修のポイント	シャドウイングによるリスニング力の向上と看護臨床の場での英語を学びます。毎回失敗を恐れず学習すること。ペアワークで学習しますので、欠席しないこと。再試無し！															
オフィス・アワー	matsumoto-ya@kiryu-u.ac.jp で日時を予約すること。															

平成26年度 シラバス

科目名	基礎英語Ⅱ		担当者	松本恭代	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)		(30時間)				時限									
授業の概要	基本的な文法事項を基にして、文法知識を使い、エッセイが書ける力を養成し、論理性を養成する。また、Speak English softwareによるスピーキング力の向上をはかる。															
学習目的	道具としての英文法を使って、自分の言いたいことを文章で表現できるようになる。また、英語のスピーキング力を向上させる。															
到達目標	中学校、高校で習った英文法の復習しながら、道具としての文法を習得し、500語以上の文章が書けるようになる。また、英語のスピーキング力をつける。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	Unit 1		My hometown: Be 動詞 と Speak English													
第2回	Unit 2		Hobbies: 一般動詞 Writing 1: My hometown と Speak English													
第3回	Unit 3		Shopping:名詞・代名詞 W2: My hobbies と Speak English													
第4回	Unit 4		Nature Quiz:Wh疑問文 W3: Summer vacation と Speak English													
第5回	Unit 5		Dream House:前置詞 W4: Dream house と Speak English													
第6回	Unit 6		Food:接続詞 W5: Favorite food と Speak English													
第7回	Unit 7		First Date:過去形 W6: Traveling or school events と Speak English													
第8回	Unit 8		Detective Story:進行形 中間試験 : units 1-7													
第9回	Unit 9		Career:現在完了形 W7: Classmates と Speak English													
第10回	Units 10 and 11		Parties:未来表現 and Rules and Regulations: 助動詞													
第11回	Unit 12		Invention & Dictionary:受動態 と Speak English													
第12回	Unit 13		Movie Reviews:形容詞・名詞 W8: Statue of Liberty と Speak English													
第13回	Unit 14		World Records:比較級:最上級 W9: Movies or DVDs と Speak English													
第14回	Unit 15		Future Dream:不定詞・動名詞 W10: My future と Speak English													
第15回	Test		試験:units 8-15 と Speak English Test													
教科書	English Ace by Seibido															
参考書	看護辞典、教科書付随のCD、携帯電話															
成績評価	単位認定 60点以上 課題10回、Speak English software test と試験2回 60点以上合格															
授業時間外の学習	英作と品詞の色分けが課題として与えられるので、各自考えながら英文法の復習をし、提出する。															
履修のポイント	文法の基礎を再学習し、実際に英文を書く場合にその知識を応用すること。品詞の色分けを行うので、カラーマークとUSBメモリーを用意すること。															
オフィス・アワー	matsumoto-ya@kiryu-u.ac.jp															

平成26年度 シラバス

科目名	スペイン語(選択)		担当者	関口伸治	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期									
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1年	曜日										
		(時間)	30時間	時限													
授業の概要	1. 発音、アクセント、単語の読み方を学ぶ。 2. 動詞の現在形までの基本文法を学び練習問題をする。 3. 挨拶、自己紹介など基本会話の練習 4. 看護科、栄養科別に現場で使える会話表現を覚える。																
学習目的	1. スペイン語の初級を学び、簡単な会話ができるようにする。 2. 職場で使えるような表現を学ぶ。																
到達目標	1. 発音、アクセント、文の読み方を学ぶ。 2. 初級文法の概要を知る。 3. 基本会話が言える。専門別の会話例を覚える。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	スペイン語の読み	スペイン語の特色、アルファベット・発音・アクセント					プリント1 発音										
第2回	名詞の性と数	名詞の性と数、定冠詞・不定冠詞、基本会話の読み					プリント2 性と数										
第3回	SER動詞・ESTAR動詞	人称代名詞・SER動詞の人称変化、ESTARの人称変化・HAY					プリント3 人称変化										
第4回	規則動詞	AR, ER, IR動詞の人称変化。簡単な文を作る。					プリント4 規則動詞										
第5回	不規則動詞・強変化	tenerの変化、状態の表現、医療会話の読み方					プリント5 不規則動詞										
第6回	語順が特殊な動詞	好き嫌いの表現、栄養指導の会話の読み方					プリント6 基本文法										
第7回	不規則動詞・弱変化	querer, poderの変化、助動詞と不定詞の表現、したい、できる、なければならない					プリント7 不定詞と助動詞										
第8回	再帰動詞	「1日の予定」から再帰動詞を学ぶ。					プリント8 1日の活動										
第9回	文法のまとめ	基本文法をおさらいしペーパーテストをする					プリント9 基本文法										
第10回	専門分野会話練習1	医療会話、栄養指導会話の練習1					プリント10 専門会話										
第11回	専門分野会話練習2	医療会話、栄養指導会話の練習2					プリント11 専門会話										
第12回	分野別会話練習	挨拶、自己紹介の例文を練習する					プリント12 挨拶										
第13回	分野別会話練習	旅行会話、買い物の例文を練習する					プリント13 旅行										
第14回	分野別会話練習	メニューオーダー、診察の例文を練習する					プリント14 メニュー										
第15回	分野別会話練習	栄養指導、レシピの読み方の例文を練習する					プリント15 栄養										
教科書	自作教材をまとめて配布する。																
参考書	自作教材																
成績評価	単位認定 60点以上、オーラル・テスト(50%)、文法テスト(50%)																
授業時間外の学習	辞書や携帯の辞書機能、翻訳サイトを活用して単語や文を調べて臨む。旅行番組で知識を増やす。																
履修のポイント	スペイン語の簡単な発音になれる。文法は英語と比較して特色を知る。会話は楽しく練習する。																
オフィス・アワー	講義の前後、食堂にいるときに質問を受け付けます。Somos amigos (ソモス・アミゴス 我々は友達です) の精神で気楽に話しましょう。																

平成26年度 シラバス

科目名	ポルトガル語		担当者	伊勢島セリア明美	学科	栄養学科・看護学科	開講期	後期									
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日										
		(時間)	(30時間)	時限													
授業の概要	基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認します。最後に簡単な会話の練習を行います。																
学習目的	ポルトガル語に親しみを感じて頂き、又、異文化に触れる目的とします。																
到達目標	挨拶を初め、初步の会話を身に付けて頂ければと思います。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	Como é seu nome? お名前は？	アルファベット、挨拶、基本構文															
第2回	Eu sou japonês. 私は日本人です。	ser動詞（～です）、否定文、疑問文、出身地を表す前置詞 de															
第3回	Meu pai é professor. 父は教師です。	所有形容詞とその変化															
第4回	Meu irmão é alto. 兄は背が高いです。	形容詞とその変化															
第5回	O português é mais difícil do que o japonês? ポルトガル語は日本語より難しいですか。	定冠詞、比較の表現															
第6回	Quantos anos você tem? 何歳ですか？	ter動詞（～持っている）、数詞、名詞の数															
第7回	Eu gosto de estudar. 私は勉強が好きです。	gostar動詞（好く）、preferir動詞（～[の方を] 好む）															
第8回	Eu quero um computador preto. 黒いパソコンがほしいです。	不定冠詞、querer動詞（～ほしい）、色の表現															
第9回	Meu celular está na bolsa. 私の携帯電話は鞄にあります。	estar動詞（～にいる・ある）、場所を表す前置詞 em															
第10回	Meu amigo vai à biblioteca. 友だちは図書室に行きます。	ir動詞（行く）、方向を表す前置詞 a、交通手段を表す前置詞 de															
第11回	A que horas você acorda? 何時に起きますか。	ar規則動詞の現在形、時間の表現															
第12回	Eu entendo português. 私はポルトガル語が分かります。	er規則動詞の現在形、同伴を表す前置詞 com															
第13回	Eu abro o email todos os dias. 私は毎日eメールを開きます。	ir規則動詞の現在形、月の名前															
第14回	Ele estudou português. 彼はポルトガル語を勉強しました	完全過去形、時を表す前置詞 em、曜日の名前															
第15回	Escreveremos uma carta. 私たちは手紙を書く予定です。	未来形															
教科書	プリントを配布します。																
参考書	ニューエクスプレス ブラジル ポルトガル語 (香川正子著 白水社)																
成績評価	単位認定 60 点以上 授業で行う練習問題40% 小テスト60%																
授業時間外の学習	プリントを基に予習と復習を行うことが望ましいです。																
履修のポイント	日本語や英語とは異なるポルトガル語特有の表現等を通して、新しい発見を楽しみながら挑むことです。																
オフィスアワー																	

平成26年度 シラバス

科目名	統計学		担当者	石井 広二	学科	看護学科	開講期	後期
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
(時間)	(30時間)							
授業の概要	統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのために必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。また、授業ではグループでの学び合いを行い、予習・復習ではMoodleを活用する予定である。							
学習目的	統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につける。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の概念を理解する ・標本を抽出し、度数分布表が作成できる ・データを集計し、各種統計量を求められる ・正規分布などの確率分布の特性を理解する ・母平均などの推定が行える ・統計的仮説検定の考え方を理解し、実際に母平均の検定などが行える 							
授業計画								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	統計学とは（1）	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法				電卓を持参すること		
第2回	統計学とは（2）	標本抽出、度数分布表の作り方 課題						
第3回	標本分布の特性値（1）	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方						
第4回	標本分布の特性値（2）	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方 課題						
第5回	まとめ	確認テスト①						
第6回	確率分布	確率分布の性質について						
第7回	正規分布	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて 課題						
第8回	標本平均の分布	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）と 標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方						
第9回	母平均の推定（1）	正規分布と母平均の推定 課題						
第10回	母平均の推定（2）	t分布 課題						
第11回	母平均の推定（3）	母平均の推定のまとめ						
第12回	仮説検定（1）	統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）						
第13回	仮説検定（2）	母平均に関する仮説検定の方法						
第14回	仮説検定（3）	母平均に関する仮説検定のまとめ 課題						
第15回	まとめ	講義のまとめ、確認テスト②						
教科書	「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）							
参考書	「ナースのための統計学」高木廣文（医学書院） 「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社） 「マンガでわかるナースの統計学」（オーム社）など							
成績評価	単位認定 60 点以上 課題への取り組み40%、確認テスト60%							
授業時間外の学習	事前に教科書やMoodleにアップされている資料を確認しておくこと 課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること（その際Moodleを積極的に利用すること）							
履修のポイント	数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。講義には電卓『平方根の機能がついたもの！』を持参すること。							
オフィス・アワー	曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。							

平成26年度 シラバス

科目名	情報処理基礎演習		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
		(時間)	(30時間)	時限												
授業の概要	我々の生活や仕事が情報化によって変化している。病院では、患者に関する情報がコンピュータによって処理されている。ICT「情報通信技術」時代の要請にそって、情報処理の教育は必要である。ここで、コンピュータやネットワークの利用を通して、情報処理を学ぶ。演習を通して、コンピュータの基本的な操作法を習得する。更に、インターネットに関する知識や技術も習得する。															
学習目的	アプリケーションソフト (Office 2010 : Word, Excel, Powerpoint) やインターネットに関する知識や技術を習得するとともに、コンピュータリテラシーを向上すること。															
到達目標	①コンピュータの基本構成を理解の上で基本操作を習得する。 ②アプリケーションソフトの基本機能を理解し、基本的なスキルを習得する。 ③インターネットを利用した情報検索や情報発信を学び、インターネットを使いこなす。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	オリエンテーション パソコンの基本操作		パソコンの構成とソフトウェア、WindowsOSの基礎知識、基本操作、Eメールのアカウントの設定													
第2回	Wordの活用 (1)		Wordの基本操作、基本編集、													
第3回	Wordの活用 (2)		文書作成、表と罫線、オブジェクトの処理													
第4回	Wordの活用 (3)		論文・レポートの書き方													
第5回	インターネットの利用		インターネットの概要、Webブラウザと検索、本大学の図書館資料検索 (OPAC)													
第6回	Wordの実技		実技テスト (Word)													
第7回	PowerPointの活用 (1)		プレゼンテーションの概要、スライドの作成													
第8回	Excelの活用 (1)		表計算とは、表の作成、数式の入力と編集													
第9回	Excelの活用 (2)		関数の使い方、グラフの作成													
第10回	Excelの活用 (3)		データベース													
第11回	Excelの活用 (4)		数学/三角関数、統計関数、論理関数													
第12回	Excelの活用 (5)		集計と分析													
第13回	Excelの実技		実技テスト (Excel)													
第14回	Webによる情報発言		HTMLの基本構成とタグ ソーシャルメディアの利用													
第15回	情報倫理		知的財産権、著作権、個人情報、情報セキュリティ													
教科書	Office2010で学ぶコンピュータリテラシー /Windows7対応 ISBN978-4-407-32242-2 小野目 如快 実教出版															
参考書	Windows7・Office2010による情報処理入門 ISBN978-4-407-32165-4 高橋 敏夫 実教出版															
成績評価	単位認定 60 点以上 課題 (40%)、実技テスト (60%) で評価する。 *定期試験を実施しない。															
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。															
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。															
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室: 9号館 3F, 第12研究室 (情報環境研究室)															

平成26年度 シラバス

科目名	医療保健論		担当者	小此木久美子	学科	看護・栄養学科	開講期	後期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(15時間)	時限													
授業の概要	保健医療福祉行政は国民の生活と深く関わっており、高齢化という社会環境の中で大きな転換を求められている。このような中で地域社会のいかなる要因が、健康に影響を及ぼすかについて学び、保健・医療・福祉・栄養に従事する専門職者としての役割期待について理解し基礎知識及び最新情報を学習する。															
学習目的	保健医療福祉行政のしくみを理解しながら、専門職として保健医療福祉における課題を達成するために、基盤となる考え方と方法論を学ぶ。															
到達目標	社会において保健医療福祉が果たしてきた役割と今後のあるべき将来像を理解できる。及び社会において保健医療福祉の現状・課題について看護・栄養専門職としての視点を、理解し課題を達成するため果たす役割について理解できる。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	医療保健論とは		歴史的変遷について学習する													
第2回	医療保健福祉計画		国及び地方自治体の計画について													
第3回	医療のしくみ		保健医療の現状と課題													
第4回	社会保障のしくみ		社会保障の現状と課題													
第5回	保健医療福祉の連携		在宅福祉サービスの考え方と新たな視点													
第6回	保健医療福祉計画①		地域計画の進め方事例を通して考える													
第7回	保健医療福祉計画②		地域計画の進め方事例を通して考える													
第8回	今後の課題		計画の評価 専門職の果たす役割まとめ													
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	授業レジュメを配布する															
参考書	国民衛生の動向・こくみんの福祉と介護の動向・保険と年金の動向															
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験 60 % 課題レポート提出 40 %															
授業時間外の学習	概論は幅広く日々新聞情報に関心を持ちレポート課題に取り組むこと。															
履修のポイント	保健医療福祉の連携専門職として基礎的学習が必須。関連図書を読むこと。															
オフィス・アワー	研究室在室は対応します。															

平成26年度 シラバス

科目名	早期体験合同実習		担当者	小此木久美子・高橋東生 中山優子・林圭子・内田真理子	学科	看護・栄養学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(時間)	(45時間)	時限												
授業の概要	学習初期の時期に対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。また、自己の専攻する専門職の役割について考えることで、今後の学習の動機づけとし、主体的に学ぶための方法を理解する。看護学科・栄養学科合同実習とすることで、自己理解とともに、専攻の異なる学生間で認識を共有し、チーム連携の重要性を知る機会とする。															
学習目的	対象者の立場から、医療・保健施設の現場を知り、施設を利用している人々と関わることを通して、対象者について理解を深める。自己の専攻する専門職の役割について考え、今後の学習の動機づけとする。また、実習を通して学生間で認識を共有する。															
到達目標	1. 対象者の立場から、医療施設のサービスを観察する。 2. 医療施設のサービスを受ける対象者を観察し、その特徴を知る。 3. 看護師および管理栄養士の活動を観察し、その役割を知る。 4. 各専門職の役割を知り、その連携について考える。 5. 今後の学習上の課題を明らかにする。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	学内実習		オリエンテーション・事前課題													
第2回	学内実習		グループ別演習													
第3回	臨地実習		対象者の立場から医療施設のサービスを観察する													
第4回	臨地実習		看護師・管理栄養士の活動を知る													
第5回	臨地実習		各専門職の活動を知り、連携について考える													
第6回	学内実習		グループ別演習・実習のまとめ													
第7回																
第8回			* 詳細は早期体験合同実習要項参照													
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	使用せず															
参考書	鷹野和美編著：チーム医療論、医歯薬出版株式会社															
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照															
授業時間外の学習	事前課題を行ない、臨地実習前のグループワークおよび臨地実習に臨む必要があります。さらに、臨地実習では、日々学んだことを記録し、次の日の学習目標を明確化すること、さらにこの授業で学んだことについてレポート作成します。															
履修のポイント	事前学習、グループワーク、臨地実習で構成されています。臨地実習前の事前学習やグループワークが重要です。積極的に各々参加してください。															
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能Ⅰ		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	前期									
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日										
		(時間)	(60時間)				時限										
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らなければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。																
学習目的	上記を理解すること																
到達目標	日常的な人間活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて日常活動を説明できる。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	人体の構造・機能の概説	学問の対象、学習方法、解剖学と生理学の歴史															
第2回	基礎知識－1	細胞・組織の構造と機能															
第3回	基礎知識－2	染色体とゲノム、核酸とタンパク質合成															
第4回	基礎知識－3	人体の方向、位置を示す用語、人体の区分															
第5回	基礎知識－4	体液とホメオスタシス															
第6回	体の支持と運動－1	骨格、骨の連結、骨格筋															
第7回	体の支持と運動－2	体幹の骨格と筋肉															
第8回	体の支持と運動－3	上肢と下肢の骨格と筋肉															
第9回	体の支持と運動－4	頭頸部の骨格と筋肉															
第10回	体の支持と運動－5	筋収縮の分子機構															
第11回	栄養の消化と吸収－1	口、咽頭、食道の構造と機能															
第12回	栄養の消化と吸収－1	腹部消化管の構造と機能															
第13回	栄養の消化と吸収－1	肝臓の構造と機能															
第14回	栄養の消化と吸収－1	脾臓、胆嚢の構造と機能															
第15回	前期のまとめと復習	上記の内容すべて															
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学		坂井建雄・岡田隆夫編集		医学書院												
参考書	1) カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店		2) カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店														
成績評価	中間試験と期末試験を行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。問題形式は看護師国家単位認定 60点以上 試験と同一の多岐選択問題などとし、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。																
授業時間外の学習指導	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。																
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないで、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。																
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。																

平成26年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能 II		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	前期							
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日								
	(時間)	(時間)	(30時間)	時限											
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らないかもしれません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。														
学習目的	上記を理解すること														
到達目標	日常的な人間活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて日常活動を説明できる。														
授業計画															
回	主 题		授 業 内 容				備考								
第1回	呼吸と血液の循環－1		呼吸器の構造												
第2回	呼吸と血液の循環－2		呼吸気量、ガス交換、呼吸運動調節、呼吸器系の病態生理												
第3回	呼吸と血液の循環－3		心臓の構造												
第4回	呼吸と血液の循環－4		心臓の拍出機能、心電図、血圧、心周期												
第5回	呼吸と血液の循環－5		末梢循環器系の構造												
第6回	呼吸と血液の循環－6		血液の循環とその調節												
第7回	呼吸と血液の循環－7		血液、リンパ液、血液凝固と線維素溶解、血液型												
第8回	体液の調節と尿の生成－1		腎臓の構造、尿生成のメカニズム												
第9回	体液の調節と尿の生成－2		尿の貯蔵と排尿の仕組み												
第10回	体液の調節と尿の生成－3		体液の調節、酸塩基平衡、電解質異常												
第11回	内臓機能の調節－1		自律神経と内分泌系による調節												
第12回	内臓機能の調節－2		内分泌腺とホルモン												
第13回	内臓機能の調節－3		ホルモンの分泌調節												
第14回	内臓機能の調節－4		ホルモンによる調節の実際												
第15回	前期のまとめと復習		上記の内容すべて												
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学			坂井建雄・岡田隆夫編集	医学書院										
参考書	1) カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店			2) カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店											
成績評価	中間試験と期末試験を行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。問題形式は看護師国家単位認定 60点以上 試験と同一の多岐選択問題などとし、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。														
授業時間外の学習指導	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。														
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないで、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。														
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。														

平成26年度 シラバス

科目名	人体の構造と機能Ⅲ		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期							
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日								
	(時間)	(時間)	(30時間)	時限											
授業の概要	看護にたずさわるには、各種疾患の病態を正し把握するための非常に多くの知識が必要です。そのなかで、正常の体の構造や機能を知ることも大変重要です。骨格、筋肉、各種の臓器、血管系や神経系、さらに感覚器や内分泌腺などが、体のどこに存在し、どのような形をし、それらがどのように統合されているかを知らないければなりません。この様な体の構造に加え、看護では生きた人体を扱わなければならないので、たえず働いている各種の臓器・組織の機能も知る必要があります。例えば血管の中は絶えず血液が流れ、神経も絶えず情報を送っており、さらに目に見えないホルモンなどにより、体の機能が微妙にかつ精巧に調節されています。その結果として生命や健康を維持するうえで重要な体の内部環境が最も好適な条件に保たれています。このように「人体の構造・機能」は人体についての知識の基礎をなすものであり、病気の理解にも看護の実際にも基礎となる学問です。														
学習目的	上記を理解すること														
到達目標	日常的な人間活動において、体の中で絶え間なく行われている物質代謝が具体的にどの臓器組織でどの様に行われているかを理解し、その理解に基づいて日常活動を説明できる。														
授業計画															
回	主題		授業内容				備考								
第1回	前期の復習－1		消化器、呼吸器、循環器												
第2回	前期の復習－2		血液、腎・泌尿器、運動器、内分泌												
第3回	情報の受容と処理－1		神経系の構造と機能、脳の構造と機能—脳幹、間脳、小脳												
第4回	情報の受容と処理－1		脳の構造と機能—大脳、脳室と脛膜、脛液の循環												
第5回	情報の受容と処理－1		脊髄の構造と機能、脊髄神経と脳神経												
第6回	情報の受容と処理－1		脳の高次機能												
第7回	情報の受容と処理－1		上行性伝導路、下行性伝導路												
第8回	感覚器の構造と機能－1		眼の構造と機能												
第9回	感覚器の構造と機能－2		耳の構造と機能、味覚、嗅覚、痛覚												
第10回	外部環境からの防御－1		皮膚の構造と機能												
第11回	外部環境からの防御－2		生体の防御機構												
第12回	生殖・発生のしくみ－1		男性生殖器												
第13回	生殖・発生のしくみ－2		男性生殖器												
第14回	生殖・発生のしくみ－3		受精、胎児発生、成長と老化												
第15回	前後期のまとめと復習		前後期に授業をした内容のすべて、特に各項目の重要事項について												
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学			坂井建雄・岡田隆夫編集	医学書院										
参考書	1) カラー人体解剖学 井上貴央監訳 西村書店			2) カラー基本生理学 坂東武彦、小山省三監訳 西村書店											
成績評価	中間試験と期末試験を行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。問題形式は看護師国家単位認定 60点以上 試験と同一の多岐選択問題などとし、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。														
授業時間外の学習指導	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。														
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないで、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。														
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。														

平成26年度 シラバス

科目名	人体の生化学		担当者	榮 昭博	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日	
			(時間)	(30時間)			時限	

授業の概要 生体を構成する成分・分子理解しするために、糖、脂質、タンパク質についてその化学を学びさらに消化吸収・代謝・排泄を学ぶ。また、代謝などを調節する内分泌や遺伝子とその働きも学ぶ。

学習目的 人体の構造と機能、特に各栄養素の働きを生化学的に理解することを目的としている。

到達目標 生体を構成する分子の構造・機能を理解する。また、各分子の代謝を理解する。さらに遺伝子・遺伝情報発現に関するこころを理解する。

授業計画

回	主 题	授業内容	備考
第1回	生化学の概要	化学の基礎と生化学を概説する。また、国家試験における生化学の概要についても解説する	
第2回	糖質の構造と性質	糖の化学、単糖・少糖・多糖の種類、特にグルコースの構造を理解し、糖の化学的性質との関連をみる。	
第3回	脂質の構造と性質	脂質の分類と定義、脂肪、複合脂質、ステロイドについて学ぶ。	
第4回	脂質の構造と性質（2）	コレステロール・リポタンパク質について学ぶ。	
第5回	蛋白質の構造と性質	アミノ酸およびペプチドの構造と性質について学ぶ。	
第6回	核酸	塩基、ヌクレオシドとヌクレオチド、DNAとRNAの構造と機能について学ぶ。	
第7回	水とミネラル	水の機能と役割、ミネラルの機能について学ぶ。	
第8回	ビタミン（1）	脂溶性ビタミンを中心にその種類と生理作用について学ぶ。	
第9回	ビタミン（2）	主に水溶性ビタミンの種類と生理作用について学ぶ。	
第10回	ホルモンと生理活性物質Ⅰ	ホルモンの定義、ホルモンの種類、作用を学ぶ。	
第11回	ホルモンと生理活性物質Ⅱ	7回に続きホルモンを学び、サイトカインについても学ぶ。また、内分泌疾患の一部を学ぶ。	
第12回	糖代謝	グリコーゲンおよびグルコース代謝（解糖・TCAサイクル）などについて学ぶ。	
第13回	脂質代謝	脂質の消化吸収、脂肪酸・脂質の生体内の動向および代謝について学ぶ。	
第14回	蛋白質代謝	蛋白質の消化吸収・アミノ酸の代謝について学ぶ。	
第15回	遺伝情報とその発現	遺伝子による複製・転写・翻訳および蛋白質合成について学ぶ。	

教科書	『系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能[2] 生化学』医学書院
参考書	
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験 100 %
授業時間外の学習	事前の学習と授業終了後に、講義ノートを作成すること。両方併せて週4時間以上学習すること
履修のポイント	化学の知識を必要とするので化学(特に有機化学)を復習しておくことが望ましい。
オフィス・アワー	授業開講日の12：30～13：20に11号館3階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。

平成26年度 シラバス

科目名	疾病の成り立ち		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(30時間)					時限									
授業の概要	疾病的成り立ち（病理学Pathology）とは病気の本質について研究する医学の一分野であり、病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を調べる事により、病気の本態を研究する学問である。したがって、病理学は解剖学、細胞生物学、生理学、生化学などの基礎の上に存在し、他方では臨床医学と密接な関係を持っている。この意味で病理学は医学の一分野と言うより、総合医学とみなすべきであり、臨床医学における診断や治療のみならず看護学の実践も病理学を基礎として行われている。つまり、皆さんのが今後、看護学を学ぶ上で大変重要であり、基礎となる学問です。															
学習目的	上記を理解すること															
到達目標	病気の過程、つまり病気の原因、発生の仕組み、経過、転帰といった一連の過程を病理総論的に理解し、看護の実践に必要な基礎的知識として理解する															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	病理学の概要		疾病の種類と概要、病理学の歴史													
第2回	細胞、組織の障害		細胞障害、壞死、アポトーシス、萎縮													
第3回	組織修復		再生、化生、肉芽組織、肥大と過形成													
第4回	循環障害		うつ血、充血、血栓症、塞栓症、浮腫、脱水、ショック													
第5回	炎症		急性炎症と慢性炎症													
第6回	免疫とアレルギー		自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫													
第7回	代謝異常、先天性異常		糖代謝異常、脂質代謝異常、蛋白代謝異常、先天性異常													
第8回	腫瘍		腫瘍の分類、腫瘍の形態と発育、腫瘍の原因、腫瘍の疫学													
第9回	脳神経系の疾患		脳血管障害、変性疾患、頭蓋内圧亢進症													
第10回	循環器系の疾患		先天性心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化と高血圧症													
第11回	呼吸器系の疾患		呼吸不全を起こす疾患、呼吸器の炎症、呼吸器の腫瘍													
第12回	消化器系の疾患		消化器の炎症、消化器の腫瘍、肝炎、肝硬変、肝癌													
第13回	造血器の疾患		貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髓腫													
第14回	腎泌尿器疾患		糸球体腎炎、ネフローゼ症候群													
第15回	授業のまとめと復習		授業をした内容のすべて、特に各項目の重要事項について													
教科書	系統看護学講座、病理学疾病のなりたちと回復の促進1、医学書院															
参考書	レビュー ブック、岡庭 豊編集、メディクメディア発行															
成績評価	中間試験と期末試験を行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。問題形式は看護師国家単位認定60点以上試験と同一の多岐選択問題などとし、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。															
授業時間外の学習指導	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。															
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないで、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。															
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。															

平成26年度 シラバス

科目名	感染と防御		担当者	瀬野尾 章	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(30時間)					時限									
授業の概要	微生物としての最近、真菌、原虫、ウイルスなどについて、その一般的性状と、各種微生物によって引き起こされる代表的な感染症について分りやすく講義する。また、感染防御の基礎となる免疫機構についても概説するとともに、感染予防のための滅菌、消毒、予防接種や、感染症治療のための化学療法剤などについても概要を講義する。															
学習目的	上記を理解すること															
到達目標	病原微生物の種類と特徴、感染症とはどのようなものか、感染症予防などの事項を基礎的知識として理解する															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	微生物と人間		微生物とはなにか、微生物の発見と歩み、細菌の形態と構造													
第2回	細菌、真菌の性質		細菌の増殖、遺伝、病原性、真菌の形態と構造													
第3回	原虫、ウイルスの性質		原虫の特徴と基本構造、ウイルスの特徴、構造、分類、増殖													
第4回	感染症とは		感染症の概念、感染のミカニズム、感染の予防													
第5回	感染の予防、診断、治療		消毒と滅菌、病原体の検出、化学療法、薬剤耐性菌													
第6回	免疫－1		免疫とは、免疫に関与する細胞と組織、細胞性免疫と液性免疫													
第7回	免疫－2		抗体の構造と機能、抗体産生、補体													
第8回	免疫－3		抗原抗体反応、T細胞の分化と成熟、抗原認識													
第9回	免疫－4		サイトカイン、アレルギー、MHCと移植													
第10回	細菌感染症－1		グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌と球菌													
第11回	細菌感染症－2		グラム陽性桿菌、らせん菌、抗酸菌、嫌気性菌													
第12回	リケッチャ、クラミジア、真菌原虫感染症		マイコプラスマ、リケッチャ、クラミジア、真菌原虫感染症													
第13回	ウイルス感染症－1		DNAウイルス（アデノウイルス、ヘルペスウイルス他）													
第14回	ウイルス感染症－2		RNAウイルス（インフルエンザウイルス他）													
第15回	ウイルス感染症－3		レトロウイルス、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス													
教科書	微生物学、牛島廣治・西條政幸編集、医学芸術社、ISBN987-4-87054-317-1															
参考書	レビューBOOK、岡庭 豊編集、メディクメディア発行															
成績評価	中間試験と期末試験を行い、合計平均点が60点以上を単位認定とする。問題形式は看護師国家単位認定 60点以上 試験と同一の多岐選択問題なども含むものとし、試験問題の難易度により、平均点や標準偏差値を考えて評価する。															
授業時間外の学習指導	授業時間外の学習がスムーズに行えるように、各項目が終了した時点で具体的な練習問題を配り、その成果を中間試験として確認する。															
履修のポイント	自分で教科書を読むだけでは、なかなか正しい理解が得られないで、毎回授業に出席することが大切です。また、復習はきちんとしましょう。															
オフィス・アワー	随時可能。研究室（看護棟2階）にて対応します。															

平成26年度 シラバス

科目名	栄養学		担当者	竹下 登紀子	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	1学年	曜日									
							時限									
授業の概要	身体の成長発達や生命維持に必要な各種栄養素の代謝、生体へのエネルギー源としての栄養と生体機能との関連について学ぶ。また適切な食生活や栄養状態の判定法、各種の栄養素を供給する食品の知識について習得する。															
学習目的	栄養学の演習を通して栄養学の知識を習得する。															
到達目標	栄養学の知識を習得し、食と健康の関連を理解する。 対象者に適した食生活支援について理解する。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	栄養学の基礎知識		オリエンテーション													
第2回	健康と栄養		わが国の健康・栄養問題について													
第3回	日常生活と栄養		食生活指針、運動指針、食事バランスガイドについて													
第4回	栄養指導・保健指導①		食生活、栄養状態の評価方法について													
第5回	栄養指導・保健指導②		栄養指導・保健指導について													
第6回	食物と栄養①		食品の種類と栄養素について													
第7回	食物と栄養②		消化と吸収について													
第8回	食物と栄養③		食事摂取基準2010年度版について													
第9回	ライフステージと健康①		妊娠期・授乳期の疾病と栄養について													
第10回	ライフステージと健康②		成長期の疾病と栄養について													
第11回	ライフステージと健康③		成人期の栄養について													
第12回	ライフステージと健康④		高齢期の栄養について													
第13回	疾患と食事①		疾患別に食事の特徴について学ぶ													
第14回	疾患と食事②		疾患別に食事の特徴について学ぶ													
第15回	まとめ		授業のまとめ													
教科書	わかりやすい栄養学 ヌーベルヒロカワ															
参考書	日本人の食事摂取基準2010年版、日本食品標準成分表2010															
成績評価	単位認定 60 点以上 本試験、提出物等を総合的に評価する															
授業時間外の学習	基本的には演習時間内での作業となります。課題の進捗状況により自宅での学習も必要となります															
履修のポイント	授業に連続性があります。また、修得度に合わせた内容変更もあるので欠席はしないこと															
オフィスアワー	担当教員の研究室前に掲示															

平成26年度 シラバス

科目名	臨床検査		担当者	立崎國男	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
		(時間)	(30時間)	時限												
授業の概要	現在の医療における臨床検査は、診断・治療効果の判定等に不可欠なものとなっている。医療の現場で看護師として知っておくべき臨床検査の基礎知識について学習することを目的とする。															
学習目的	特に、生命に直接影響する項目について「其の意義と注意すべき事項」について学習することを目的とする。															
到達目標																
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	「臨床検査」 臨床検査の役割		臨床検査の役割・種類・評価について (臨床検査・生体検査・単位等)													
第2回	臨床検査の評価 (結果の信頼性について)		臨床検査の制度管理について (正確度・感度・特異度・施設間差・制度管理調査・基準値)													
第3回	臨床検査の流れと看護師の役割 (検体前管理について)		検査の流れと検体採取について (検体前の注意・準備・説明・採取方法・採取容器等)													
第4回	臨床検査の流れと看護師の役割 (検体保存と事故防止)		採取検体の保管方法と感染事故防止について (材料別・検査項目別の保管と感染事故防止)													
第5回	「各論」 一般検査		尿検査・便検査の目的 (検査結果の意味と解釈)													
第6回	血液検査①		血液一般検査の概要について (採血時の注意点・抗凝固剤・検査項目)													
第7回	血液検査②		血液一般検査の概要について (各血球成分・白血球分類・凝固因子について)													
第8回	臨床化学検査①		臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (蛋白・血清酵素について)													
第9回	臨床化学検査②		臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (糖代謝・脂質検査・糖尿病・メタボについて)													
第10回	臨床化学検査③		臨床化学検査項目の測定意義と解釈 (肝機能検査・腎機能検査他について)													
第11回	免疫血清検査・輸血検査		免疫血清検査項目の測定意義と解釈、輸血検査 (免疫検査と輸血に関する留意事項について)													
第12回	腫瘍マーカー・ホルモン検査		腫瘍マーカーとホルモン検査の目的解釈 (項目別の注意事項と結果の解釈について)													
第13回	微生物検査		微生物検査の目的と諸注意 (検査内容・検体取り扱い方・結果の解釈について)													
第14回	病理検査・生理機能検査①		病理検査の意義と生理検査の基礎知識 (検体取り扱いの注意・生理検査で解ることについて)													
第15回	生理機能検査②・臨床検査総括		生理機能検査の実際と臨床検査のまとめ (心電図他)													
教科書	系統看護学講座 別巻6 (医学書院)															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上															
授業時間外の学習																
履修のポイント																
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	臨床薬理学		担当者	影山晴秋	学科	看護学科	開講期	後期									
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日										
	(時間)	(30時間)					時限										
授業の概要	疾患の治療において薬は重要な位置を占めている。薬は疾患の原因を取り除くために使用されるので、疾患の原因を理解しながら、薬理作用と病気の原因について、基礎知識を習得する。																
学習目的	薬物治療を行うために、必要な臨床薬理学の基礎知識を習得し、臨地実習や将来臨床の現場で役立つようとする。																
到達目標	疾患に対する代表的な薬物の薬品名、その薬理作用および副作用等を理解し、処方された薬から疾患を推測できるようとする。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	医薬品の総論	医薬品の総論（定義、エラーの予防）															
第2回	薬の作用・自律神経	医薬品の作用機序、自律神経															
第3回	抗炎症薬	アレルギーと炎症時に使用する医薬品															
第4回	血液・輸液	貧血、輸血と輸液に使う医薬品															
第5回	循環器疾患で使用する医薬品	降圧剤、狭心症・心筋梗塞心不全に使用する医薬品、利尿薬など															
第6回	呼吸器疾患で使用する医薬品	気管支喘息など															
第7回	消化器疾患で使用する医薬品 1	消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、泻下薬															
第8回	消化器疾患で使用する医薬品 2	止瀉薬、肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品															
第9回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 1	糖尿病、痛風、脂質異常症															
第10回	内分泌・代謝疾患で使用する医薬品 2	ホルモン薬															
第11回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 1	パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬															
第12回	中枢神経系の異常に対して使用する医薬品 2	向精神薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、麻酔															
第13回	抗菌薬	抗生素質、抗ウイルス薬など															
第14回	抗がん薬	様々な抗がん薬															
第15回	特殊な薬	解毒薬、消毒薬															
教科書	イラストで学ぶ薬理学（医学書院）																
参考書																	
成績評価	単位認定 60 点以上 期末試験や小テストで評価します。																
授業時間外の学習	講義ノートを自身で作りながら、復習しましょう。また生理学を基本としますので、あわせて復習して下さい。																
履修のポイント	教科書を使って、薬理作用を中心に講義していきます。だいたい教科書15ページくらいの速さで講義します。																
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10)																

平成26年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進II		担当者	影山晴秋 粕谷恵美子	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
		(時間)	(30時間)	時限												
授業の概要	人間の健康を傷害する要因である主な疾患を系統的に取り上げ、それらの病因、病態、診断法、治療法、予後について学習する。ここでは代謝機能・臓器制御系について学習する。 運動器疾患の看護に課されている課題について器官の機能上の特徴と、疾患によって生じる機能障害、運動障害を理解する。															
学習目的	1. 呼吸器・循環器・消化器・腎泌尿器の代表的な疾患の病因、病態とその治療法について理解する。代表的な疾患を知ることによって、よりよい看護ケアを行うための疾患について学ぶ。 2. 器官の機能上の特徴と、運動器疾患によって生じる機能障害・運動障害・及び派生する身体・心理・社会的な問題点を踏まえ、看護を行う際の援助の内容・方法を理解する。															
到達目標	病態と臨床検査成績の関連を理解し、病態に応じた症状の変化を理解し、説明できるようにする。 骨格系の解剖と生理、骨格筋の構造と機能を理解し、運動器疾患の特徴を理解する。 頻度の高い疾患について基礎的な知識を習得し、説明できるようにする。															
授業計画																
回	主 题		授 業 内 容				備 考									
第1回	消化器疾患（1）		食道と胃の疾患				影山									
第2回	消化器疾患（2）		小腸と大腸の疾患				影山									
第3回	消化器疾患（3）		肝・胆・脾の疾患				影山									
第4回	呼吸器疾患（1）		肺・気管の疾患				影山									
第5回	呼吸器疾患（2）		感染と腫瘍性疾患				影山									
第6回	循環器疾患（1）		心臓の疾患（1）				影山									
第7回	循環器疾患（2）		心臓の疾患（2）				影山									
第8回	循環器疾患（3）		血管の疾患				影山									
第9回	腎・泌尿器疾患（1）		腎障害（1）				影山									
第10回	腎・泌尿器疾患（2）		中間テスト				影山									
第11回	腎・泌尿器疾患（3）		尿路の疾患				影山									
第12回	腎・泌尿器疾患（4）		腫瘍性疾患				影山									
第13回	運動器疾患1		運動器の構造と機能（骨・関節・神経と筋肉・腱と韌帯）				粕谷									
第14回	運動器疾患2		外傷性運動器疾患（骨折（上腕骨骨折・変形性関節症）				粕谷									
第15回	運動器疾患3		内因性の運動器疾患（脊椎系疾患・腫瘍）				粕谷									
教科書	ナースに知ってほしい100の病気（メディカルレビュー社）、 成人看護学（10）運動器（系統看護学講座 専門分野）（医学書院）															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上 中間テストと期末試験を総合して判定します。															
授業時間外の学習	予習は各器官系の疾患の所を熟読し、講義ノートを作り復習を充分しましょう。人体の構造を自己ノートにまとめて整理する。															
履修のポイント	覚えるべき疾患が多いので、授業は早いです。頭で理解しながら、ノートを取るようにして下さい。															
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10) 実習のため不在にすることが多いので事前にメールで面談の調整をしてください。 Kasuya-e@kiryu-u.ac.jp															

平成26年度 シラバス

科目名	社会福祉学概論		担当者	原田 欣宏	学科	看護学科	開講期	後期									
区分	専門基礎科目	選択	単位	1単位	学年	1学年	曜日										
		(時間)	(15時間)				時限										
授業の概要	本講義では、人間の生活と社会のかかわりや、自助・互助・共助・公助の過程を理解し、そのうえで我が国の社会保障の仕組みを学ぶ。家族・地域を軸として、我が国の社会の変遷を視野に置き、とりわけ社会構造の変容により我が国が大きく変わってきたことを、それに伴い築いてきた社会保障の変化、今日的課題を明らかにする。																
学習目的	医療と福祉の連携が重要視されている中で、福祉職はどのような視点で支援を行っているのか理解することとする。																
到達目標	社会福祉・介護の土台となる我が国の社会構造・社会保障を理解する 具体的な事例を通して福祉の問題に対する支援の過程を理解する																
授業計画																	
回	主 題	授 業 内 容					備考										
第1回	社会の変容と福祉	市民権の確立と福祉国家の成立															
第2回	福祉と福祉政策	社会福祉の拡大と限定															
第3回	少子高齢化時代の福祉政策	福祉政策の調整と進展															
第4回	福祉政策における必要と資源	必要と福祉政策、必要の判定															
第5回	人権擁護と福祉政策	虐待に関する政策と実際の対応															
第6回	生活にかかわる政策	所得政策、雇用政策、教育、住宅															
第7回	福祉サービスの提供と援助活動	福祉サービスの利用過程、相談援助の原則															
第8回	福祉政策の課題と展望	社会不安と福祉政策の課題、地域福祉の政策と計画															
第9回																	
第10回																	
第11回																	
第12回																	
第13回																	
第14回																	
第15回																	
教科書	『チャレンジ現代社会と福祉』法律文化社 2012年6月発行																
参考書	なし																
成績評価	単位認定 60 点以上 復習テスト（毎回、授業冒頭に実施）60%以上で単位認定 ※授業態度を加味する																
授業時間外の学習																	
履修のポイント																	
オフィス・アワー																	

平成26年度 シラバス

科目名	看護学原論Ⅰ		担当者	齊藤敦子・加固正子	学科	看護学科	開講期	前期							
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日								
		(時間)	(15時間)				時限								
授業の概要	看護における対象理解の中で個別な価値観、信条や生活背景をもつ人について理解する。また、看護の対象としての人間の健康に関する定義を学ぶことで、実際の看護について理解を深める。														
学習目的	看護の歴史的発展や看護の基本概念である人間・健康・社会・看護について学習し、看護の成り立ちを理解する														
到達目標	1. 看護の歴史的発展を通して、看護概念の変遷を理解し、知識として修得できる 2. 看護職の目標・対象・役割と機能について学び、今後の学習に関連付けることができる 3. 看護の対象である人間の欲求・健康観・健康のとらえ方について理解し、自身の健康について振り返ることができる														
授業計画															
回	主題		授業内容				備考								
第1回	人間の欲求とは		「人間の欲求とは何か」を理論に基づいて学習する				齊藤								
第2回	健康観・健康のとらえ方		健康の定義を学習し、健康に障害をかかえた人への理解を深める				齊藤								
第3回	臨床援助とは		看護における援助について理解し、実際の看護と関連づけて考える				齊藤								
第4回	健康管理の重要性		看護者として、健康を保持するために自己管理の重要性を理解する				齊藤 小テスト(1)								
第5回	第1章 看護の起源		①職業としての看護の誕生 ②米国における職業的看護の誕生と発展 ③日本における職業的看護の発展				加固								
第6回	第1章5節 ナイチンゲールの誕生に寄せて		①フローレンス・ナイチンゲールの誕生と活動 ②「看護の日」の意味 ③ナイチンゲール誓詞とヒポクラテスの誓い				加固								
第7回	第2章 看護の概念		看護の諸定義				加固								
第8回	第3章 看護活動の場と看護実践		①保健医療システム ②保健医療福祉サービスの場 ③医療施設における看護 ④医療施設以外の看護の場と役割				加固 小テスト(2)								
第9回															
第10回															
第11回															
第12回															
第13回															
第14回															
第15回															
教科書	ライダー島崎玲子著：看護学概論 看護追求へのアプローチ 第3版、医歯薬出版株式会社														
参考書	指定なし														
成績評価	単位認定	60点以上	小テスト(1) 50点・小テスト(2) 50点、単位認定は総合得点が60点以上とする												
授業時間外の学習	自分の周囲の先輩や友人と自分はなぜ看護職を選んだのか話し合い、「看護」について視野を広げ、4年後の自分を想像してみましょう。														
履修のポイント	看護とは何かを先駆者の活動の歴史や関連学問から深く考え学ぶ授業です。														
オフィス・アワー	在室のときはいつでもどうぞ。10号館2階玄関側(斎藤)、同じくロッカ一側(加固)。														

平成26年度 シラバス

科目名	看護学原論Ⅱ (対象理解と看護理論)		担当者	池田 貴子	学科	看護学科	開講期	後期									
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日										
		(時間)	(15時間)				時限										
授業の概要	看護が専門職であるためには、科学的根拠のある看護実践が必要であり、看護理論は看護にその科学的根拠を与えていた。看護構築の初期に開発された理論と、看護理論を活用して対象理解について学ぶ。																
学習目的	看護理論の発展の歴史と看護理論の成り立ちや看護理論の機能と特徴を理解する。																
到達目標	1. 看護の概念と理論の意味と重要性を明らかにする。 2. 看護理念の構築の初期に開発された理論について学ぶ。 3. 興味・関心のある看護理論における対象理解の方法について特徴を明らかにする。 4. 看護理論を看護実践にどのように活用する学ぶ。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	学科目ガイダンス	学科目ガイダンス・看護理論に関連した用語の定義					講義										
第2回	看護理論概説	主な看護理論の発展過程と背景(フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン、シスター・C.ロイ、ドロセアE.オレムなど)					講義										
第3回	ヴァージニア・ヘンダーソン	課題 ①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習										
第4回	シスター・C.ロイ	課題 ①理論的背景、②看護理論の特徴、③対象理解					講義・演習										
第5回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習										
第6回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習										
第7回	看護理論家と看護過程	看護の対象を看護理論家はどのように捉え、看護実践に活用するかを学習する					講義・演習										
第8回	まとめ	各理論家の対象把握の特徴					講義・演習										
第9回																	
第10回																	
第11回																	
第12回																	
第13回																	
第14回																	
第15回																	
教科書	ワーフニア・ヘンダーソン著、湯浅より、小玉音洋丁訳「看護の基本となるもの」、日本看護協会出版会、ノイツ一島崎伸子著:看護学概論第2版-看護追及へのアプローチ、医歯薬出版株式会社。(2冊とも、看護学原論Ⅰで購入しているもの)																
参考書	都留伸子監訳:看護理論家とその業績第3版、医学書院、横尾京子:看護理論と看護過程、医学書院。																
成績評価	単位認定 60 点以上 課題についてのレポートと客観試験																
授業時間外の学習	看護理論的背景を理解するためには、時代背景や人としての理解も必要です。看護の歴史なども調べてましょう。																
履修のポイント	看護の対象を看護理論家はどのように捉えているか、自分はそれに対してどう考えるかと意見をもっていると授業が楽しくなると思います。																
オフィス・アワー	ikeda-ta@kiryu-u.ac.jp																

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学概論		担当者	池田／三木／林／阿久澤	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
	(時間)	(時間)	(15時間)				時限									
授業の概要	看護技術という概念や看護技術を構成する要素は何か、その対象を学習し、看護技術の修得が、より効果的な看護を展開するためにいかに重要であるか理解する。また、看護技術の提供に共通する安全・安楽の技術、対象を自立に向けて支援する技術など看護技術学Ⅰ～Ⅵの特徴をオムニバス方式で講義・演習を通して学習する。															
学習目的	1. 看護技術の概念、看護技術を構成する要素および、その対象を理解する 2. 看護技術の提供に共通する安全・安楽・自立に向けた教育的支援について理解する															
到達目標	1. 看護技術とはなにか、構成要素・対象・用語について説明する 2. 看護技術における安楽の意義、安楽確保の技術について説明する 3. 看護技術における安全の意義、安全管理の技術について説明する 4. 看護技術における自立に向けた教育的支援の意義、教育支援技術について説明する 5. 看護過程の基本について説明する															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	看護技術学概説		看護技術とはなにか？ 看護技術の構成要素とはなにか？ 看護技術の対象とは？ 看護技術の用語について				講義									
第2回	安楽確保の技術		安楽の意義、安楽な体位の基本				講義									
第3回	安楽確保の技術		ボディメカニクスの基本				講義									
第4回	安全管理の技術		安全の意義 療養環境における危険防止				講義									
第5回	安全管理の技術		感染予防の技術、日常的手洗い				講義・演習									
第6回	教育指導技術		自立に向けた教育的支援の意義				講義									
第7回	看護過程の基本		クリティカルシンキングとはなにか？				講義									
第8回	看護過程の基本		看護過程とはなにか？ 看護過程の5つの段階について				講義									
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編集 メディカルフレンド社															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験により評価															
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと															
履修のポイント	主体的に学習することを望む															
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅰ (生活行動支援技術)		担当者	三木／林／阿久澤／池田	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	(時間)	(60時間)	学年	1学年		
							曜日			
授業の概要	様々な健康レベルや環境下で生活している人々の生活環境を整え、自然治癒力を高めるための支援技術を学習する。その支援技術は、環境を調整する、清潔を保持する、栄養状態を保つ、呼吸や循環を整える、排泄の支援と調整、衣類の選択と更衣など対象の生活に必要な支援技術である。その技術は対象の生活機能を維持・促進し自立に向けて支援するための技術で、科学的根拠を基に学習する。									
学習目的	1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供する意義を理解する 2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を実施する 3. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明確にする									
到達目標	1. 自力で日常生活行動が行えない患者に、安全・安楽な日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を根拠とともに説明する 2. 自力で日常生活行動が行えない患者に、自立に向けた教育的支援を考慮した日常生活行動の援助を提供するための技術を行う方法を説明する 3. 決められた手順に則って日常生活行動の援助技術を実施する 4. 日常生活行動の援助の技術修得に向けた自己の課題を明示する									
回	主 题		授 業 内 容				備 考			
第1回	環境を整える技術		入院患者を取り巻く生活環境 病床環境の調整に必要な基礎知識 環境調整における看護の役割と看護技術 実習室の使用方法について				講義			
第2回										
第3回	ベッドメーキング						演習			
第4回			ベッドメーキング (課題レポート)							
第5回	活動・休息の援助技術		運動の意義と援助、休息の意義と援助、睡眠とその援助 移動の援助				講義			
第6回										
第7回	体位変換 移動		体位変換、車椅子・ストレッチャーでの移動 (課題レポート)				演習			
第8回										
第9回	環境整備 臥床患者のシーツ交換		病床の環境整備、臥床患者のシーツ交換 (課題レポート)				演習			
第10回										
第11回	衣生活の援助技術		衣生活の意義と援助方法				講義			
第12回	寝衣交換		寝衣交換 (課題レポート)				演習			
第13回	清潔の援助技術		清潔の意義と援助方法 皮膚の清潔・粘膜の清潔				講義			
第14回										
第15回	全身清拭		全身清拭 (課題レポート)				演習			
第16回										
第17回	洗髪 口腔ケア		洗髪、口腔ケア (課題レポート)				演習			
第18回										

平成26年度 シラバス

第19回	食生活の援助技術	食事の意義、食生活の基本的援助	講義		
第20回	食事介助	食事の援助方法 (課題レポート)	演習		
第21回	排泄の援助技術	人間にとっての排泄の意義、排泄のメカニズム、基本的援助	講義		
第22回					
第23回	排泄の援助 陰部洗浄	便器・尿器の當て方、陰部洗浄 (課題レポート)	演習		
第24回					
第25回	感染予防の技術	感染予防とは、感染予防の意義・重要性 スタンダードプリコーション	講義		
第26回					
第27回	感染予防の技術	日常的手洗い、無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の着脱 (課題レポート)	演習		
第28回					
第29回	技術テスト	実技試験	試験		
第30回					
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術ⅠⅡ メデカルフレンド社 基礎看護学 第3版 演習・実習に役立つ基礎看護技術 ヌーベルヒロカワ				
参考書					
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%				
授業時間 外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと (DVDの視聴を含む)。 演習終了時に配付する課題レポートに記述すること。 実習室を使用し、技術の練習をすること。				
履修の ポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる				
オフィス ・アワー					

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅱ (治療過程支援・症状緩和技術)	担当者	三木／林／阿久澤／池田	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日
		<th>[時間]</th> <td>(60時間)</td> <th data-kind="ghost"></th> <th data-kind="ghost"></th> <th>時限</th>	[時間]	(60時間)			時限
授業の概要	看護師は、医師の治療目標に向かって他の医療チームと協働で治療効果を上げる責任がある。治療過程を支援する技術は、特に安全に配慮した確実な技術や倫理的配慮が求められる。また、様々な症状、疼痛、発熱、呼吸困難、排泄障害などについて看護の視点で症状緩和方法について学習する。						
学習目的	1. 治療過程の支援に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な治療過程支援技術を提供する意義を理解する 2. 症状緩和に必要な看護技術の基本を理解し、安全・安楽な症状緩和技術を提供する意義を理解する 3. 安全・安楽な治療過程支援技術および、症状緩和技術を提供するための技術を実施する 4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明らかにする						
到達目標	1. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の目的・方法を説明する 2. 安全・安楽に治療過程支援技術および、症状緩和技術を行うための環境調整を実施する 3. 決められた手順に則って治療過程支援技術および、症状緩和技術を実施する 4. 治療過程支援技術および、症状緩和技術の修得に向けた自己の課題を明示する						
授業計画							
回	主 题	授業内容				備考	
第1回	バイタルイサン	バイタルサインとは? バイタルサインの観察方法、記録・報告				講義	
第2回							
第3回	バイタルイサンの測定					演習	
第4回		バイタルサインの測定・記録・報告 (課題レポート)					
第5回	呼吸・循環を整える技術	呼吸の意義、吸引(一時的・持続的) 酸素吸入療法、人工呼吸				講義	
第6回							
第7回	吸引、酸素吸入療法	一時的吸引法、酸素吸入療法 (課題レポート)				演習	
第8回							
第9回	排泄の援助技術	排便障害と援助方法、排尿障害と援助方法				講義	
第10回							
第11回	浣腸、導尿	グリセリン浣腸、一時的導尿 (課題レポート)				演習	
第12回							
第13回	食生活と栄養摂取の援助技術	経腸栄養法(経管栄養、胃瘻栄養)				講義	
第14回	経管栄養法	(課題レポート)					
第15回	与薬の技術	薬物療法の意義・目的、看護師の役割、患者の援助 与薬に関する基本知識				講義	
第16回							
第17回	検査に伴う看護技術	予約の援助に関する共通事項、各種与薬の援助方法				講義	
第18回		検査に伴う看護と検査の種類、血液検査(静脈血採血法)					

平成26年度 シラバス

第19回	静脈血採血法	静脈血採血の方法、感染性廃棄物の取扱い（課題レポート）	演習		
第20回					
第21回	各種注射法	筋肉内注射、点滴静脈内注射（課題レポート）	演習		
第22回					
第23回	症状緩和技術	症状緩和技術とは、代替療法とは 看護の視点からみた症状緩和方法	講義		
第24回					
第25回	足浴・マッサージ 罨法	足浴・マッサージ、冷罨法・温罨法（課題レポート）	演習		
第26回					
第27回	技術テスト	実技試験	試験		
第28回					
第29回	総合演習	総合演習（課題レポート）	演習		
第30回					
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術ⅠⅡ メディカルフレンド社 基礎看護学 第3版 演習・実習に役立つ基礎看護技術 ヌーヴェルヒロカワ				
参考書					
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 70%、実技試験 30%				
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと（DVDの視聴を含む）。 演習終了時に配付する課題レポートに記述すること。 実習室を使用し、技術の練習をすること。				
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる				
オフィス・アワー					

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅳ (看護過程演習)		担当者	三木	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日									
			(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	看護過程の展開は看護理論をもとに、対象にどのような問題点があるか、どのような看護ケアが必要か、どのような事象が展開されるかを予測的に説明することができる方法である。この科目は専門基礎で学んだ知識と看護学を統合する学生であり、既修学習した様々な知識を想起して、これからはじまる看護学各論の科目、特に臨地実習と関連させる方法論を学ぶ。															
学習目的	科学的な根拠に基づく、個別性のある看護を実践するための方法論を理解する															
到達目標	1. 看護過程とはなにか説明する 2. 看護過程の各段階とその機能を説明する 3. 看護過程の展開方法について説明する ①「アセスメント」を展開する方法、②「看護診断（問題の明確化）」を展開する方法 ③「計画」を展開する方法、④「実施」を展開する方法、⑤「評価」を展開する方法															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	看護過程概説 看護過程の各段階と機能		看護過程とは 看護過程の各段階と機能とは				講義・演習									
第2回	アセスメント		情報収集、分析				講義・演習									
第3回	アセスメント		情報収集、分析				講義・演習									
第4回	アセスメント		事例をもとにグループ学習 (課題レポート)				演習									
第5回	アセスメント		事例をもとにグループ学習 (課題レポート)				演習									
第6回	診断		看護診断（問題の明確化）				講義・演習									
第7回	診断		看護診断（問題の明確化）				講義・演習									
第8回	診断		事例をもとにグループ学習 (課題レポート)				演習									
第9回	中間試験 計画		中間試験 期待される成果とは				試験 講義・演習									
第10回	計画		看護活動の選択、ケア計画の立案				講義・演習									
第11回	計画		事例をもとにグループ学習 (課題レポート)				演習									
第12回	計画		事例をもとにグループ学習 (課題レポート)				演習									
第13回	実施		準備、活動、記録				講義・演習									
第14回	評価		目標達成の評価、ケア計画の修正、結果の伝達				講義・演習									
第15回	まとめ		看護過程のまとめ				講義・演習									
教科書	基本から学ぶ看護過程と看護診断 看護診断ハンドブック															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80% (中間試験20%、期末試験60%) 、課題レポート20%															
授業時間外の学習	次回の授業範囲について教科書を事前に読んでおくこと。示された課題について記録用紙に記述すること。															
履修のポイント	主体的・積極的な学習への取り組みがのぞまれる															
オフィス・アワー	10号館 2階 研究室7															

平成26年度 シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅰ (日常生活支援技術)		担当者	阿久澤／三木	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	1学年	曜日							
			(時間)	(45時間)			時限							
授業の概要	看護の対象である患者および患者をとりまく生活の場を理解し、実際に観察、コミュニケーションの技術を活用しながら、対象者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。また、看護の主要な対象である患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解し、看護が担う役割と責任について理解する。													
学習目的	看護者の立場から、コミュニケーションを通して患者がどのような健康上の問題をもって生活しているかを理解する。また、患者の基本的ニーズを満たすための援助の必要性を考え、日常生活行動の援助を実践する。本実習を通して看護の役割と責任について理解を深める。													
到達目標	1. 担当患者の日常生活行動を知り、健康状態との関連性を説明する。 2. 担当患者に必要な援助の理由を説明する。 3. 担当患者に必要な日常生活行動の援助について、原理・原則に基づき実施方法を計画する。 4. 患者に必要な日常生活行動の援助を実施する。 5. 患者に質の高い技術を提供するための看護師の責任について説明する。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	臨地実習		病棟オリエンテーション、日常生活行動の観察 カンファレンス											
第2回	臨地実習		日常生活行動および援助の観察、健康状態の観察、必要な援助を抽出、日常生活行動の援助計画立案											
第3回	臨地実習		日常生活行動の援助の実施 カンファレンス											
第4回	臨地実習		日常生活行動の援助の実施 カンファレンス											
第5回	臨地実習		日常生活行動の援助の実施 カンファレンス											
第6回														
第7回														
第8回														
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回														
教科書	使用せず													
参考書														
成績評価	単位認定 60 点以上 実習要項評価表参照													
授業時間外の学習	示された課題について指示された期限に提出する													
履修のポイント														
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	現代教職論		担当者	熊谷一乗	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期								
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	現代日本の学校教育において枢要な位置を占め、その実践上、決定的に重要な役割をはたしている教職について、その意義、制度、仕組み、歴史、さらに教職現場の実態、児童生徒・父母との対応、といった事項を取り上げ講義を行う。															
学習目的	教員免許の取得をめざすみなさんのために教職に関する理解を深め、教職に就く心構えを養うことを目的にしている。															
到達目標	第一に教師と教員との相違を明瞭に説明できることをめざしていただきたい。第二に教員養成と教員採用の仕組みを理解することを目標にしていただきたい。第三には、教師像の歴史的変遷について関心がもてるよう教職の歴史を学んでいただきたい。第四には、教職を制約している法規について理解を深めることである。最後に教育の現場で優れたリーダーシップが発揮できるように、教職の内容を理解し、その実務における教員の役割の遂行の仕方について授業の内容をヒントに考え、探究することである。															
授業計画																
回	主 题		授 業 内 容				備考									
第1回	学校と教職		組織の特色、学校教育における教職の位置、教職の意味。教育者と教師と教員と。													
第2回	教員の養成と採用		教員養成の制度、閉鎖性と開放性、現代日本の教員養成の仕組み、教育実習、免許法。													
第3回	教職の種別		学校段階別の教職、教科担当教員、養護教諭、栄養教諭、司書教諭等。													
第4回	教職の歴史		近代学校の成立と教職、日本における戦前期と戦後期。													
第5回	'教師像'の探究		明治期の教師像、尊師主義、教師聖職觀、戦後期の教師像、自由主義的教師像、教師労働者論、専門職教師觀、実務主義の教師觀、教育基本法の教師觀。													
第6回	教員の職務		教育課程の編成・実施、教科担任、学級担任、各種校務分掌、生徒指導、クラブ活動の指導。													
第7回	教職に関する法規		教職と法規、教育基本法、学校教育法、教職公務員特例法、地教行政法等。													
第8回	教師タイプと教員文化		'先生'と呼び合う社会、教師タイプ、教職指導のマニュアル・定型等。													
第9回	子ども・保護者との関係		教師感情—好き嫌い、敬慕、抵抗・反発、子どもの扱いかた。保護者の訴え、相談。													
第10回	教職の現場		協働関係、孤独な場面、上司との関係、葛藤、多忙さ、ストレス、悩み等。													
第11回	教育実践への取り組み		授業設計、授業の展開、テストの実施・評価、通知票作成、教育相談等。													
第12回	学校・学級の経営と教職		学校組織の特色、学級経営、学校の職制、学校経営への参加、学級経営の実務。													
第13回	教員の資質向上と研修		教員であることの資格、教職の専門性、教員の力量、教職のモラル、指導力不足の問題、法規に基づく研修、教員としての成長。													
第14回	教員の勤務条件と健康		勤務時間の問題、給与の問題、超過勤務、疾病による欠勤・休職の問題等。													
第15回	現代の学校と教職の課題		社会の変動・子どもの変化への対応、教育改革への対応、学力問題への対応等。													
教科書	使用せず															
参考書	小島弘道他、教師の条件、学文社 (TEL=03-3715-1501)、価格・2625円(税込) 授業の際、教室で指示。															
成績評価	単位認定 60 点以上 学期末の試験の成績と授業への取組等を総合して評価。															
授業時間外の学習																
履修のポイント	'教職に就く心構え'ができていること。															
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	教育心理学		担当者	亀岡聖朗	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期							
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	1学年	曜日								
	教職科目	(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれているのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、可能であれば学生による「模擬授業」を実施する予定である。														
学習目的	青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを目的とする。														
到達目標	1. 教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解する。 2. 青年期までの人の発達過程とその特徴について理解する。 3. 学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解する。 4. 「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシミュレーションする。														
授業計画															
回	主題		授業内容				備考								
第1回	ガイダンス 教育心理学で取り扱う問題		講義の進め方、成績評価のしかたなどについて 教育心理学で取り扱う内容について（発達・学習・教授）				1章								
第2回	人生初期の発達①		生涯発達（発達の理論）、人間発達の共通性、社会性発達の芽生え				2章・3章・6章								
第3回	人生初期の発達②		認知の発達、発達の最近接領域				2章・4章								
第4回	青年期の発達①		青年期の心理的特徴、適応と不適応、適応機制				5章・12章								
第5回	青年期の発達②		青年期の発達課題、アイデンティティの獲得について				5章								
第6回	障がいの理解		障がいの種類、障がい児・者の理解と対応				15章								
第7回	さまざまな学習理論①		連合説（刺激一反応の結びつき）による学習のしくみと認知説（認知の変容）による学習のしくみ				7章								
第8回	さまざまな学習理論②		授業における学習指導の理論、学習の個性化				8章								
第9回	学習の規定因①		動機づけの理論、動機づけを高めるためには				8章								
第10回	学習の規定因②		個性を反映するものとしての性格～性格理論、性格検査				9章・11章 ※実習を含む予定。								
第11回	学習の規定因③		個性を反映するものとしての知能～知能の構造、知能検査、創造性				10章								
第12回	学校教育相談		生徒指導と教育相談、教育相談のあゆみとその方法				13章・14章								
第13回	教育測定と教育評価		評価の意義と工夫、絶対評価と相対評価の違い、学力のとらえ方				11章								
第14回	教授技法①		教える技術、伝える技術、授業づくり 模擬授業体験①（模擬授業についての説明と計画）				※実習を含む予定。受講者数により授業内容を調整することあり。								
第15回	教授技法②		模擬授業体験②（体験学習；発表）				※実習を含む予定。受講者数により授業内容を調整することあり。								
教科書	藤田圭一・齊藤雅英・宇部弘子編『新 発達と教育の心理学』福村出版														
参考書	適宜紹介する。														
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験85%、レポート・課題15%														
授業時間外の学習	各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となる。配布資料・ノートのまとめを復習として勤める。主題により、復習のためのレポート課題を課すことがある。														
履修のポイント	授業への積極的な取り組みを期待する。														
オフィス・アワー	11号館3階第8研究室にて、もしくは講義終了後などに、適宜設ける。														

平成26年度 シラバス

科目名	家族関係論		担当者	篠原貴子	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期		
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
		(時間)	(30時間)	時限						
授業の概要	本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。									
学習目的	家族の概念や歴史について学び、近代以降の展開を捉える。									
到達目標	家族のあり方について、新たな視点と問題意識をもつことを目的とする。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	イントロダクション	家族への着目	
第2回	家族の歴史	近代社会と家族	
第3回	家族研究の展開	家族研究の主題と方法	
第4回	生命の誕生と家族	子どもの誕生と家族の役割	
第5回	戦前日本の家族Ⅰ	近代国家における家族	
第6回	戦後日本の家族Ⅱ	大衆化と女性の社会進出	
第7回	女性の役割	女性のライフコース	
第8回	家族イメージ	メディアにおける家族・女性像	
第9回	結婚観	恋愛結婚の誕生、未婚化・晩婚化	
第10回	家族の変容	セクシャリティの問題	
第11回	現代の家族Ⅰ	家族が抱える子の問題(不登校、ひきこもり、児童虐待など)	
第12回	現代の家族Ⅱ	夫婦関係の問題	
第13回	家族と制度	育児支援の政策と展開	
第14回	家族と地域	孤立する家族	
第15回	まとめ	家族の未来	
教科書	必要な資料は隨時配布		
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。		
授業時間外の学習			
履修のポイント			
オフィス・アワー			

平成26年度 シラバス

科目名	スポーツ科学II (トレーニングの方法)		担当者	高見 達也	学科	看護学科	開講期	前期												
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位	学年	2学年	曜日													
	教職に関する科目	必修		(30時間)			時限													
授業の概要	運動は健康で生き生きと過ごすために欠かせない大切な要素の一つである。生涯を通じて運動に親しみ実践していくかは青年期の取り組み如何による。基礎的な体力づくりのためのトレーニング方法の理論を学び、また運動実践能力を高めていく。更に、スポーツ活動を通じて心身を鍛え、スポーツコミュニケーションの追及、スポーツ実践による自己確認、技術の習熟による興味の拡大、スポーツ文化の理解を深める。																			
学習目的	自己身体運動の理解と分析																			
到達目標	基本トレーニングの方法論の習得。 グループワークにより、練習計画をたてるとともに、より高い技術の習得をめざす。																			
授業計画																				
回	主題	授業内容				備考														
第1回	オリエンテーション	授業概要、諸注意、メディカルチェック 体力と身体機能				運動着(ジャージ・スウェット等)、体育館シューズを用意してください。														
第2回	総合運動能力測定	運動能力測定の方法と実施																		
第3回	総合運動能力測定	運動能力測定の実施 測定結果発表																		
第4回	運動処方 トレーニング方法	運動能力測定結果に基づき、運動の種類・強さ・持続時間・頻度を示し、運動時の注意点を明確にする。																		
第5回	球技I	バドミントンの実践(基礎練習・ゲーム①)																		
第6回	球技I	バドミントンの実践(ゲーム②)																		
第7回	球技I	バドミントンの実践(ゲーム③)																		
第8回	球技I	バドミントンの実践(ゲーム④)																		
第9回	球技I	バドミントンの実践(ゲーム⑤)																		
第10回	球技II	バスケットボールの実践(基礎練習)																		
第11回	球技II	バスケットボールの実践(基礎練習・ゲーム①)																		
第12回	球技II	バスケットボールの実践(ゲーム②)																		
第13回	球技II	バスケットボールの実践(ゲーム③)																		
第14回	球技II	バスケットボールの実践(ゲーム④)																		
第15回	有酸素トレーニングの実践	上肢・下肢のトレーニング(エアロビクス、サーフィットトレーニング)																		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。																			
参考書																				
成績評価	単位認定 60 点以上 授業の取り組み、ゲーム内容で総合評価する																			
授業時間外の学習	基本的なルールについて学習をし、体力・技術の弱点を克服するように努めること。																			
履修のポイント																				
オフィス・アワー																				

平成26年度 シラバス

科目名	人間工学		担当者	浅川康吉、関口学、村田綱志	学科	看護学科 栄養学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	選択	単位	2単位	学年	2学年	曜日									
	(時間)	(時間)	(30時間)	時限												
授業の概要	人間の運動機能や動作特性について理解を深めるとともに、障害者や高齢者にとっての使いやすさの観点から社用具の活用や住環境の整備の方法を学ぶ。															
学習目的	日常生活動作の特性および福祉機器、住環境に関して看護・介護分野などで役立つ実践的知識を習得する。															
到達目標	看護・介護分野における人間工学の活用について理解を深める。 適切な福祉機器を選択したり、住環境を整備するための基礎知識を得る。 患者や障害者の生活の利便性、安全性、快適性を向上させるための人間工学の活用について考える。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	姿勢の観察		(オリエンテーション) 重心と姿勢、バランスについて学ぶ				浅川									
第2回	高齢者・障害者体験		高齢者体験キットをつけて杖歩行や階段昇降などを体験してみる (グループワーク)。				浅川									
第3回	安全な住環境		住宅内における事故予防について学ぶ				浅川									
第4回	快適な住環境		要介護者、介護者にとっての快適な住まいについて学ぶ				浅川									
第5回	フィールドワーク (調査・討論)		障害者、高齢者の立場からキャンパス内の建造物、環境を見直す (グループワーク)。				浅川									
第6回							浅川									
第7回	関節可動域		関節の構造と可動域について学ぶ				関口									
第8回	日常生活動作と関節可動域		日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ				関口									
第9回	筋力		筋肉の種類と筋力評価について学ぶ				関口									
第10回	日常生活動作と筋力		日常生活に必要な筋力について学ぶ				関口									
第11回	歩行		歩行の動作分析について学ぶ				村田									
第12回	歩行障害		歩行補助具の種類と杖歩行のパターンについて学ぶ				村田									
第13回	歩行補助具		車いすの基本構造と駆動方法について学ぶ				村田									
第14回	車いす		車いす利用者、杖利用者の生活空間について学ぶ				村田									
第15回	まとめ		これまでの授業内容のまとめ。				浅川									
教科書	なし (授業時に資料を配布する。)															
参考書	なし (授業時に適宜紹介する。)															
成績評価	単位認定 60 点以上															
授業時間外の学習																
履修のポイント																
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	実践英会話		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	英語のlistening能力の養成を図りながら、多くの日常英語表現を学び、あらゆる状況に応じてspeaking能力を身に付け、実践的な英語の表現能力の向上を目指す。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、諸外国の人々との相互理解ができる様にする。 授業は英語で行い、オンラインデジタル教材も利用する。															
学習目的	Develop better listening and speaking abilities while learning foreign culture. 外国の文化を学びながら、英のlisteningやspeaking能力を向上すること。															
到達目標	1. The students can comprehend and respond to various oral directions and questions. 様々な口頭の指示や質問に対応できるようになる。 2. The students will learn how to interact in everyday situations using English. 日常生活で英語を使用して対話をできるようになる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	オリエンテーション Basic English Review		授業の進め方、オンライン資料の紹介、デジタル録音の仕方 International Englishについて 英語復習 : Time, Dates, Months, Numbers, Directions etc.													
第2回	The Rules Scene		Asking permission and learning the rules													
第3回	The Time Scene & Culture Talk 1		Talking about time and schedules Culture Talk: Gestures and Taboos													
第4回	The Polite Request Scene & Idioms		Making polite requests and offers Commonly used Idioms													
第5回	Putting Things Away Scene		Asking about location and where things go													
第6回	The Location Scene & Idioms		Asking about location and where things go Commonly used Idioms													
第7回	The Shopping Scene		Shopping and asking about preferences													
第8回	The Directions Scene		Giving directions about how to get somewhere													
第9回	The Restaurant Scene & Culture Talk 2		Ordering and Serving Food in a restaurant Culture Talk: Strange Foods													
第10回	The Complaint Scene		Making and responding to complaints													
第11回	The Illness Scene		Describing a medical problem and asking advice													
第12回	Practical English & Culture Talk 3		Reporting an Emergency Culture Talk: Superstitious Beliefs													
第13回	The "How To" Scene		Asking for instructions and explaining how to do something													
第14回	The Getting Things Done Scene		Getting things done that you do not do yourself													
第15回	Test Role Playing		Evaluation Test Pairwork: Role Playing													
教科書	Performance -Conversation Scenes from Everyday Life David Harrington and Charles LeBeau															
参考書	イギリスのBBC: http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ 学習題材を提示する教材															
成績評価	単位認定 60 点以上 授業への積極性 (30%)、課題 (30%)、テスト (40%) で評価する。 *定期試験を実施しない。															
授業時間外の学習	授業時間外の学習時間の増大による英語力の向上につながる。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。															
履修のポイント	①「基礎英語I、基礎英語II」を履修済みであることが望ましい。 ②日常生活でよく用いられる英語表現を学び、それらを実践していく。															
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室: 9号館 3F, 第12研究室 (情報環境研究室)															

平成26年度 シラバス

科目名	医療保健英語		担当者	松本恭代	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	看護の事例研究(Case Study)を題材とした英語内容を速読と精読によって読み取る力をつける。															
学習目的	看護・栄養のケース・スタディーを通して、やさしい英語表現を学び、論理的に理解する力を習得し、英語で発表する。															
到達目標	看護の事例研究(Case Study)を題材とした英語内容を速読と精読によって読み取る力をつける。事例研究を学びながら、看護・栄養のケース・スタディーをやさしい英語で読み取る力をつけ、英語で発表する。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	Units 1		Risk for Injury: How to Maintain Safety													
第2回	Units 2		Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene and Quiz 1													
第3回	Units 3		Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress and Quiz 2													
第4回	Units 7		Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight and Quiz 3													
第5回	Units 6		Chronic Pain: How to Minimize or Relieve Pain and Quiz 4													
第6回	Unit 9		Constipation: How to Promote Normal Bowel Function and Quiz 5													
第7回	Unit 15		Lifestyle-related Diseases: How to Encourage Health-seeking Behaviours and Quiz 6													
第8回	Unit 14		Memory Impairment: How to Help Strengthen Memory and Quiz 7													
第9回	Unit 10		Impaired Physical Mobility: How to help with crutch walking and Quiz 8													
第10回	Writing		Deciding the outline, literature review and making questionnaire questions													
第11回	Writing		Deciding the outline, literature review and distributing questionnaire questions													
第12回	Writing		Analysing the data and start writing													
第13回	Writing		Writing a paper and making PPT													
第14回	Writing		Writing a paper													
第15回	Presentation		Presentation in English, using PPT slides													
教科書	Nursing Case Studies by Seibido															
参考書	英和・和英辞書、看護辞典、携帯電話、インターネット等 USBメモリーを各自用意すること！															
成績評価	単位認定 60点以上 クイズと発表 60点以上合格															
授業時間外の学習	英語で発表するにあたり、文献検索、データの回収と分析がある。質問表を作成するためかなりの思考力を必要とする															
履修のポイント	予習すること。発表前の個人指導あり。															
オフィス・アワー	matsumoto-ya@kiryu-u.ac.jp															

平成26年度 シラバス

科目名	中国語		担当者	佐々木百合	学科	看護学科	栄養学科	開講期	前期					
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日	時限						
			(時間)	30時間										
授業の概要	中国語を初めて学習する者を対象にした授業です。教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行います。また、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、日常会話までを目指します。そして、隣国中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることです。													
学習目的	将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で積極的に交流ができるこ													
到達目標	中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聞く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができるこ													

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	発音1	声調・単母音・発音練習	
第2回	発音2	子音・複合母音・発音練習	
第3回	発音3	ピンインの組み合わせ・発音のまとめ	
第4回	第1課 挨拶と自己紹介	人称代名詞・「是」の文	
第5回	第1課 挨拶と自己紹介	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題	
第6回	第2課 疑問文	指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法	
第7回	第2課 疑問文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題	
第8回	第3課 動詞の文	動詞の文・所有を表す「有」・省略疑問の「呢」	
第9回	第3課 動詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題	
第10回	第4課 形容詞の文	量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」	
第11回	第4課 形容詞の文	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題	
第12回	第5課 数のいろいろ	数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現	
第13回	第5課 数のいろいろ	単語の発音練習・会話文の解説・練習問題	
第14回	総復習	単語と文法のまとめ	
第15回	試験範囲の問題	総合練習	
教科書	<最新2訂版>中国語はじめの一歩 尹景春・竹島毅 著 白水社		
参考書			
成績評価	単位認定 60点以上 授業中の問答に20%、期末試験を80%として、合計60%以上を合格とします。		
授業時間外の学習	中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。		
履修のポイント			
オフィス・アワー			

平成26年度 シラバス

科目名	情報処理応用演習		担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	「情報処理基礎演習」に引き続き、看護研究や学習において欠かせない情報処理能力を向上させるよう、より応用的な形で情報処理方法を学ぶ。PCとインターネットを活用して、看護医療データの収集や整理、Excelによる統計処理方法を含む、データ・情報の解析方法についての演習を行う。															
学習目的	看護分野におけるコンピュータと情報の応用的なスキルを身につける。															
到達目標	①Excelを利用して、医療・看護データを統計処理スキルを身につける。 ②オープンデータの活用ができる。 ③音声ファイル、動画ファイルの編集加工ができる。 ④画像編集ソフト GIMPや医用画像ソフト「Osiris」の簡単な操作ができる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	Excelの復習		Excelの基本操作の複数													
第2回	Excel応用(1)		アンケート調査、クロス集計表、ピボットテーブル													
第3回	Excel応用(2)		リスク比とオッズ比													
第4回	Excel応用(3)		2群の差の検定（対応のある場合）													
第5回	Excel応用(4)		3群の差の検定（対応のない場合）													
第6回	Excel応用(5)		分割表による検定													
第7回	Excel応用(6)		多群の差の検定													
第8回	Excel応用(7)		相関係数													
第9回	Excel応用(8)		回帰分析													
第10回	Excel応用(9)		実技テスト（Excel）													
第11回	データの可視化 オープンデータの活用		Gapminderの使い方、Motion Chartの作り方													
第12回	マルチメディア情報処理(1)		音声ファイルの編集・加工													
第13回	マルチメディア情報処理(2)		動画ファイルの編集・加工													
第14回	コンピュータグラフィックス		画像ファイルの編集・加工													
第15回	医療情報		DICOM形式医用画像													
教科書	実践 看護・医療系データ分析のための基本統計ハンドブック、 ピラールプレス 第1版、ISBN978-4-86194-054-5 福森貢 堀内美由紀															
参考書	①よくわかる医療・看護のための統計入門、 東京図書 第2版、 ISBN978-4489020513 ②参考資料を配布する。															
成績評価	単位認定 60点以上 課題(60%)、実技テスト(40%) で評価する。 *定期試験を実施しない。															
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。															
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②なるべく多くの例題や演習問題を解いて覚えましょう。															
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach.dr@gmail.com 研究室：9号館3F、第12研究室（情報環境研究室）															

平成26年度 シラバス

科目名	生命倫理		担当者	村上 隆夫	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
	(時間)		(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	生命倫理学を倫理学の一分野として位置づけて、その成立から今日までの発展をその研究分野全般にわたって説明する。															
学習目的	生命倫理学の研究分野全般にわたる概括的知識の習得を目的とする。															
到達目標	生命倫理学についての知見を看護実践において活用できるようにすること。そのための資格試験に備えられることを到達目標とする。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	生命倫理学への導入		伝統的な倫理学からの生命倫理学の形成について説明する。													
第2回	死生観の歴史的变化		死生観の歴史的な変化を未開社会からキリスト教の成立まで辿る。													
第3回	近代哲学における生命と身体		近代医学の成立をその生命觀と身体觀について説明する。													
第4回	死と葬送の歴史的变化		西欧における葬送儀礼の変化を古代から臨床医学の成立まで辿る。													
第5回	身体所有と身体加工		身体を所有する主体としての人格の形成と身体の加工技術の発展について説明する。													
第6回	脳死と臓器移植		脳死問題と臓器移植問題についての倫理学的議論について説明する。													
第7回	インフォームド・コンセント		医療におけるインフォームド・コンセントに関する倫理学的議論について説明する。													
第8回	妊娠中絶		妊娠中絶問題および胚と胎児の取り扱いに関する倫理学的議論について説明する。													
第9回	安楽死と尊厳死		終末期医療と延命処置の限界に関する倫理学的議論について説明する。													
第10回	生殖技術		人工受精を含む生殖技術に関する倫理学的議論について説明する。													
第11回	医療専門家と患者		医師・看護師など医療専門家と患者との関係に関する倫理学的議論について説明する。													
第12回	医療行為と正義		医療資源の分配にあたっての正義の原理に関する関係について説明する。													
第13回	自然の関係および動物との関係		環境倫理学・動物倫理学と生命倫理学との関係について説明する。													
第14回	総括と展望		西洋哲学における集団的な見方と個人的な見方について生命倫理学的に説明する。													
第15回	補足と討論		これまでの講義について補論を行い、さらに討論の時間を設ける。													
教科書	使用しない。講義の際にレジュメを配布する。															
参考書	講義のなかで適宜指示する。															
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%評価とする。															
授業時間外の学習	授業後に1時間程度の資料検索を行うことが望ましい。															
履修のポイント	レジュメについてさらにノートを用いて補足してまとめることが必要である。															
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	食品学		担当者	荒井 勝己	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門基礎科目 (教職に関する科目)	選択 (必修)	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	2学年	曜日							
授業の概要	食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では看護学科の学生（養護教諭資格取得を目指している学生）にとって知っておく必要のある基礎的な知識や最新の食に関するニュースをわかりやすく解説していく。													
学習目的	“食品”に関する基礎知識を理解・習得することを目的とする。													
到達目標	“食品とは何か”を理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの科学的な特徴を理解し、食品成分に関する知識を習得する。食品の機能性や食品表示や規格、食品加工・貯蔵技術などについて理解する。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	食品の種類と分類		食品とは、食品の特性、食品の分類など											
第2回	食品の成分Ⅰ 水分・炭水化物		水分（食品中の水の状態、水分活性など） 炭水化物（単糖類、二糖類、多糖類、食物繊維など）											
第3回	食品の成分Ⅱ 脂質		脂質（脂肪酸、リン脂質、コレステロール、油脂の化学的性質など）											
第4回	食品の成分Ⅲ たんぱく質		たんぱく質（アミノ酸・たんぱく質の構造・種類・働きなど）											
第5回	食品の成分Ⅳ ビタミン・ミネラル		ビタミン（ビタミンの分類と働きについて） ミネラル（ミネラルの種類および生理作用について）											
第6回	食品の機能性		食品の機能、栄養強調表示と健康強調表示、保健機能食品、特別用途食品、「いわゆる健康食品」の概略											
第7回	食品の表示と規格		国内規格、国際規格、品質規格制度の歴史、期限表示、成分表示など											
第8回	食品加工と栄養		食品加工の意義・目的など											
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回														
教科書	未定（単元毎にプリントを配布します）													
参考書	『食べ物と健康 一食品の栄養成分と加工一 第2版』 国崎直道編著（同文書院）													
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験 100%													
授業時間外の学習	単元毎に復習問題を配付するので、解いて理解を深めること。													
履修のポイント	教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。													
オフィス・アワー	授業内容等についての質問については、授業終了後、または11号館3F研究室6で随時受け付ける。													

平成26年度 シラバス

科目名	臨床心理学		担当者	齊藤敦子	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
	(時間)		(30時間)				時限			
授業の概要	医療分野において身体的・心理的な問題や疾患を抱える患者の心理状況を理論的かつ客観的に理解し、心理的な問題によって引き起こされる行動について理解する									
学習目的	1. さまざまな疾患に伴う患者の心理状態について理解を深め、どのような問題に直面するのか理解できる 2. 効果的な援助をするために、人とのかかわりを通して援助の方法を理解する 3. 援助を必要としている対象を客観的に理解するために、心理査定の種類や方法について学ぶ									
到達目標	1. 医療分野における臨床心理学の位置づけが分かる 2. 患者の立場に立ってその人の考え方や気持ちを理解するために、情報収集ができる 3. 効果的に援助を行うために、理論に基づいた援助的なかかわりが理解できる 4. 心理査定の種類や方法を学習し、患者の心理を理解するために客観的な判断の重要性を理解できる									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	臨床心理学とは	臨床心理学の概念及び対象について	
第2回	心理的な健康の概念	パーソナリティの健康と障害	
第3回	適応及び不適応とは	適応の意義、及び不適応のとらえ方	
第4回	身体的な健康障害と心理	ミニ体験とその心理について	課題レポート(1)
第5回	心理アセスメント(1)	心理アセスメントの方法：質問紙法他	
第6回	心理アセスメント(2)	心理アセスメントの種類：性格検査他	
第7回	精神的な疾患の診断基準	精神疾患の診断・統計マニュアルについて	小テスト(1)
第8回	発達と心理的問題との関連(1)	非行・家庭内暴力など	
第9回	発達と心理的問題との関連(2)	摂食障害・自殺など	
第10回	心理的な援助を必要とする症状	ストレス・抑うつ・不安症状など	課題レポート(2)
第11回	メンタルヘルスとその対応	原因と診断、治療方法などによる専門領域について	
第12回	カウンセリングとは	カウンセリングの定義・目的・およびカウンセリング過程について	
第13回	カウンセリングの基本的な姿勢	カウンセリングにおける心構え及び態度	
第14回	心理療法とその理論	心理療法とは：精神分析療法・行動療法など	
第15回	心理的援助の留意点	心理援助における倫理・自尊心及び尊厳	小テスト(2)
教科書	クラス内で配付します		
参考書			
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート(1)・(2) 各10点、 小テスト(1)・小テスト(2) 各40点		
授業時間外の学習	社会の中の様々な出来事を通して、心理的な問題との関連づけを調べる		
履修のポイント			
オフィス・アワー	在室時は随時対応します		

平成26年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進		担当者	影山晴秋 岡田克之	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
	(時間)	(時間)	(15時間)				時限									
授業の概要	人間の健康を傷害する要因である主な疾患を系統的に取り上げ、それらの病因、病態、診断法、治療法、予後について学習する。ここでは環境機能制御系について学習する。															
学習目的	看護を行う上で、疾患の病態を理解することを目的とする。血液・リンパ、内分泌・代謝系疾患、免疫、皮膚疾患について理解する。															
到達目標	病態と臨床検査成績の関連を理解し、病態に応じた症状の変化を理解し説明できるようにする。 頻度の高い疾患について基礎的な知識を得て、病因、病態、診断法、治療法を説明できるようにする。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	内分泌疾患(1)		下垂体疾患、甲状腺疾患などの病態生理、診断、検査、治療				影山									
第2回	内分泌疾患(2)		副甲状腺疾患、副腎疾患などの病態生理、診断、検査、治療				影山									
第3回	栄養・代謝疾患(1)		糖代謝の病態生理、診断、検査、治療				影山									
第4回	栄養・代謝疾患(2)		脂質代謝・尿酸代謝疾患などの病態生理、診断、検査、治療				影山									
第5回	血液疾患(1)		赤血球系の病態生理、診断、検査、治療				影山									
第6回	血液疾患(2)		白血球系などの病態生理、診断、検査、治療				影山									
第7回	皮膚疾患(1)		皮膚のしくみと働き、代表的な疾患の病態生理、診断、検査、治療				岡田									
第8回	皮膚疾患(2)		皮膚のしくみと働き、代表的な疾患の病態生理、診断、検査、治療				岡田									
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	系統看護学講座「病理学」（医学書院）、系統看護学講座 専門分野II 成人看護学12「皮膚」（医学書院）															
参考書																
成績評価	単位認定 60点以上 期末試験や小テストを総合して評価する。															
授業時間外の学習	予習と復習が重要ですが、講義後のノート整理をしながら復習して下さい。															
履修のポイント	大切なところを頭の中で整理しながら、講義を受けて下さい。また解剖生理学が基礎となりますので、併せて勉強しま															
オフィス・アワー	月曜日から木曜日：9:00-16:00 (11号館研究室10)															

平成26年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進III		担当者	久松徹也	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限									
授業の概要	精神疾患の病状、経過、治療についてその基礎的知識を説明します。															
学習目的																
到達目標	代表的精神疾患について基礎的知識を修得することを目標とします。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	概論		治療史、症状記述、診断体系について													
第2回	不安障害、統合失調症		各論第1回として不安障害と統合失調症について													
第3回	気分障害		各論第2回として気分障害について													
第4回	診断、治療法、検査		代表的治療法、検査等について													
第5回																
第6回																
第7回																
第8回																
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	やさしい精神医学															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上															
授業時間外の学習																
履修のポイント																
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	疾病の回復促進Ⅲ		担当者	松田安弘	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限									
授業の概要																
学習目的																
到達目標																
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	脳神経系機能の理解① －運動機能－		日常生活動作「動く」に関連する運動器系・脳神経系の構造と機能													
第2回	脳神経系機能の理解① －感覚機能－		日常生活動作「五感を働かせる」に関連する感覚器系・脳神経系の構造と機能													
第3回	脳血管疾患による機能障害		脳血管疾患：頭蓋内出血、脳梗塞とそれによる障害 (運動機能障害、感覚機能障害、言語機能障害)													
第4回	脳血管疾患の治療・検査		脳血管疾患の診断と外科的治療・内科的治療													
第5回																
第6回																
第7回																
第8回																
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	特になし															
参考書	授業時間内に提示する															
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験100%															
授業時間外の学習	各回の授業内容の復習につながる課題を提示する															
履修のポイント																
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	疫学		担当者	工藤安史	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2年	曜日	金								
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	2								
授業の概要	疫学の概念と歴史、疾病の指標、疫学研究、スクリーニング、主な疾病的疫学、疫学研究の倫理について学ぶ。講義で解説をしたのちに、国家試験の過去問を多数解くことで、知識を定着させる。															
学習目的	根拠に基づいた医療 (EBM:evidence-based medicine) を推進できるようになる。															
到達目標	疫学の本質を理解し、疫学に関する文献を読みこなせる学力を身に着ける。また、疫学の研究を自ら推進できるようになるための基礎を身につける。															
回	主 题		授 業 内 容				備考									
第1回	疫学とは		疫学の概念や歴史を学ぶ。													
第2回	疾病の指標 (1)		有病率、罹患率、死亡率などについて学ぶ。													
第3回	疾病の指標 (2)		年齢調整死亡率などについて学ぶ。													
第4回	疾病の指標 (3)		疾病の指標に関する練習問題を解く。													
第5回	疫学研究 (1)		標本抽出、記述疫学、横断研究、生態学的研究などについて学ぶ。													
第6回	疫学研究 (2)		症例対照研究、コホート研究、介入研究などについて学ぶ。													
第7回	疫学研究 (3)		疫学研究に関する練習問題を解く。													
第8回	疫学研究 (4)		疫学研究に関する練習問題を解く。													
第9回	スクリーニング (1)		感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度などについて学ぶ。													
第10回	スクリーニング (2)		スクリーニングに関する練習問題を解く。													
第11回	スクリーニング (3)		スクリーニングに関する練習問題を解く。													
第12回	主な疾病的疫学 (1)		感染症、悪性新生物などを学ぶ。													
第13回	主な疾病的疫学 (2)		循環器疾患、代謝疾患などを学ぶ。													
第14回	疫学研究の倫理		疫学研究に関する倫理指針や倫理審査委員会などについて学ぶ。													
第15回	まとめ		講義の総復習を行う。													
教科書	日本疫学会、はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版、南江堂															
参考書	国民衛生の動向 2012/2013 厚生統計協会															
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験のみで、単位認定を行う。															
授業時間外の学習	教科書を読むことで、読解力を身につけることも大切である。講義で配布したレジメを中心に復習し、その後、教科書を読み進めること。															
履修のポイント	講義は、すべてレジメを配布する。															
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	保健統計学		担当者	工藤安史	学科	看護学科	開講期	前期						
区分	専門基礎科目	必修	単位	2単位	学年	2年	曜日	金						
		(時間)	(30時間)				時限	3						
授業の概要	データの表現法、母平均の推定、仮説検定、データの解析、人口動態統計や死因統計などの保健統計について学ぶ。また、保健師の過去問も数多く解いてもらい、保健統計学の知識を定着させる。													
学習目的	根拠に基づいた医療 (EBM:evidence-based medicine) を推進できるようになる。													
到達目標	基礎的な医療文献を読みこなすのに必要な保健統計学の基礎を学ぶ。また、看護研究を推進するのに必要な保健統計の基礎力を身につける。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	統計学とは		実際の保健統計のデータを電卓で計算してみることで、データに慣れる。											
第2回	データの表現法 (1)		統計学特有の表現を理解できるようにする。											
第3回	データの表現法 (2)		度数分布表などを作成する。											
第4回	データの表現法 (3)		分布の特性値（平均、標準偏差など）について学ぶ。											
第5回	データの表現法 (4)		確率分布などを学ぶ。											
第6回	母平均の推定 (1)		正規分布、標準正規分布などについて学ぶ。											
第7回	母平均の推定 (2)		有意水準、信頼限界、中心極限定理などを学ぶ。											
第8回	母平均の推定 (3)		標準正規分布を使って、母平均の推定を学ぶ。											
第9回	母平均の推定 (4)		t分布と母平均の推定を学ぶ。											
第10回	仮説検定		仮説検定とは何かを学ぶ。											
第11回	データの解析 (1)		t検定、カイ二乗検定などを学ぶ。											
第12回	データの解析 (2)		相関係数と回帰分析などを学ぶ。											
第13回	保健統計の調査 (1)		人口静態統計、人口動態統計などを学ぶ。											
第14回	保健統計の調査 (2)		死因統計、有訴者率、受療率などを学ぶ。											
第15回	まとめ		講義の総まとめを行う。											
教科書	鳥居泰彦、はじめての統計学、日本経済新聞出版社													
参考書	国民衛生の動向 2012/2013 厚生統計協会													
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験													
授業時間外の学習	教科書を読むことで、読解力を身につけることも大切である。講義で配布したレジメを中心に復習し、その後、教科書を読み進めること。													
履修のポイント	講義は、すべてレジメを配布する。ルート計算のできる関数電卓を持参すること。													
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	医療保健福祉行政論		担当者	小此木久美子	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
	(必修)	(時間)	(30時間)	時限						
授業の概要	現在の保健医療福祉行政について基礎的な知識を深め、制度的枠組みや法律を理解する。財政の理念と仕組みについて、歴史的変遷から学習を進める。その上で現在の保健医療福祉に関する制度を理解する。さらに国地方自治体・市町村の行政施策を理解する。及び施策がどのように計画立案・実施・評価されるのかという流れで学習を深める。このような学習過程をとおし保健医療福祉の専門職としての役割・責務・倫理についても理解をする									
学習目的	保健医療福祉職としての必要な知識・倫理観を体得する。									
到達目標	現在の保健医療福祉行政について基礎的な知識をみにつけて、国及び地方自治体・市町村の行政施策を理解する。学習過程をとおし保健医療福祉の専門職としての役割・責務・倫理観についても学習する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	保健医療福祉行政の概要	国及び自治体行政がどのように実施しているか学習するるそのうえで公務員としての保健師活動を理解する。	
第2回	国と地方公共団体の財政の仕組み	国・都道府県・市町村の保健医療福祉行政のしくみと役割について学習する。	
第3回	世界の公衆衛生と理念	国連とWHOの役割から我が国の国際保健医療協力について学ぶ。	
第4回	保健医療行政の変遷①	公衆衛生政策の基盤形成から新たな課題と政策の発展	
第5回	保健医療福祉行政の変遷②	政策の充実と転換から新しい感染症対策を学ぶ	
第6回	保健医療福祉に関する制度①	社会保障制度と公衆衛生行政	
第7回	保健医療福祉に関する制度②	地域保健の制度	
第8回	保健医療福祉に関する制度③	社会福祉制度 中間テスト(第1回から8回)	
第9回	保健医療福祉に関する制度④	医療の制度	
第10回	介護保険制度	介護保険制度	
第11回	行政に働く専門職について	行政における保健師活動と期待される役割	
第12回	地方自治体の保健医療福祉計画	自治体の健康づくり等の計画策定について	
第13回	地方自治体の計画策定	計画策定過程について学習する	
第14回	計画の策定と管理・評価	健康づくり政策の推進と看護職の役割について	
第15回	計画の推進とその体制	住民・事業者・行政の協同による地域づくり	

教科書	最新保健学講座7保健医療福祉行政論(メディカルフレンド社)
参考書	国民衛生の動向・国民の福祉と介護の動向・保険と年金の動向(厚生労働統計協会)
成績評価	単位認定60点以上 定期試験60% レポート40%
授業時間外の学習	日々の保健医療福祉行政に関心を持ち新聞等の活用や統計に基づく学習を行うこと。
履修のポイント	関連法規の学習も並行して行うこと
オフィス・アワー	研究室在室時は対応します。

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅲ		担当者	阿久澤 智恵子	学科	看護学科	開講期	前期									
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日										
		(時間)	(30時間)	時限													
授業の概要	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から総合的にアセスメントをするための知識と基本的技術を学ぶ。特に身体的アセスメントについては、看護実践の基盤となる観察技術を中心に正確な身体情報を把握する。さらにその情報から対象者の健康レベルや正常・異常を判断できるまでの一連のアセスメント技術と看護者として望ましい基本的态度を修得する。																
学習目的	看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的観察・測定技術の必要性と方法を学ぶ。さらに対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者としての基本的态度が修得する。																
到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義及び必要性を述べる。 2. 人間を身体的・心理・社会的存在として捉える重要性を述べる。 3. 対象者を総合的にアセスメントするために、ヘルスアセスメントの基本的技術を用い実施する。 4. ヘルスアセスメント時の看護者としての基本的态度について考える。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	ヘルスアセスメントの概要	ヘルスアセスメントの目的と意義					講義										
第2回	ヘルスアセスメントの基本技術	アセスメントに臨む基本姿勢					講義										
第3回	フィジカルアセスメントの基本的技法	問診・視診・触診・打診・聴診					講義										
第4回	演習 面接技法とアセスメント	問診技法の実際（ヘルスヒストリー）					演習（教室）										
第5回	演習 測定技術とアセスメント	身体各部の測定の実際					基礎成人演習室										
第6回	アセスメントの視点①	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義										
第7回	アセスメントの視点②	必要な情報とその解釈・分析ゴードンの機能的健康パターンを用いて					講義										
第8回	系統別アセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義										
第9回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室										
第10回	系統別アセスメント	循環器のフィジカルアセスメントの進め方					講義										
第11回	演習	循環器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室										
第12回	系統別アセスメント	消化器系のフィジカルアセスメントの進め方					講義										
第13回	演習	消化器系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室										
第14回	系統別アセスメント	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方					講義										
第15回	演習	感覚器系・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメントの実際					基礎成人演習室										
教科書	ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 基礎看護学② メディカ出版																
参考書	山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる」第2版 医学書院																
成績評価	単位認定 60 点以上 講義・演習参加状況、演習レポート、課題、GW、筆記試験を総合して評価する。																
授業時間外の学習	系統別アセスメントの演習を効果的に行うために人体の構造のレポートを作成する・演習前にフィジカルアセスメントのDVDを視聴する																
履修のポイント	事前学習課題を行い、主体的・積極的に参加すること。記録類の提出は、時間厳守すること。																
オフィス・アワー																	

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学Ⅴ		担当者	林圭子・阿久澤智恵子	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日							
		(時間)	(15時間)	時限										
授業の概要	健康者に対しては、疾病を予防し健康の保持増進のための正しい知識を普及し、自らの健康を自ら守るというセルフケアの必要性を高めるための「健康教育」の方法を学ぶ。また、健康障害者には、早期治療、疾病の理解・受容、障害からの回復に向けての生活指導やセルフケアの促進、社会参加が容易になるような「患者教育」の方法を学ぶ。													
学習目的	看護における教育的関わりについて理解し、さまざまな健康レベルにある対象者が健康に対する望ましい考え方や行動を獲得できるよう側面から支援する方法について学ぶ。													
到達目標	1. 看護における教育的関わりの必要性を理解する。 2. 各健康レベルに応じた教育・指導の違いを理解する。 3. セルフケア理論・自己効力理論を用いて、教育支援の具体的方法を考える。 4. 事例に基づき、対象者に必要な教育支援プランを立案し発表する。													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	看護における教育的関わり		看護における教育・指導とは				林							
第2回	健康レベルに応じた教育支援		健康に生きることを支える、健康状態の変化に伴う教育・指導				林							
第3回	教育支援における理論の活用		行動変容をうながす保健指導・患者指導				林							
第4回	教育支援のプロセス		アセスメント、看護診断、教育指導計画、実施、評価				林							
第5回	教育支援の必要な事例の展開①		教育支援の必要な事例（グループワーク）				林・阿久澤							
第6回	教育支援の必要な事例の展開②		教育支援の必要な事例（グループワーク）				林・阿久澤							
第7回	事例展開の発表①		教育支援プラン発表				林・阿久澤							
第8回	事例展開の発表②		教育支援プラン発表				林・阿久澤							
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回														
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 第15版 医学書院													
参考書	坂野雄二・前田基成編著：セルフ・エフィカシーの臨床心理学、北大路書房、リンダJ.カルペニート=モイエ著：看護診断ハンドブック、医学書院													
成績評価	単位認定 60 点以上 グループワークによるレポート50%、発表の態度・参加度10%、最終レポート40%													
授業時間外の学習	グループワークを実施する前に事例の自己学習および発表に向けてグループで資料作成、授業で学んだことをレポート作成する必要があります													
履修のポイント	理論を用いて事例展開し、看護における教育支援の役割を考える													
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	看護技術学VI（対人援助方法）		担当者	鈴木裕子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門基礎科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日	
			(時間)	(15時間)				
授業の概要	看護の対象はライフサイクルや健康レベルのあらゆる段階にある人を対象にすることから、より高い対人援助力が必要となる。若い看護職のコミュニケーション力の低下も指摘されている。対人援助における、人間関係やコミュニケーションについての理解を深めながら授業を進める。具体的には、自己理解や他者理解、人間関係理解を深めながら対人援助方法としての手法を実践的に学ぶ。人間関係やコミュニケーションの知識を深めスキルを高めることを中心に行われる対人援助方法を学ぶ。							
学習目的	看護技術における対人援助、コミュニケーションや相談技術の理解を深め、実践的に学ぶ。 身体的、精神的、社会的存在としての個人・家族・集団への対象理解を深める。 また対人援助のチームワークや関係職種との連携、看護の機能と役割へと視野を広める。							
到達目標	看護における対人援助方法について理解し、知識と技術を身につける。 自己理解、他者理解、人間関係理解を深め、コミュニケーションと相談、教育指導の技術を高める。 個人・家族・集団、また環境との相互関係の中で統合的・全般的に対象理解を深める。 対人援助のチームワークや関係職種との連携について理解を深める。							

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	対人援助方法とは	看護職の対人援助機能と方法	
第2回	人間関係理解	自己理解、他者理解、人間関係理解	
第3回	コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーション	
第4回	看護相談技術	自己決定を支える看護相談技術	
第5回	看護教育指導	エンパワーメントをもたらす看護における教育と指導	
第6回	ピア・サポート	看護ピア・サポートの実際	
第7回	対象別援助	対象別対人援助方法	
第8回	保健医療福祉関係職種との連携	保健医療福祉関係職種との連携における看護職の対人援助機能	

教科書	宗像恒次 感情と行動の大法則 ヘルスカウンセリング学会
参考書	保健同人社 新しい健康養育、トレーバーコール 亀山静子訳 ピア・サポート実践マニュアル 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験70%, リアクションペーパー20%, 授業態度10%
授業時間外の学習	自己と他者、人間関係理解を深めるために日ごろから見聞を広める。
履修のポイント	コミュニケーションやカウンセリングなどの基本的スキルを活用した看護における相談と指導、連携と調整についての理解を深める。
オフィス・アワー	アポイントをとること。

平成26年度 シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)		担当者	三木／阿久澤	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日									
			(時間)	(90時間)			時限									
授業の概要	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全人的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学習する。実施においては修得した技術の提供を通し、看護技術の個別化の意義を学ぶ。さらに、看護者としてふさわしい態度を考え、自己を振り返り、看護への理解と関心を深める。															
学習目的	健康障害を体験している一人の患者を受け持ち、患者を全般的にとらえ、ニーズの充足を目指して科学的根拠に基づく日常生活行動の援助を計画・実施・評価するプロセスを学ぶ。															
到達目標	1. 一人の患者を受け持ち、アセスメント、診断、計画、実施、評価の一連の過程を展開する 2. 看護理論に基づいて看護技術を個別化する方法を説明する 3. 質の高い看護を提供するために、倫理観や科学的根拠に基づき、看護を展開することの看護師の責任を説明する 4. 実習の体験を通して看護学の学習上の課題を明示する															
授業計画																
回	主 題		授 業 内 容				備考									
第1回	臨地実習		病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集 カンファレンス													
第2回	臨地実習		情報収集、データの再収集、意味のあるデータの抽出 カンファレンス													
第3回	臨地実習		データの再収集、意味のあるデータの抽出 カンファレンス													
第4回	臨地／学内実習		データの再収集、意味のあるデータの抽出 関連図作成													
第5回	臨地実習		データの再収集、意味のあるデータの抽出 カンファレンス													
第6回	臨地実習		問題の明確化、優先順位の決定、目標の設定 カンファレンス													
第7回	学内実習		目標の設定 観察計画・直接ケア計画・教育計画の立案													
第8回	臨地実習		計画の実施・評価 カンファレンス													
第9回	臨地実習		計画の実施・評価 カンファレンス													
第10回	臨地実習		計画の実施・評価 カンファレンス													
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	使用せず															
参考書																
成績評価	単位認定 60 点以上															
授業時間外の学習	示された課題について記録用紙に記述すること															
履修のポイント																
オフィス・アワー																

平成26年度 シラバス

科目名	母性看護学概論 (母性看護学)		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	前期						
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2年	曜日							
			(時間)	(15時間)			時限							
授業の概要	身体的、精神的、社会的、スピリチュアル的に母性を捉える。リプロダクティブヘルス/ライフ（性と生殖に関する健康）の視点から母性看護の対象を幅広く捉え、女性のライフサイクルにおける健康障害と看護の役割を理解する。母性看護の歴史的変遷、さらには、母性に関する社会の動向を探る。母性看護学各論の基盤となる科目である。													
学習目的	母性看護の概念と意義、役割や、母性看護の対象について理解する。また、母子を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。さらに、女性のライフサイクル各期の特徴とその支援について理解する。													
到達目標	1. 母性、父性及び家族の概念と発達課題を理解することができる。 2. 母性看護学の役割・機能と対象の理解ができる。 3. リプロダクティブヘルス・ライフについて理解できる。 4. ライフサイクル各期の特徴と健康問題について理解することができる。 5. セクシャリティについて理解し、自らの考えを表現することができる。 6. 母子保健の動向を知り、母子保健行政の施策を理解することができる。													
授業計画														
回	主 题		授業内容				備考							
第1回	導入	第1章 母性看護の基盤となる概念（1）	母性・父性の概念、母性看護学の概念・対象・目的・視点											
第2回		第1章 母性看護の基盤となる概念（2）	母子関係と家族発達、性とセクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライフ、ヘルスプロモーション、母性看護における倫理、母性看護における安全・事故予防											
第3回		第2章 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史的変遷と現状、母子保健統計の動向、母子保健・看護に関する法律と施策、母性看護の場と職種											
第4回		第3章 母性看護の対象理解	女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承											
第5回	第4章 母性看護に必要な技術	第5章 女性のライフステージ各期における看護	思春期における身体的、心理的、社会的な健康障害について学ぶ。											
第6回	第5章 女性のライフステージ各期における看護		成熟期・更年期・老年期における身体的、心理的、社会的な健康障害について学ぶ。											
第7回	第6章 リプロダクティブヘルスケア		家族計画、性感染症とその予防、HIV、人工妊娠中絶、喫煙、性暴力、児童虐待、国際化社会と看護について学ぶ。											
第8回	まとめ		既習内容の確認											
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回														
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院（2013）													
参考書	適宜紹介・資料配布													
成績評価	単位認定 60点以上 授業・演習への参加姿勢10%、小テスト20%、筆記試験70%													
授業時間外の学習	授業は教科書に沿って行うため、予習・復習を必ず行って下さい。													
履修のポイント	生命誕生の神秘などを学ぶ母性看護の基盤となる科目です。また、女性を産むだけの性ととらえず、多様な生き方に対する理解や看護についても考えていきます。毎回の授業内容が深く、進度が早いため、欠席しないようにしましょう。													
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のときは、学生さんといつでも話せるようお待ちしています。面談予約して下されば確実です。													

平成26年度 シラバス

科目名	母性看護方法		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	後期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2年	曜日	
			(時間)	(60時間)			時限	
授業の概要	既習した母性看護学概論を基盤とし、ライフサイクル各期の健康の保持増進、疾病予防、健康回復への過程における看護を知識と技術の両面から習得する。また、母性の健全な成長・発達を促す援助方法を考え、女性とその家族の健康保持・増進・発達課題の達成をサポートできるための知識を習得する。さらに、新生児の身体的特徴を理解し、精神心理・社会的ニーズも含め、新生児の健康状態を把握することによって、母子の愛着形成や母乳哺育を促進することを学習する。また、新生児が順調に成長・発達していくための看護を学ぶ。時代に即した母性看護を学ぶため、災害時看護、国際化、メンタルヘルスなども視野に入れた授業を行う。							
学習目的	妊娠期、分娩期、産褥期における母性の身体的・精神心理的・社会的・スピリチュアル的特徴を捉え、対象のニーズ・健康・健康問題への援助について学習する。女性のライフサイクルにおける発達・健康課題やライフイベントをふまえた援助方法を学ぶ。母子関係、新生児の発達・健康課題をふまえた援助方法を学ぶ。							
到達目標	1. 妊娠のメカニズムを理解できる。 2. 妊娠による女性の身体的变化および精神心理・社会的变化を理解できる。 3. 胎児の発育・発達を理解できる。 4. 妊娠健康診査および妊娠中の保健指導の必要性と内容が理解できる。 5. 分娩のメカニズムを理解できる。 6. 分娩各期の看護が理解できる。 7. 異常妊娠・分娩の看護が理解できる。	8. 母婦の身体的变化、精神心理・社会的变化を理解できる。 9. 母子関係・父子関係の確立への支援について理解できる。 10. 新生児の生理的变化と看護の実際が理解できる。 11. 母乳哺育促進への援助について理解できる。 12. 健康教育の必要性を理解し、教育に必要な知識を習得できる。 13. 妊産褥婦・新生児に対する看護過程の展開が理解できる。 14. 母性看護を実践する上で看護者としての倫理観を養う。						

授業計画

回	主 题	授業 内 容	備考
第1回			
第2回	いのち（性）を取り巻く諸課題と看護者の倫理観	子どもを生み・育てるということとは？遺伝相談、障がいを持つ子どもの理解、不妊カップルへの看護、周産期の死を体験した家族への理解と看護、虐待を受けた人および子どもへの理解と看護	
第3回	第2章 妊娠期における看護(1)	A:妊娠期の身体的特性、B:妊娠期の心理・社会的特性、	
第4回	第2章 妊娠期における看護(2)	C:妊婦と胎児のアセスメント	
第5回	第2章 妊娠期における看護(3)	D:妊婦と家族の看護	
第6回	第3章 分娩期における看護(1)	A:分娩の要素、B:分娩の経過、C:産婦・胎児、家族のアセスメント、	
第7回	第3章 分娩期における看護(2)	D:産婦と家族の看護、	
第8回	第3章 分娩期における看護(3)	E:分娩期の看護の実際	
第9回	第4章 新生児期における看護(1)	A:新生児の生理、	
第10回	第4章 新生児期における看護(2)	B:新生児のアセスメント	
第11回	第4章 新生児期における看護(3)	C:新生児の看護	
第12回	第5章 産褥期における看護(1)	A:産褥経過、B:褥婦のアセスメント、	
第13回	第5章 産褥期における看護(2)	C:褥婦と家族の看護	
第14回	第5章 産褥期における看護(3)	D:施設退院後の看護	
第15回	第6章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常(1)	A:妊婦の異常と看護	
第16回	第6章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常(2)	B:分娩の異常と看護	
第17回	第6章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常(3)	C:新生児の異常と看護、D:褥婦の異常と看護	
第18回	まとめ	既習内容の再確認	

平成26年度 シラバス

第19回		看護過程の展開 ウェルネスの視点 A:妊娠期の看護、B:分娩期の看護、C:新生児の看護、 D:産褥期の看護 情報収集、アセスメント、問題の明確化、看護問題の確認、 看護目標と看護計画、実施と評価	
第20回	母性看護過程の展開(講義)		
第21回		産褥期の女性における看護過程の展開 (実習では実践と看護過程の展開が必要になります。そして母性ではウェルネスの視点が欠かせません。事例をもとに、基礎からしっかりと学びましょう)	
第22回	母性看護過程の展開 (事例展開)		
第23回		産褥期の女性における看護過程の展開 (実習では実践と看護過程の展開が必要になります。そして母性ではウェルネスの視点が欠かせません。しっかりと基礎から学びましょう)	
第24回	母性看護過程の展開 (事例展開)		
第25回			
第26回	母性看護過程の展開 (事例展開:発表)	グループ発表	
第27回			
第28回	母性看護技術	沐浴、バイタルサイン測定、腹囲・子宮底長の測定、レオポルド触診法	演習
第29回			
第30回	母性看護技術	沐浴、バイタルサイン測定、腹囲・子宮底長の測定、レオポルド触診法	技術チェック
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院(2013)、森恵美他 母性看護学各論 医学書院(2013)		
参考書	1.マタニティ診断ガイドブック第4版 日本助産診断・実践研究会 2013 医学書院、太田操編著 2.ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 2013 医歯薬出版株式会社、3.病気が見える 産科 第4版 MEDIC MEDIA		
成績評価	単位認定 60点以上 授業・演習・グループワークへの参加姿勢10% (特にグループ課題発表会への参加プロセスを評価)、小テスト20%、筆記試験70%		
授業時間外の学習	授業は教科書に沿って行うため、予習・復習を必ず行って下さい。		
履修のポイント	実習に向けて、母性看護の学びを具体的に深めてみましょう。		
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようお待ちしています。面談予約して下されば確実です。		

平成26年度 シラバス

科目名	小児看護学概論			担当者	加古正子	学科	看護学科	開講期	前期										
区分	専門科目	必修	単位	1単位	(時間)	(15時間)	学年	2学年	曜日										
			(時間)	(15時間)					時限										
授業の概要	小児の看護師の役割、小児の特徴、子どもの権利や今日的健康問題、子どもが健やかに成長・発達するための看護方法の基礎を教授する。																		
学習目的	小児看護方法を学習するための基礎知識として、子どもの成長・発達にそって子どもの特徴や健康問題について理解する。																		
到達目標	1. 小児看護について、歴史的・社会的特徴について述べることができる。 2. 子どもの権利を擁護する視点から、小児の健やかな成長・発達について自分の考えを述べることができる。 3. 小児期の成長と発達にそった主な健康問題とその予防援助について説明することができる。																		
授業計画																			
回	主 题			授業内容					備考										
第1回	小児の特徴と小児看護 第1・2章			<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学の目標と課題課題 ・小児の健康課題と保健統計 ・子どもの健康促進 					講義										
第2回	小児の特徴と小児看護 第1・2・5章			<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の場と小児看護の役割 ・小児看護の課題と展望 ・小児医療の変遷と課題 					講義										
第3回	子どもの最善の利益にかなう医療・看護 第3章			<ul style="list-style-type: none"> ・医療における子どもと自己決定、教育を受ける権利など ・小児医療の場と子どもの権利 ・児童虐待と子どもの権利(虐待の認識から防止対策まで) 					講義										
第4回	小児の成長と発達段階 第5章、第6章ーI、II、III			<ul style="list-style-type: none"> ・成長・発達の減速と影響因子 ・発達評価と家庭環境アセスメント ・成長に伴う機能的発達 					講義 <小テスト1>										
第5回	小児の生活を支える成長と機能の発達 第6章ーIV、第4章			<ul style="list-style-type: none"> ・小児の生活行動の変化と日常生活支援 動く、眠る、食べる 					講義										
第6回	小児の発達と日常生活支援 第6章ーV			<ul style="list-style-type: none"> ・小児の生活行動の変化と日常生活支援 排泄する、身だしなみを整える 					講義										
第7回	小児の発達と日常生活支援 第6ーV			<ul style="list-style-type: none"> ・小児の生活行動の変化と日常生活支援 見る・聞く・話す、感じる・考える 					講義										
第8回	小児の発達と日常生活支援 第6章ーV			<ul style="list-style-type: none"> ・小児の生活行動の変化と日常生活支援 人とかかわる、遊ぶ・学ぶ、性を生きる ・小児各期の生活の特徴と主な健康問題 					講義 <小テスト2>										
教科書	松尾宣武・濱中喜代編 (2012) :新看護学全書 小児看護学1、小児看護学概論・小児保健、メジカルフレンド社 (2,415円)																		
参考書	授業の中で資料を配布する。																		
成績評価	単位認定	60	点以上	小テスト2回で20点+最終テスト40点+体験レポート40点とし、総合的に評価する。															
授業時間外の学習	授業で学んだ知識を身につけるために実際に乳幼児や学童の生活・心理などに関心をもって関わりをもつようすること。																		
履修のポイント	自分の子どもの時の気持ちを振り返り、心身ともに急激に成長する子どもを理解すること。																		
オフィス・アワー	在室の時にはいつでもどうぞ。																		

平成26年度 シラバス

科目名	小児看護方法		担当者	加藤正子／内山かおる	学科	看護学科	開講期	後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
			(時間)	(60時間)			時限			
授業の概要	成長発達過程で抱える健康問題（疾病・障害）をもつ子どもを理解し、子どもの発達段階と健康レベルにあった基本的援助方法を思考できるよう、①子どもの健康評価、②疾病・障害をもつ子どもと家族の特徴、③疾病・障害疾患の病態生理と治療、④事例を用いた看護過程の展開方法、⑤子どもへの基礎的な看護技術を教授する。									
学習目的	小児看護学概論で学んだ『健康な子どもの理解』を基に、成長・発達過程で抱えた健康問題（疾病・障害）が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、発達段階と健康レベルに応じた子どもと家族への基本的な援助を提供できるよう知識と技術を習得することを目的とする。									
到達目標	1. 子どもの健康評価の意義と方法について説明できる。 2. 子どもの健康問題が及ぼす子どもと家族への影響を思考し、説明できる。 3. 子どもの健康問題の病態生理と治療を理解し、記述できる。 4. 健康問題を抱えた子どもの成長発達段階と健康回復に必要な看護について根拠を説明できる。 5. 小児医療における基礎的な看護技術を習得する。									
授業計画										
回	主 题		授業内容				備考			
第1回	小児看護に必要な視点と学び方		小児看護学方法のガイダンス 講義・グループにおける個人作業の進め方（グループ学習のねらい）				*総合ノートの作成について説明			
第2回	病気や入院が子どもや家族に与える影響		発達段階別にみた入院・療養生活（a小児の病気の理解と受容、b入院適応への援助）、子どもの家族の反応と看護							
第3回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術1)		子どもとのコミュニケーション技術 インフォームドコンセントのための技術							
第4回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術2)		子どものフィジカルアセスメント 発達段階別バイタルサインのとり方							
第5回	健康問題をもつ子どもに必要な小児看護技術3)		治療に伴う看護技術（検体採取・プレバレーション・トリアージ他）							
第6回	小児外来における子どもの看護		一般小児科外来および小児救急外来の特徴と現状・課題							
第7回	子どもにみられる主な症状と看護1)		小児に見られる症状の特徴 ①啼泣・不機嫌 ②発熱 ③発疹 ④搔痒感 ⑤痛み（骨折含む） *主な症状とケア							
第8回	子どもにみられる主な症状と看護2)		⑥恶心・嘔吐 ⑦下痢・便秘 ⑧脱水 ⑨浮腫							
第9回	子どもにみられる主な症状と看護3)		⑩けいれん ⑪意識障害 ⑫ショック ⑬黄疸							
第10回	急性的経過をたどる健康問題をもつ子どもの看護1)		急性期の健康問題をもつ子どもと家族の特性とアセスメントの視点 事例より：肺炎 川崎病				第1回ミニテスト15分（第7回～9回）			
第11回	急性的経過をたどる健康問題をもつ子どもの看護2)		手術を受ける子どもと家族の特性とアセスメントの視点 【事例より】感覚器疾患：真珠性正中耳炎、アデノイド・扁桃炎				手術期総論			
第12回	急性的経過をたどる健康問題をもつ子どもの看護3)		手術を受ける子どもの看護：ヒルシュスブルング病、食道閉鎖症							
第13回	急性的経過をたどる健康問題をもつ子どもの看護4)		手術を受ける子どもの看護：先天性心疾患（ファロー四徴症 他）				第2回ミニテスト15分（第10～12回）			
第14回	小児事例の展開方法1（急性期）		【小児における事例の展開方法】 *小児看護記録の使い方 ①記録用紙の説明、②情報の整理（患児の症状・成長発達に着目） ③発達段階の評価 ④病態生理 ⑤薬剤レポート ⑥看護評価							
第15回	小児事例の展開方法2（急性期）		小児看護記録を用いた事例の展開： 【事例1】ウイルス性胃腸炎 【事例2】下腿骨折（術直後）							
第16回	小児事例の展開方法3（急性期）		第15回の続きと課題提出							
第17回	小児事例の展開方法4（急性期）		急性期事例の返却・および補講							
第18回	ハイリスク新生児の看護		NICU看護：ハイリスク新生児の生涯発達を考慮した看護の実際							

平成26年度 シラバス

第19回	ターミナル期にある子どもと家族の看護	①子どもの死の捉え方、 ②小児がん(病態・治療) ③終末期にある子どもへのケア ④家族へのケア 「事例より】悪性リンパ腫 神経芽腫	
第20回	小児事例の展開方法 1 (慢性期)	①慢性期の健康問題をもつ子どもと家族の特性とアセスメント視点 ②子どものセルフケアの特性 ③慢性腎不全の病態と腹膜透析(CAPD) ④子どもの糖尿病の特性、	
第21回	小児事例の展開方法 2 (慢性期)	【事例1】I型糖尿病 【事例2】ネフローゼ症候群 事例を看護記録にまとめる *子どもの発達段階によって異なる看護過程の展開方法 (解説)	個人作業
第22回	小児事例の展開方法 3 (慢性期)	第21回の続きと課題提出	個人作業
第23回	小児事例の展開方法 4 (慢性期)	第21回事例の返却及び補講と修正 ①情報の整理(患児の症状・成長発達に着目した) ②発達段階の評価 ③病態生理 ④薬剤レポート ⑤看護実践の方向性 *発表の準備	グループワーク
第24回	小児事例の展開方法 5 (慢性期)	グループによる課題のまとめと発表の準備	グループワーク
第25回	小児事例の展開方法 6 (慢性期)	グループ発表・まとめ	
第26回	小児の基本的な看護技術 1)	【看護技術演習ガイドンス】演習項目の講義とデモストレーション	
第27回	小児の基本的な看護技術 2)	技術演習	
第28回	小児の基本的な看護技術 3)	技術演習	
第29回	小児の基本的な看護技術 4)	技術演習	
第30回	小児の基本的な看護技術 5)	技術演習の復習とまとめ・技術チェックの記入法(実習)	技術レポート提出
教科書	小児看護学 2 健康障害をもつ小児の看護 (メジカルフレンド) , 写真で見る小児看護技術 (インターメディカ)		
参考書	子どもの病気の地図帳 (講談社) , 子どものフィジカルアセスメント (金原書店)		
成績評価	単位認定 60 点以上 技術・GW参加10%, 提出物20% (2回分) , ミニテスト30% (2回分) , 本テスト40% 総合100%で評価		
授業時間外の学習	教科書と配布資料を中心に講義の予習復習を行う。シラバスにある疾患に関連する臓器や症状の基本的な解剖整理を復習する。		
履修のポイント	日頃から身近な子どもに興味関心を持って観察をする。わからないことや疑問点は早めに質問する。		
オフィス・アワー	加固・内山共に実習・会議・研修以外は研究室にいます。その都度、各教員にアポイントをとってください。		

平成26年度 シラバス

科目名	成人看護学概論		担当者	粕谷恵美子	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日			
	(時間)			15時間			時限			
授業の概要	成人期にある人々の成長発達の特徴について理解し、成人の生活と健康に関する基本的知識を基盤にして、成人期のライフスタイルや環境から生じる健康問題と健康レベルに応じた看護のアプローチ方法を学ぶ。									
学習目的	成人期の特徴を踏まえ、家庭や職場・地域社会で様々な役割を持つ人々の日常生活及び健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について理解する。									
到達目標	1. 成人期にある人々の成長・発達過程を理解し成人各期の特徴を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連付けて説明できる。 3. 成人期の健康や健康障害に伴う人々の心身の反応を理解し、看護の特徴を説明できる。									

授業計画

回	主 题	授業内容	備考
第1回	成人期にある人々の特徴	成人期にある対象の身体・心理・社会的特徴	粕谷恵美子
第2回	成人の生活環境と健康状態	ライフスタイルと健康問題	粕谷恵美子
第3回	成人の生活と健康	保健対策、医療対策、福祉対策	粕谷恵美子
第4回	成人の看護アプローチの基本	健康教育、患者と看護師の人間関係、マネジメント、家族支援	粕谷恵美子
第5回	急性期にある人々の看護	急激な健康破綻をきたした人への看護と家族への援助 救急医療と救急看護	粕谷恵美子
第6回	回復期にある人々の看護	障害を持つ人への看護、リハビリテーションの概念	粕谷恵美子
第7回	慢性期にある人々の看護	慢性期にある患者のセルフケアとセルフマネジメント	粕谷恵美子
第8回	終末期にある人々の看護	終末期にある人の看護と家族への援助	粕谷恵美子
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教科書	系統別看護学講座 専門分野II 「成人看護学1」 「成人看護学総論」 医学書院
参考書	講義の中で適宜紹介します
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート他20%を総合して評価します。
授業時間外の学習	復習は教科書、講義用プリントを活用してノートを整理する。予習として、次回授業の範囲の教科書を読んでおくこと
履修のポイント	既習の「看護学原論」の復習。日常生活の中で、医療や健康問題に関する情報を意識しましょう
オフィス・アワー	実習のため不在にすることが多いので事前にメールで面談の調整をしてください。 Kasuya-e@kiryu-u.ac.jp

平成26年度 シラバス

科目名	成人看護方法Ⅰ（慢性期）		担当者	粕谷恵美子	学科	看護学科	開講期	後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
		(時間)	60時間	時限						
授業の概要	慢性疾患有する人々の特徴を理解し、対象者の生活の調整や再構築、セルフケアを支援する看護援助方法について理解する。 講義終盤では事例学習により健康障害を抱えた成人期にある人々への援助に対する理解を深める。									
学習目的	慢性疾患によって生じる健康問題を理解し、成人期の特性や健康問題の性質を考慮した看護援助について学ぶと共に生活している人を理解する。									
到達目標	1. 慢性疾患と共に生活することを支える看護の役割について理解する。 2. 慢性疾患有する人の身体、心理、社会的特徴を理解する。 3. セルフマネージメント能力を高める援助方法や看護技術、社会的資源の活用を理解する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	慢性疾患の特徴①	慢性疾患にある人の特徴と看護の役割	粕谷恵美子
第2回	慢性疾患の特徴②	慢性疾患にある人を取り巻く環境と家族への援助	粕谷恵美子
第3回	代謝・内分泌疾患患者の看護①	糖尿病患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第4回	代謝・内分泌疾患患者の看護②	甲状腺機能障害患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第5回	循環器疾患患者の看護①	虚血性心疾患患者のアセスメント（狭心症・心筋梗塞）	粕谷恵美子
第6回	循環器疾患患者の看護②	虚血性心疾患の患者の援助	粕谷恵美子
第7回	循環器疾患患者の看護③	心不全の患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第8回	呼吸器疾患患者の看護①	気管支喘息患者の進呈的・心理・社会的特徴と援助	粕谷恵美子
第9回	呼吸器疾患患者の看護②	慢性呼吸器不全（COPD）患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第10回	呼吸器疾患患者の看護③	肺がん患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第11回	消化器系疾患患者の看護①	胃・十二指腸潰瘍の患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第12回	消化器系疾患患者の看護②	胃・十二指腸潰瘍の患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第13回	消化器系疾患患者の看護③	肝硬変・肝臓がん患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第14回	消化器系疾患患者の看護④	潰瘍性大腸炎とクロール病患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第15回	腎・泌尿器系疾患患者の看護①	慢性腎不全患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第16回	腎・泌尿器系疾患患者の看護②	前立腺患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第17回	血液・免疫系疾患患者の看護①	白血病患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第18回	血液・免疫系疾患患者の看護②	自己免疫疾患患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子

平成26年度 シラバス

第19回	脳・神経系疾患患者の看護①	脳梗塞患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第20回	脳・神経系疾患患者の看護②	筋萎縮性側索硬化症患者のアセスメントと援助	粕谷恵美子
第21回	看護過程の展開①	中間テスト・看護過程のオリエンテーション	粕谷恵美子
第22回	看護過程の展開②	看護過程の理解	粕谷恵美子
第23回	看護過程の展開③	アセスメント・看護問題の抽出・看護計画立案	粕谷恵美子
第24回	看護過程の展開④	アセスメント・看護問題の抽出・看護計画立案	粕谷恵美子
第25回	慢性にある対象者への援助①	看護技術演習（血糖チェック）	粕谷恵美子
第26回	慢性にある対象者への援助②	看護技術演習	粕谷恵美子
第27回	看護過程の展開⑤	看護過程の発表	粕谷恵美子
第28回	看護過程の展開⑥	看護過程の発表	粕谷恵美子
第29回	患者教育	成人学習とは何か、患者教育方法について	粕谷恵美子
第30回	慢性にある対象者の理解	セルフマネージメントと社会的資源の活用	粕谷恵美子
教科書	成人看護学慢性期看護 編集；鈴木久美、野澤明子、森一恵。南江堂 「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版 編集；日本糖尿病協会、日本糖尿病協会・文光堂		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学全般。医学書院、その他、講義の中で適宜紹介する		
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験60%、レポート他40%を総合して評価します。		
授業時間外の学習	復習は教科書、講義用プリントを活用してノートを整理する。予習として、次回授業の範囲の教科書を読んでおくこと。		
履修のポイント	日常生活の中で周囲の人々との関わりを通して、慢性疾患を有する患者の理解を深める。		
オフィス・アワー	実習のため不在にすることが多いので事前にメールで面談の調整をしてください。 Kasuya-e@kiryu-u.ac.jp		

平成26年度 シラバス

科目名	成人看護方法Ⅱ		担当者	林 かおり	学科	看護学科	開講期	後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
			(時間)	(60時間)			時限			
授業の概要	周手術期及び急性期にある対象の特徴について学び、必要な看護援助の方法について理解を深める。									
学習目的	周手術期及び急性期における対象の理解から看護方法の実践的知識を習得する。									
到達目標	1. 周手術期及び急性期にある対象の看護上の問題を理解する。 2. 対象の健康の維持・増進及び健康障害からの回復に必要な看護方法について理解をする。									
授業計画										
回	主 题	授 業 内 容					備考			
第1回	周手術期看護論	周手術期の考え方、概念や理論から考える周手術期看護の援助方法								
第2回	周手術期に起こる生体の変化	外科的侵襲からの回復期の生体反応、外科的侵襲の種類								
第3回	手術過程に応じた看護支援①	手術前・中の看護、麻酔導入前後の看護								
第4回	手術過程に応じた看護支援②	手術後の全身管理の方法、術後合併症について及び発症時の看護								
第5回	手術過程に応じた看護支援③	術後の継続看護、ICUでの看護								
第6回	手術過程に応じた看護支援④	回復期の看護、術後看護のポイント								
第7回	各手術時の看護支援①	消化代謝気管に障害のある人の手術（上部消化管）								
第8回	各手術時の看護支援②	消化代謝気管に障害のある人の手術・腹腔鏡下手術								
第9回	各手術時の看護支援③	消化代謝気管に障害のある人の手術（下部消化管）								
第10回	各手術時の看護支援④	その他の消化管手術を受ける人の看護								
第11回	各手術時の看護支援⑤	運動器に障害のある人の手術								
第12回	各手術時の看護支援⑥	運動器に障害のある人の手術								
第13回	各手術時の看護支援⑦	脳神経器官に障害のある人の手術								
第14回	各手術時の看護支援⑧	脳神経器官に障害のある人の手術								
第15回	各手術時の看護支援⑨	排泄器官に障害のある人の手術								
第16回	各手術時の看護支援⑩	排泄器官に障害のある人の手術								
第17回	各手術時の看護支援⑪	感覚器官に障害のある人の手術								
第18回	各手術時の看護支援⑫	感覚器官に障害のある人の手術								

平成26年度 シラバス

第19回	各手術時の看護支援⑬	性・生殖器に障害のある人の手術・内分泌器官に障害のある人の手術	
第20回	周手術期専門部門での看護	臨床での手術室看護と専門性について（外来講師による講義）	桐生厚生総合病院 手術室師長による講義
第21回	看護過程の展開：演習①	事例による看護展開	
第22回	看護過程の展開：演習②	事例による看護展開	
第23回	看護過程の展開：演習③	事例による看護展開	
第24回	看護過程の展開：演習④	事例による看護展開	
第25回	技術演習①	急性期・周手術期における看護技術演習	グループ演習
第26回	技術演習②	急性期・周手術期における看護技術演習	
第27回	看護過程の展開：演習⑤	看護過程のまとめ	
第28回	看護過程の展開：演習⑥	看護過程の発表	
第29回	周手術期各部門の看護②	日帰り手術・外来での手術を必要とする人の看護	
第30回	周手術期看護のまとめ	周手術期・救急時の急性期看護	
教科書	ナーシンググラフィカ『成人看護学⑤周手術期看護』：MCメディア出版		
参考書	系統看護学講座 各科専門分野：医学書院、竹内登美子「術中/術後の生体反応と急性期看護」医歯薬出版株式会社		
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験80%、レポート等の課題内容20%、授業参加度を総合しての評価。		
授業時間外の学習	講義資料を活用し、臨地実習でも使用できるようなノートを作成することを工夫して下さい。		
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加をすること。		
オフィス・アワー	在室時に対応をします。		

平成26年度 シラバス

科目名	セルフケア論		担当者	池田貴子	学科	看護学科	開講期	前期								
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	2学年	曜日									
			(時間)	(15時間)			時限									
授業の概要	対象が疾病や障害を持ちながらセルフケアを遂行するというセルフケアの概念と、それに関する理論の理解を深める。さらに対象がセルフケアを遂行するための看護の役割や看護援助方法について学ぶ。															
学習目的	セルフケアの概念を理解し、セルフケアを促進する看護援助の基盤となる考え方と援助方法を学ぶ。															
到達目標	1. セルフケアの概念を理解する。 2. セルフケアに関連する理論を理解する。 3. セルフケアを促進する看護援助の基盤となる考え方た、援助方法の理解を深める。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	イントロダクション		セルフケアの概念と成人期にある人々のセルフケアに対する看護の				講義									
第2回	オレムのセルフケアモデル①		オレムのセルフケア理論概要など 事例紹介				演習									
第3回	オレムのセルフケアモデル②		事例を通してセルフケア論を理解する ①対象の理解				演習									
第4回	行動変容に関する諸理論①		事例について 発表				演習									
第5回	行動変容に関する諸理論②		オレムのセルフケアモデルの看護モデルを用いた看護過程の展開				講義									
第6回	セルフケア援助方法①		オレムのセルフケアモデルの看護モデルを用いた看護過程の展開				講義									
第7回	セルフケア援助方法②		オレムのセルフケアモデルの看護モデルを用いた看護過程の展開				講義									
第8回	セルフケア援助方法③		まとめ				講義									
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	指定なし															
参考書	ドロセア E. オレム:オレム看護論—看護実践における基本概念第4版、医学書院															
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート60%、他演習など40%から総合的に評価します。 定期試験は実施しません。															
授業時間外の学習	オレム理論の背景を理解しておきましょう。															
履修のポイント	セルフケアの概念、援助の際の基本的な考え方を意欲的に学んでもらいたいと思います。															
オフィス・アワー	ikeda-ta@kiryu-u.ac.jp															

平成26年度 シラバス

科目名	精神看護学概論		担当者	藤川君江	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日			
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限			
授業の概要	心の健康問題についての理解を深め、現代社会における精神保健・医療・福祉の活動とあり方を考える。また、精神保健福祉制度を理解し、精神看護の機能と役割を学習し、精神障がい者の人権について学ぶ									
学習目的	精神看護学では、精神看護実践の基礎となる考え方や態度を養うために、精神医療福祉に関する法律や制度の歴史的変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利擁護について理解する。精神看護を実践するための基本となる理論モデルを学習する。									
到達目標	①精神看護を提供するための基盤となる制度や法律、精神科医療の歴史と現状、人権擁護について理解する。 ②精神科看護実践の基本となる理論モデルについて理解する。 ③精神看護学の基本的な考え方を理解する。 ④精神の健康と障がいについて理解する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	精神看護学の基礎	精神看護学とは 精神看護学の基本的な考え方	
第2回	精神の健康と障害	精神の健康とは 精神障がいの捉えかた	
第3回	人間の心のはたらき	人間の心の諸活動 心の危機とケア (Bio-Psycho-Socialモデル)	
第4回	人間の心のはたらき	セルフケアモデルとストレンジスモデル	
第5回	関係のなかの人間	家族との関係 集団としての関係	
第6回	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること 精神科における治療	
第7回	社会のなかの精神障がい	精神障がいと治療の歴史 日本における精神医学・精神医療の流れ	
第8回	社会のなかの精神障がい	精神障がいと文化 精神障がいと法制度	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
教科書	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 精神看護学【1】、オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開		
参考書	精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス (南江堂)		
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験90%、レポート・授業参加度10%		
授業時間外の学習	精神看護学演習、精神看護学実習の履修時の基盤となる知識であるため、配布資料やノートを整理し講義資料の熟読を復習としてお勧めします。予習は行ってください。		
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。		
オフィス・アワー	前期は臨地実習指導で教員の不在が多いため、事前に連絡して下さい。		

平成26年度 シラバス

科目名	精神看護方法		担当者	藤川君江	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日							
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限							
授業の概要	精神看護学概論で学んだ知識をもとに、精神疾患有する人、または精神的困難を抱えている人の状態を理解し、多角的にアセス面を行い、ケアプランを立案できるか能力を養う。精神疾患有人や家族に対して、看護が果たす役割と課題を習得することを目指す。													
学習目的	精神疾患有および精神的困難を持つ人を理解し、必要な看護を実践するための知識とアセスメント技術、看護実践の方法を習得する。													
到達目標	①精神を病む人の生活背景を尊重し、その心理を理解し看護の役割について考えることができる。 ②精神科看護における治療的コミュニケーションについて理解する。 ③事例を通して看護の展開方法を理解する。 ④当事者の体験から、自己の看護観を育み、生活者としての視点を理解する。													
授業計画														
回	主 题		授業内容				備考							
第1回	ケアの人間関係		ケアの原則 ケアの方法											
第2回	ケアの人間関係		プロセスレコードの活用方法 患者一看護師関係でおこること チームのダイナミクス											
第3回	精神科における看護の役割		入院治療の意味を理解する 治療的環境											
第4回	精神科における看護の役割		安全を守る 緊急事態に対処する											
第5回	精神科における看護の役割		精神科におけるリハビリテーション 回復を支える様々方法											
第6回	精神科における看護の役割		退院支援 訪問看護											
第7回	身体のケア		精神科の治療と身体のケアの実際											
第8回	身体のケア		身体合併症 行動制限と看護											
第9回	日常生活援助		日常生活援助 活用する技術											
第10回	地域における精神看護		地域で生活するための原則 生活を支える制度 地域での看護の実際											
第11回	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		感情労働としての看護 感情労働を生きのびるために											
第12回	統合失調症の人の看護		情報収集 アセスメント 看護問題 ケア計画											
第13回	統合失調症の人の看護		看護過程の展開（演習）											
第14回	統合失調症の人の看護		看護過程の展開（演習）											
第15回	当事者の体験		伊勢崎地域活動支援センターの概要 当事者の体験											
教科書	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学〔2〕、オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開													
参考書	精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂）													
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験90%、レポート・授業参加態度10%													
授業時間外の学習	精神看護学演習、精神看護学実習の履修時の基盤となる知識であるため、配布資料やノートを整理し講義資料の熟読を復習として勧めます。予習は行ってください。													
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。													
オフィス・アワー	事前に連絡して下さい。													

平成26年度 シラバス

科目名	高齢期看護学概論		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期	前期									
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2年生	曜日										
		(時間)	(15時間)				時限										
授業の概要	高齢期は加齢に伴う身体の形態変化や心身機能の低下がみられる時期である。授業では高齢期にある人々の心身の特徴、健康生活および健康障害について、その回復過程を含めて生活の視点から学習する。高齢者の健康問題は、その人のその後の発達を防げること、さらにはその家族にも影響を及ぼすことについても学習する。さらに高齢者を取り巻く社会環境の変化の状況を学び、課題とその対策についても学習する。																
学習目的	高齢期の意味や加齢による身体的、心理・社会的变化を理解し、高齢社会の現状、高齢者のライフスタイルやニーズを知り、高齢期看護のあり方を学ぶ。																
到達目標	1. 高齢期看護学の概要を理解できる。 2. 高齢期看護の対象をその生活背景から、身体的、心理・社会的に理解できる。 3. 高齢社会の現状と高齢期看護の目的と役割が理解できる。 4. 高齢期の発達課題を知り、高齢期看護の目的と役割が理解できる。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	老いるということ 老いを生きるということ	・老いとは ・老いるとは：その身体的・心理的側面の変化 ・高齢者の発達課題 ・高齢者と生涯学習															
第2回	高齢社会の統計的輪郭	・わが国の高齢化の現状 ・高齢者の健康状態 ・高齢者のいる世帯、 ・高齢者のくらし															
第3回	高齢社会における保健医療福祉の動向	・高齢者とソーシャルサポート ・保健医療福祉システムの構築(介護保険制度の概要とその課題、高齢者医療の仕組み)															
第4回	高齢者を支える職種とその活動の多様化	・高齢者の生活と健康を支える多様な職種 ・看護職の活動の拡大と専門化															
第5回	高齢社会における権利擁護	・高齢者に対する烙印と差別 ・身体への拘束 ・高齢者虐待 ・権利擁護のための制度															
第6回	高齢期看護の理念	・高齢期看護の定義と変遷 ・高齢期看護における4つの要素 ・老年看護学教育の変遷 ・高齢期看護実践の特徴															
第7回	高齢期看護に活用できる理論・アプローチ	・サクセスフルエイジング ・コンフォート ・エンパワメント ・ウェルネスアプローチ ・ライフストーリー ・スピリチュアリティ															
第8回	高齢者理解に活用できる指標とツール 高齢者の社会参加	・国際生活機能分類、高齢者総合機能評価、BADLとIADL、認知機能のアセスメントツール ・地域在住高齢者の社会活動(実践例)の紹介															
第9回																	
第10回																	
第11回																	
第12回																	
第13回																	
第14回																	
第15回																	
教科書	北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版、医学書院、2014年。																
参考書	山田律子他編：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第2版、医学書院、2012年。																
成績評価	単位認定60点以上 筆記テスト80%、課題レポート20%																
授業時間外の学習																	
履修のポイント	1. 毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。その日のうちに必ず提出してください。 2. 随時、小テストを行います 3. 授業はノートをとりましょう 4. 毎回復習をしましょう																
オフィス・アワー	在室時には対応します。																

平成26年度 シラバス

科目名	高齢期看護方法		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期	後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日			
			(時間)	(60時間)			時限			
授業の概要	高齢期を生きる人々の持つ多様な特性の理解を深め、高齢者を理解していくための基礎的能力を学習する。高齢期にある人の潜在・顕在する健康上の問題を解決・緩和・回避をめざした健康な発達を支援するための方法を学習する。この過程を通して効果的な看護を展開するための知識・技術を活用することの重要性を学習する。									
学習目的	高齢期にある人々の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護を展開する方法を学習する。									
到達目標	1. 高齢期の人々の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理解する。 2. 高齢期の人々の健康問題の解決・緩和、回避に向けた支援方法を理解する。 3. 高齢期の人々の健康問題を解決・緩和、回避するために必要な看護技術を習得する。 4. 臨地実習で遭遇する頻度の高い事例を通して、個別に応じた看護過程の展開を習得する。 5. 高齢期を生きる人々の健康状態と権利擁護について理解する。									
授業計画										
回	主題	授業内容					備考			
第1回	高齢者のアセスメント①	1. 高齢者のアセスメント 1) 身体の加齢変化とアセスメント 2) 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント								
第2回	高齢者のアセスメント②	1. 高齢者とのコミュニケーション 2. 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害と看護 3. コミュニケーション障害のアセスメント								
第3回	検査・治療を必要とする高齢者の看護①	1. 外来受診・入院する高齢者への看護 1) 検査・治療を受ける高齢者の特徴								
第4回	治療を必要とする高齢者の看護②	1. 検査・治療を受ける高齢者への看護ケア 1) 高齢者の検査・治療過程における看護支援								
第5回	治療を必要とする高齢者の看護③	1. 手術療法と看護ケア 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前、術後の看護マネジメント								
第6回	治療を必要とする高齢者の看護④	1. 高齢者に起こりやすいリスクと看護								
第7回	治療を必要とする高齢者の看護⑤	1. 疾患をもつ高齢者への看護ケア 脱水 2. 意識障害のある高齢者のアセスメントと看護 1) 意識レベルの観察と看護ケア								
第8回	治療を必要とする高齢者の看護⑥	1. 疾患をもつ高齢者への看護ケア 1) 脳卒中、心不全、パーキンソン病、骨粗鬆症、骨折								
第9回	治療を必要とする高齢者の看護⑦	1. 薬物療法を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法の身体への影響と看護								
第10回	治療を必要とする高齢者の看護⑧	1. 薬物療法を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法の有害反応の観察と看護ケア								
第11回	治療を必要とする高齢者の看護⑨	1. 認知機能の障害に対する看護ケア 1) うつ、せん妄、認知症								
第12回	治療を必要とする高齢者の看護⑩	1. 終末期における看護 1) 高齢者の死 2) 終末期ケアとは								
第13回	地域資源を活用した看護の展開	1. 在宅高齢者への看護 2. 保健医療福祉施設における看護								
第14回	日常生活動作①	1. 摂食・嚥下障害のある高齢者のアセスメントと看護ケア 1) 摂食・嚥下機能障害の看護ケア								
第15回	日常生活動作②	1. 排泄障害のある高齢者のアセスメントと看護ケア								
第16回	日常生活援助①	1. 廉用症候群の予防と看護ケア 1) 廉用性症候群とは 2) 高齢者のリハビリテーション 3) 梅毒								
第17回	日常生活援助②	1. 片麻痺のある高齢者への食事援助技術 口腔ケア・義歯のケア					演習			
第18回	日常生活援助③									

平成26年度 シラバス

第19回	日常生活援助④	1. 寝たきり高齢者の排泄の援助技術	
第20回	日常生活援助⑤		演習
第21回	感染リスクと管理	1. 感染症が高齢者にもたらす問題 1) インフルエンザ、肺炎、感染性胃腸炎	
第22回	高齢者のリスクマネージメント	1. 高齢者と医療安全 2. 高齢者と災害	
第23回	看護過程の展開①	1. 看護過程の展開 1) 事例展開と文献検索 2) 情報収集	
第24回	看護過程の展開②	3) アセスメント 4) 看護問題の抽出	グループワーク
第25回	看護過程の展開③		
第26回	看護過程の展開④	5) 関連図の作成	グループワーク
第27回	看護過程の展開⑤		
第28回	看護過程の展開⑥	6) 看護計画立案	グループワーク
第29回	看護過程の展開⑦		
第30回	看護過程の展開⑧	2. 看護計画の発表、まとめ	
教科書	1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版、医学書院、2014年。 2. 泉キヨ子・天津栄子編：根拠がわかる 老年看護技術 第2版、メヂカルフレンド社、2013年。		
参考書	1. 佐々木英忠他編集：系統看護学講座、老年看護 病態・疾患論 第4版、医学書院、2014年。		
成績評価	単位認定 60%以上 リアクションペーパー(10%)、筆記試験(90%)		
授業時間外の学習			
履修のポイント	1. 毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。その日のうちに必ず提出してください。 2. 隨時、小テストを行います 3. 授業はノートをとりましょう 4. 毎回復習をしましょう		
オフィス・アワー	在室時には対応します。		

平成26年度 シラバス

科目名	高齢期看護学実習Ⅰ		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期	後期															
区分	専門科目	必修	単位 (時間)	1単位 (45時間)	学年	2学年	曜日																
							時限																
実習の概要	通所介護施設における高齢者の生活とケアの実際を知り、高齢者の健康および日常生活状況に応じた高齢者看護のあり方について考える。																						
学習目的	通所介護施設を利用する高齢者を支えるケアシステム、社会資源の活用について学ぶ。また、対象者の生活史を知ることで、生きてきた社会的背景と価値観の多様性を学ぶ。リスクマネジメントの視点と高齢者に対する尊厳という倫理面での配慮をもち、実習を通して高齢者看護のあり方を学ぶ。																						
到達目標	1. 対象の生活史を理解し、多様な価値観を持つ生活者であることを学ぶことができる。 2. 地域の保健・医療・福祉サービスが円滑に連携を図るために、多職種連携について学ぶことができる。 3. 高齢者とその家族への社会的支援の実際を学ぶことができる。 4. 高齢者の尊厳がどのように守られているか、そのために必要な関係者間の調整的役割について学ぶことができる。																						
実習計画																							
回	主題		実習内容				備考																
第1回	学内学習		1. 事前学習を提出する。 2. オリエンテーションを受ける。 3. カンファレンスを通して、メンバーシップとリーダーシップを学び、自己の学習課題を明確にする。																				
第2回	臨地実習 通所介護施設		1. 当日の担当高齢者に、実習協力を依頼をする。 2. アセスメント（観察法、ライフインタビュー、フィジカルアセスメントなど）をする。																				
第3回			1. 指導者と共に、高齢者の安全性を確保しながら看護ケアを行う。 2. ケアを通して、高齢者とコミュニケーションができる。																				
第4回			1. 相手を尊重した態度で高齢者に接することができる。 2. アクティビティに参画する。																				
第5回	まとめ		1. 課題レポート（実習全体を振り返って学習目標の達成度を評価し、今後の私の課題を見出す）を作成し、提出する。 2. 実習で学んだこと（成果）を発表する。																				
教科書	特に指定はしません。 日頃から定期的に大学図書館を訪ねて、「ブチナース」・「Nursing Today」・「月刊ナーシング」、「コミュニティケア」などの看護専門雑誌をブラウジング（本棚を漫然と眺めて、気になる本があれば取り出して読むこと）しておきましょう。																						
参考書	隨時、紹介します。																						
成績評価	単位認定60点以上	事前学習、実習内容、提出物（課題レポート）などを総合的に評価する。																					
授業時間外の学習																							
履修のポイント	高齢者の生きてきた時代背景の理解、コミュニケーション、生活機能、自己決定（尊厳・尊重）支援の理解																						
オフィス・アワー	在室時には対応します。																						

平成26年度 シラバス

科目名	在宅看護学概論		担当者	木部 美知子	学科	看護学科	開講期	前期			
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日				
		(時間)	(15時間)				時限				
授業の概要	高齢化社会や疾病構造の変化、療養者のQOLの追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などを背景にして在宅看護の必要性は高まっている。在宅療養者と介護する家族の特徴を捉え、継続看護や在宅での生活支援の必要性や在宅ケアシステムや社会資源の活用およびマネジメント機能について学ぶ。										
学習目的	地域で療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々とその家族の特性、在宅看護意義を理解し、在宅における看護活動に必要な知識習得する。さらに、在宅ケアシステム、在宅ケアチームにおける看護職の役割及び訪問看護活動の特徴について理解する。										
到達目標	1. 在宅看護における社会背景及び在宅看護の意義が理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の対象とその特徴が理解できる。 3. 在宅看護に関連する諸制度や関連機関を理解できる。 4. 訪問看護ステーションの役割・機能、訪問看護活動の特徴について理解する。 5. 在宅看護と安全、看護の継続性について説明できる。 6. 在宅療養者とその家族の権利保障について理解できる。										
授業計画											
回	主題	授業内容					備考				
第1回	在宅看護の目的	在宅看護における社会的背景、在宅看護の現状									
第2回	在宅看護のと特徴	在宅看護の意義・特性在宅看護の目的と特徴、在宅看護の役割と機能									
第3回	在宅看護の対象	在宅療養者および家族への支援、在宅療養者のQOL									
第4回	在宅看護の制度	在宅看護における法制度、訪問看護ステーションと関連機関、関連職種									
第5回	在宅看護と生活支援	家族システムと家族の危機、看護の継続性、退院支援									
第6回	療養者およびその家族の権利保障	個人情報の保護、自己決定権、後見制度講義									
第7回	在宅看護と安全	感染防止、医療事故防止、災害時の対応講									
第8回	在宅看護の展開	在宅看護過程展開のポイント									
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
教科書	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	医学書院			定価 2,520円	(税込)					
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 実習前指定	メヂカルフレンド社 医歯薬出版			定価 4,935円	(税込) 定価 2,730円	(税込)				
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・課題20%以上										
授業時間外の学習	学習テーマ別、個人演習（技術練習）										
履修のポイント	要介護高齢者の介護に関する社会的问题や在宅医療の必要な療養者の生活などの新聞ニュースも自分から積極的に取り込んで、主体的に学習すること。講義は、テキストと資料を基に行うので予習復習をしっかり行う。レポート課題あり。										
オフィス・アワー	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室、学習テーマ別個人演習（技術練習）										

平成26年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護学概論		担当者	小此木久美子	学科	看護学科	開講期	前期
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限	
授業の概要	公衆衛生看護活動の変遷を歴史的背景を踏まえて学ぶ。人々の暮らす地域の健康水準向上のため公衆衛生看護活動の果たす役割や期待される能力について理解する。諸外国の公衆衛生看護活動や国際協力の在り方について学び多文化共生の状況を理解して公衆衛生について理解する。							
学習目的	人々の生活している地域を基盤として展開される公衆衛生看護活動について焦点を当て学習を深める。公衆衛生活動の対象の捉えた方について理解する。多様化している社会状況で、公衆衛生保健師活動について理解する。							
到達目標	1) 公衆衛生看護学の成立基盤 2) 公衆衛生の看護学の構成 3) 社会換気用と健康課題 4) 地域住民の保健関連行動 5) 公衆衛生看護研究							

授業計画

回	主 题	授業内容	備考
第1回	ガイダンス公衆衛生看護学の理看護概念の変遷から公衆衛生看護で活用される理論。		
第2回	公衆衛生看護学の歴史	公衆衛生看護活動の芽生え	
第3回	公衆衛生看護における特性	公衆衛生看護における看護職の目的及び家族の特性	
第4回	公衆衛生活動方法	地域診断から地域における看護活動の展開	
第5回	社会情勢の変遷	人口構成から経済産業構造を理解する	
第6回	国際協力	国際機関・世界経済と援助理念を学び看護の果たす役割を学ぶ	
第7回	健康に影響する生活環境要因	文化・価値観の多様化から健康課題を学ぶ	
第8回	社会病理①	感染症と人権及び感染症患者に対する医療に関する法律を理解する	
第9回	社会病理②	虐待の予防から保護について	
第10回	地域住民の保健関連行動①	個人の健康課題への対処方法	
第11回	地域住民の保健関連行動②	組織としての健康課題への対処	
第12回	群馬県の公衆衛生保健活動	国保保健師の活動実践から学ぶ	
第13回	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理の意義・地域の健康課題の施策化と予算	
第14回	公衆衛生看護研究	研究の基本的理解及び研究方法	
第15回	健康に課題から対策案作成	発表・まとめ	

教科書	最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論(メディカルフレンド社)
参考書	国民衛生の動向(厚生労働協会) 保健師業務要覧(日本看護協会出版会)
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験60% レポート40%
授業時間外の学習	概論は幅広く関連領域の学習が必須であるため、歴史や社会学の関連図書を読むこと。事前学習課題をすること。
履修のポイント	関連法規について学習わ進めること
オフィス・アワー	研究室在室時は対応します。

平成26年度 シラバス

科目名	在宅看護方法		担当者	木部 美知子	学科	看護学科	開講期	後期							
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日								
		(時間)	(30時間)				時限								
授業の概要	在宅療養者と家族への具体的な日常生活援助方法や医療処置を伴う看護援助方法、障害者、高齢者、終末期患者など対象別の在宅看護の特徴を学ぶ。さらに在宅看護の事例展開をとおし社会資源の活用や他職種との連携在宅療養者および家族に対する看護実践のために必要な知識・技術について学習する。														
学習目的	在宅・訪問看護実践のために必要な基礎的知識・技術を養う。														
到達目標	1. 在宅看護における在宅看護過程の基本が理解できる。 2. 在宅療養者の日常生活援助について理解できる。 3. 在宅療養者の状態別看護について理解できる。 4. 在宅における医療管理を必要とする看護を理解できる。														
授業計画															
回	主題	授業内容					備考								
第1回	在宅看護過程	事例展開	オリエンテーション	①情報の整理			GW								
第2回	在宅看護過程	事例展開	②情報の整理				GW								
第3回	在宅看護過程	事例展開	③アセスメント				GW								
第4回	在宅看護過程	事例展開	④アセスメント				GW								
第5回	在宅看護過程	事例展開	⑤援助計画				GW								
第6回	在宅看護過程	事例展開	⑥援助計画				GW								
第7回	在宅看護過程	事例展開	実施				演習・VTR撮影								
第8回	在宅看護過程	事例展開	実施				演習・VTR撮影								
第9回	在宅看護過程	在宅看護過程発表	まとめ				演習（評価）								
第10回	在宅看護過程	在宅看護過程発表	まとめ				演習（評価）								
第11回	在宅看護の実際	1)在宅で看護の展開 2)在宅で求められる技術の応用 3)在宅療養の時期の特徴と看護介入：導入期(退院前)～終了期					講義								
第12回	在宅療養者の日常生活援助	1)在宅看護援助の基本 2)具体的援助内容：環境整備、食事、排泄、清潔、服薬管理 3)リハビリテーションの援助内容					講義								
第13回	療養者の症状・状態別の看護	脳血管疾患（寝たきり老人）／難病患者／認知症患者 感染症患者／在宅ターミナルケア／精神障害者					講義								
第14回	特殊な技術をともなう在宅看護	在宅酸素療法／在宅人工呼吸療法／CAPD療法／ストーマケア術割ケア／経管栄養／在宅中心静脈栄養（PN）吸引（鼻腔・口腔・気管内吸引）／気管切開口ケア／疼痛コントロール					講義								
第15回	まとめ	在宅ターミナルケアと訪問看護 訪問看護ステーション実習に向けて					講義（非常勤講師）								
教科書	「在宅看護学実習要項」「在宅看護学実習の進め方」配布 秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論														
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 授業開始前指定														
成績評価	単位認定 60 点以上 実習内容、実習記録、態度、出席を総合的に評価する(実習評価表参照)。														
授業時間外の学習	学習テーマ別個人演習（技術練習）														
履修のポイント	欠席による時間数不足、内容不足などに対する再実習はできないため、注意すること。														
オフィス・アワー	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室														

平成26年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ【個人・家族・集団・組織への支援活動】	担当者	高橋/小此木/鈴木	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	選択	単位	2	学年	2	曜日								
	(必修)	(時間)		60			時限								
授業の概要	公衆衛生看護活動の方法として、地域アセスメント、地域診断について学習し、地域の健康課題を把握し、適切な支援方法について学習する。 また個人・家族・集団・組織への具体的な支援方法として、健康診査、健康相談、家庭訪問、保健指導、健康教育などの、計画立案、実施、評価について学習する。														
学習目的	地域で生活する個人・家族・集団・組織を対象として、様々な健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進と障害予防支援のため理論、知識、技法について理解することが目的である。														
到達目標	1) 公衆衛生看護活動の実践のための基本的な技術、方法について理解する。 2) 保健師が行う家庭訪問において、対象者のアセスメント、訪問支援計画立案から評価まで説明できる。 3) 個別支援としての健康相談、保健指導について意義を説明できる。 4) 集団的支援としての健康教育の意義を説明でき、実施計画の立案と評価ができる。 5) 地域特性を把握する視点を説明できる。 6) 地域特性に応じた看護過程の展開方法について理解する。 7) 地域診断の意義と方法について説明できる。 8) 地域診断の結果を保健事業につなげる意義が理解できる。														
授業計画															
回	主題	授業内容				備考									
第1回 第2回	公衆衛生看護活動論ガイドンス 地域診断①概念	・地域（コミュニティ）の捉え方 ・地域診断の考え方 ・地域診断に関連するモデル													
第3回 第4回	地域診断②過程	・地域の情報収集とアセスメント ・統計資料の活用方法 ・地域踏査の方法													
第5回 第6回	地域診断③健康課題の明確化	・分析と診断 ・地域特性を生かした対応策の検討 ・計画と評価													
第7回 第8回	地域診断④保健事業と保健師役割	・自分の暮らしている町の地域診断を実施し、その結果を発表													
第9回 第10回	コミュニティへの支援①	・健康教育とは・集団健康教育と保健師役割													
第11回 第12回	コミュニティへの支援②	・健康教育の企画書と指導案の作成													
第13回 第14回	コミュニティへの支援③	・健康教育の実際・解かりやすく伝える技術（教材やパンフレット作成時の留意点）													
第15回 第16回	コミュニティへの支援④	・計画した健康教育の共有化（発表）と評価				中間授業評価									
第17回 第18回	集団・組織への支援①	・集団健診と検診のありかた ・事後のフォローアップ方法 ・ハイリスクアプローチとポビュレーションアプローチ				【中間テスト】									
第19回 第20回	集団・組織への支援②	保健師がかかわる組織・グループとは ・組織化活動およびグループ支援と保健師の役割													
第21回 第22回	個人・家族への支援①	・個人・家族への支援の目的と方法 ・家族アセスメントとは													
第23回 第24回	個人・家族への支援②	・家庭訪問とは ・家庭訪問の法的根拠・家庭訪問による支援計画と方法、評価													
第25回 第26回	個人・家族への支援③	・家庭訪問の実際（事例を用いて、訪問計画立案する、訪問時のマナー、報告）													
第27回 第28回	個人・家族への支援④	・健康相談（保健指導）とは・健康相談（保健指導）の設定と支援方法、評価（ロールプレイ）													
第29回 第30回	公衆衛生看護に関する動向	・公衆衛生職員の養成と看護研究の動向				【まとめテスト】授業評価									
教科書	最新保健学講座5 公衆衛生看護支援技術 最新保健学講座2 公衆衛生看護管理論 メジカルフレンド社														
参考書	国民衛生の動向 ・コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第2版）医学書院														
成績評価	単位認定 60 点以上 定期試験50%（2回） 記述提出物（レポート含む）30% プレゼンテーション20%														
授業時間外の学習	授業時に必要な資料を事前に準備していただことがあります。発表資料の作成等、時間内にできない場合は、宿題となります。														
履修のポイント	保健師養成課程の科目です。公衆衛生、予防的対応に興味にある人は履修してください。グループワークが多いので、欠席しないで協調性をもって臨んでください。														
オフィス・アワー	主に月曜日。教員が在室しているときは、対応します。														

平成26年度 シラバス

科目名	機能看護学概論		担当者	池田貴子	学科	看護学科	開講期	前期		
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日			
		(時間)	(15時間)				時限			
授業の概要	専門職としての看護の機能について学ぶ。医療は社会のニーズの変化に対応してきたが、看護もそのひとつである。次の世代を担う学生達は、看護の変遷を学びながら看護の役割を学び、21世紀における看護のあり方について考える。看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。									
学習目的	専門職としての看護の役割と機能がわかる。 看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。									
到達目標	1. 看護が社会のニーズの変化に対応していることがわかる。 2. 専門職としての看護の機能を理解する。 3. 看護サービスの独自性を理解する。 4. 看護の機能の内容を理解する。 5. 看護の専門職業人としての必要な知識・技術・態度について理解する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	看護の機能とは	専門職としての看護師	講義
第2回	看護の歴史	社会のニーズの変化に対応している看護の変遷	講義
第3回	看護における法的側面	看護職者の倫理、倫理綱領、アドボカシー	講義
第4回		サービスとしての看護	演習
第5回	看護サービスとは	発表	演習
第6回	看護職者の教育とキャリア開発	看護教育制度、教育の形態、スペシャリスト、看護組織 小試験	講義
第7回	看護の役割	看護の目的、看護の定義、ケアリング	講義
第8回	看護の教育的機能と管理的機能	看護の対象と看護の方法	講義
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

教科書	小山真理子編:看護学基礎テキスト第4巻看護の機能と方法、日本看護協会出版会、2012.
参考書	松木光子編:基礎看護学看護学概論 看護とは・看護学とは[第4版]、ヌーベルヒロカワ、H19. 川村佐和子他編:基礎看護学－看護学概論 ナーシンググラフィカ⑯、メディカ出版。 藤崎郁著者代表:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学[1]、医学書院、2009. 杉田暉道著者代表:系統看護学講座 別巻 看護史、医学書院、2005. 小玉香津子訳:看護の歴史、医学書院、1978. 叶谷由佳、木村憲洋編:イラスト図解看護のしくみ、日本実業出版社、2007.
成績評価	単位認定 60 点以上 客観試験 60% 授業および演習態度 10% 学生評価 10%, レポート 20%
授業時間外の学習	倫理的問題をテーマとしたレポートは、教科書だけない文献を読むことが必要です。グループで行う演習は、授業以外の作業が必要です。自分と他の人の協同作業が必要です。
履修のポイント	医療の専門職になる皆さんにとって、自分自身を振り返ることで動機づけにつながると思います。
オフィス・アワー	ikeda-ta@kiryu-u.ac.jp

平成26年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅰ（看護倫理）	担当者	倉林しのぶ/木嶋千枝	学科	看護学科	開講期	前期							
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日							
		(時間)	(30時間)	時限										
授業の概要	看護倫理の歴史的発展、今日の医療における看護職者の立場より担っていくべき倫理的責任、看護倫理アプローチとしての「原則の倫理」と「徳の倫理」の側面からの検討を通して看護専門職組織の社会的役割及び日本の文化の中での倫理的問題解決について探究する。													
学習目的	看護倫理の基礎的理解を図り、その基盤の上に看護倫理のアプローチを用いた事例検討、看護職の倫理綱領の理解、各国の看護における倫理、研究における倫理を通して、看護実践の中心に位置する倫理的に物事を考える道筋を見いだせるようにする。													
学習目標	1. 看護倫理の基礎的知識を理解する。 2. 看護倫理のアプローチについて理解する。 3. 諸外国と日本における倫理について自分の意見を述べる。 4. 学習資料などを通して看護の倫理を考え、意見を述べる。													
授業計画														
回	主題	授業内容				備考								
第1回	倫理とはⅠ	「価値」について				倉林								
第2回	倫理とはⅡ	倫理の基礎				倉林								
第3回	徳の倫理と原則の倫理Ⅰ	よい看護師とは				倉林								
第4回	徳の倫理と原則の倫理Ⅱ	倫理原則とその限界				倉林								
第5回	臨床倫理に関わる課題Ⅰ	インフォームド・コンセント				倉林								
第6回	臨床倫理に関わる課題Ⅱ	事例検討（グループワークディスカッション）				倉林								
第7回	臨床倫理に関わる課題Ⅲ	守秘義務 その他				倉林								
第8回	まとめ	事例検討（グループディスカッション）				倉林								
第9回	自律尊重	事例検討（紙おむつの洗髪）				木嶋								
第10回	知る権利	事例検討（癌の告知をためらう家族）				木嶋								
第11回	アドボカシー	事例検討（本音を言えない患者の退院支援）				木嶋								
第12回	バターナリズム	事例検討（糖尿病患者と患者教育）				木嶋								
第13回	守秘義務	事例検討（家族へも言いたくない秘密）				木嶋								
第14回	自律尊重	事例検討（認知症患者の意思について）				木嶋								
第15回	まとめ	事例検討（グループディスカッション）				木嶋								
教科書	小西恵美子編：看護倫理、南江堂													
参考書	授業の中で事例をはじめ各資料を配布する													
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中の発表状況、レポート、筆記試験													
履修のポイント	倫理は看護の行動を左右する。看護実践の中心に位置し、よりよい看護者となっていくことを助ける。													
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅰ (看護教育とキャリア発達)		担当者	斎藤敦子・林かおり	学科	看護学科	開講期	前期・後期							
区分	専門科目	必修	単位	1単位	学年	2学年	曜日								
			(時間)	(15時間)			時限								
授業の概要	専門職のあり方、専門職としての看護はどのような役割を社会で担う必要があるのかを自覚する。														
学習目的	大学行事である継承式の企画及び準備をすることで、先人たちから受け継ぐべき看護の本質について考える。														
到達目標	自らの看護職としての看護観を明らかにする。														
授業計画															
回	主題	授業内容					備考								
第1回	専門職とは何か	専門職に従事している人々の物事に関する考え方及び現代社会での動向を学ぶ。					講義								
第2回	専門職としての看護と現状	専門職業としての看護師の役割と責任について理解をする。					講義								
第3回	継承式の準備														
第4回	継承式の準備														
第5回	継承式の準備	係り学生を中心に全員で継承式の企画及び準備					企画・準備・練習								
第6回	継承式の準備														
第7回	継承式														
第8回	専門職としての看護	専門職としての看護について各自の課題を明らかにし、レポートをまとめる。					グループディスカッション								
第9回															
第10回															
第11回															
第12回															
第13回															
第14回															
第15回															
教科書	使用せず														
参考書	「看護の定義と概念」林滋子：看護協会、「職業としての学問」マックスウェーバー：岩波文庫														
成績評価	単位認定 60 点以上 継承式に向けての準備と参加及び課題レポートを総合的に評価をする。														
授業時間外の学習	看護学概論、看護学言論の教科書、看護理論集、看護の歴史等に関する書籍を積極的に講読して下さい。														
履修のポイント	積極的に継承式に備えて準備をし、参加をすること。														
オフィス・アワー	在室時対応します。														

平成26年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅱ		担当者	監物 千代子	学科	看護学科	開講期	後期				
区分	専門科目	必修	単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	2学年	曜日	時限				
授業の概要	医療・看護の場はわずかな間違いが、患者の生命や身体の障害につながる危険性をもはらんえいる。人は、間違いを起こす存在である事を自覚したうえで、エラーを防止し医療安全を守る必要がある。ヒューマンエラーを防止するためのシステム、おこりやすい医療事故とその防止についての知識と技術を習得する。											
学習目的	看護の質・看護師の業務について関連を捉え医療安全とは何か理解できる。 おこりやすい医療事故とその防止策について理解できる。											
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護の役割と責任について学ぶ。 医療事故とその防止方法についての、基本的な知識を習得する。 医療事故に関する動向と新人が陥りやすい事故について学ぶ。 											
授業計画												
回	主題		授業内容				備考					
第1回	医療安全とは何か		医療安全の基礎知識と看護師の役割・看護師の責務 (手術患者取り違い事件から学ぶもの)									
第2回	事故発生のメカニズムと防止対応 ヒューマンエラーとは何か？事故の特性と事故を誘発させる要因											
第3回	診療の補助業務に伴う事故防止 (I)		患者に投与する業務における事故防止 注射業務での間違えやすい表現・医療機器の基礎を学ぶ									
第4回	診療の補助業務に伴う事故防止 (II)		患者に投与する業務における事故防止 内服与薬の事故防止・輸血業務・経管栄養・チューブ管理									
第5回	療養上の世話における事故防止 (I)		療養上の世話における事故防止の捉え方 転倒・転落事故防止									
第6回	療養上の世話における事故防止 (II)		療養上の世話における事故防止の捉え方 誤嚥・異食・入浴中の事故									
第7回	業務上の危険と防止策		KYT(危険予知トレーニング)写真・イラストを用いる。 グループ検討									
第8回	学生の実習と安全		医療安全とコミュニケーション(基礎実習から) 実習中の事故を予防する。事故発生時の学生の行動									
第9回												
第10回												
第11回												
第12回												
第13回												
第14回												
第15回												
教科書	系統看護学講座		医療安全		看護の統合と実践[2]		川村治子	医学書院				
参考書												
成績評価	単位認定 60 点以上 レポート100%評価											
履修のポイント												
履修のポイント												
オフィス・アワー												

平成26年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅲ（緩和ケア）		担当者	櫻井通恵	学科	看護学科	開講期	後期											
区分	専門科目	選択	単位	1 単位 (15時間)	学年	2学年	曜日												
			(時間)				時限												
授業の概要	がん患者および家族への看護活動を理解するために以下の内容を学習する。 1. がんの病態および治療の概要 2. がん患者の精神的・身体的特徴と看護援助 3. がん患者と家族の特徴の理解と看護援助 4. 緩和ケア、グリーフケアについて																		
学習目的	1. 罹患率、死亡率ともに高いがんの病態、症状、治療、看護の特殊性を理解する。 2. がん患者の苦痛を全人的に捉え、患者家族に対する看護援助の方法を理解する。 3. がん患者・家族のQOLを高める看護援助方法と看護の役割について理解する。																		
到達目標	1. がん患者の病態、身体的特徴、治療の特徴について説明することができる。 2. 緩和ケアの目的と実際について説明することができる。 3. がん看護における倫理について説明できる。 4. がん患者の特徴的な身体的苦痛とその対応について説明できる。 5. がん患者の苦痛を全的にとらえ適切な看護援助について説明できる。 6. 終末期にあるがん患者と家族の特徴を理解し、患者家族のニーズにあった看護援助について説明できる。																		
授業計画																			
回	主題		授業内容				備考												
第1回	がんの特殊性		がんの動向、病態・治療の特殊性について																
第2回	がん看護における倫理的課題		倫理・看護倫理、緩和ケアをめぐる倫理的課題について																
第3回	緩和ケア		緩和ケアの歴史、緩和ケアの理念、緩和ケアの現状について																
第4回	がん患者の心理的・社会的・靈的苦痛と援助		がん患者の全人的苦痛と看護援助について、死生観について考える																
第5回	がん患者の身体的苦痛の援助・薬物療法		がん患者の身体的苦痛と身体症状のマネジメントとケア、薬物療法																
第6回	エンゼル・ケア、家族・遺族ケア		死後の処置の意味、家族・遺族ケアについて																
第7回	がん患者・家族の思い		がん患者の思いとそれを支える家族への支援を考える																
第8回	授業まとめ・試験		終末期患者に対する看護まとめ・試験																
第9回																			
第10回																			
第11回																			
第12回																			
第13回																			
第14回																			
第15回																			
教科書	緩和・ターミナルケア看護論 ヌーベルヒロカワ																		
参考書																			
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上																		
授業時間外の学習																			
履修のポイント																			
オフィス・アワー																			

平成26年度 シラバス

科目名	看護専門職論Ⅳ（多文化共生）		担当者	島田啓介	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	選択	単位	1 単位	学年	2 学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	<p>・通り過ぎている日常の事象に「気づき」を向け、自分と周囲を新たな視点で見直す。身近な物事や人間関係や環境から出発して、日本・世界へと探究を広げ、異なる価値観への理解を深める。・授業は、学内・学外・日常という3つの場面を活用し、課題提出からのフィードバックを取り入れながら行う。・フィールドワークとして近隣の市街地の探索、または交流授業などによって、実践的なコミュニケーション力を育む機会を持つ（予定）。・授業は演習方式を多く取り入れ、学生相互の学びあいによって進める。・各授業の終わりに、「ふりかえり用紙」の記入によって各回の学びのまとめを行う。</p>															
学習目的	<p>日常に「すでに存在する」現象をきっかけに多文化に気づきを向け、それらにいかに支えられているかを知る。他者にどう向かい合い、異なった価値観に橋をかけるのか、自分の頭で考え、演習とフィールドワークを通じて実践的なコミュニケーション力を磨く。医療職・援助職として自分自身と対象者に向かい合う基本的な姿勢を培う。</p>															
到達目標	<p>授業は基本的に全員参加の演習型。グループワークや相互的な学習を通じ、各自の中に潜在する希望や動機を掘り起し、将来の職場や生活の場において活用できるような力を養う。</p>															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	オリエンテーション		多文化共生への基本的視点													
第2回	あたりまえを見直す		自分の内と外に存在する多文化への気づき													
第3回	コミュニケーションワーク		ループで、コミュニケーションの難しさと伝えるための工夫を学ぶ													
第4回	コミュニケーションワーク		(同上)													
第5回	日常の中の気づき		生活の中に多文化への手掛けりを見つけ、探究する													
第6回	日常の中の気づき		(同上)													
第7回	日本の多文化		空間軸・時間軸を移動しながら社会的視点を広げる				教科書と映像									
第8回	日本の多文化		(同上)				(同上)									
第9回	世界と自分の関わり		日常に反映する世界と、問題提起				映像資料									
第10回	世界と自分の関わり		(同上)				(同上)									
第11回	フィールドワーク準備		座学のまとめと、フィールドワークの企画を学生主体に進める													
第12回	フィールドワーク		学外での実地学習（グループワーク）				学外での学習									
第13回	フィールドワーク		(同上)				(同上)									
第14回	フィールドワーク振り返り		これまで学んだことに照らし合わせ、フィールドワークの総括をする													
第15回	全体のまとめ		学んだことをこれからの学習・仕事に生かしていくためのワーク													
教科書	「世界がもし100人の村だったら～総集編」マガジンハウス															
参考書	「日本がもし100人の村だったら」マガジンハウス															
成績評価	単位認定 60 点以上 発表内容と、提出物によって評価する															
授業時間外の学習																
履修のポイント	各回のレポートを確実にまとめ、次回へつなげる。グループワークを中心に互いに学び合う。															
オフィス・アワー	メールによる相談も可。 jkeisuke@gmail.com															

平成26年度 シラバス

科目名	教育課程論		担当者	占部慎一	学科	看護学科・栄養学科	開講期	前期									
区分	教職科目	必修	単位	2単位	学年	2学年	曜日	火									
			(時間)	(30時間)			時限	5									
授業の概要	カリキュラムの歴史と理念を理解し、日本の教育システムと教育課程の特徴を知る。次に、実際に使用されているカリキュラムの基本的な類型を学びその特徴を理解する。これを基礎として、過去の著名な教育プランの特質を実践を踏まえて理解する。この二つの学びを活用して、課題を解決するための独自の教育プランをグループで作成し、単元指導案を作成後模擬授業を行う。さらに学習指導要領の特徴を理解し、自己指導能力の育成等大きく変化し始めている学校教育と教育課程編成の実際を学ぶ。																
学習目的	①カリキュラムの歴史と意義を理解する。②カリキュラムの基本類型と著名な教育プランを体系的に理解する。③グループで課題解決のための教育プランを工夫・創造し実践してみる。教育プランの必要性と意義、効果を実感する。④学習指導要領を理解し、学校における教育課程編成の基礎を理解する。																
到達目標	①カリキュラムや教育プランの特徴、特質等を類型的・体系的に理解し、学校現場で応用・活用できるようにする。②学習指導要領を理解し、教師として活用できるようにする。③教育課程の編成の基礎を理解し、教師として役立てることのできる基礎的資質を育成する。④単元の教育に活用できる教育プランを協働で考案・実践してみるとによって、学校現場で問題に応じた創造的な実践が展開できる力を育成する。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	カリキュラムと教育課程の差異と定義	カリキュラムと教育課程それぞれの必要性、意義、実際。日本のカリキュラムの二重構造															
第2回	世界のカリキュラムの類型	子ども中心主義のカリキュラム、社会効率主義のカリキュラム、社会適応主義のカリキュラム、社会改造主義のカリキュラム															
第3回	教育方法とカリキュラム	①世界の3教育方法の特徴とカリキュラム、②フォーディズムとカリキュラム、③創造的教育とアクティブラーニング															
第4回	カリキュラムの基本類型Ⅰ	教科カリキュラムと経験カリキュラム①相関カリキュラム、②融合カリキュラム															
第5回	カリキュラムの基本類型Ⅱ	③広領域カリキュラム、④コアカリキュラム、⑤スパイラルカリキュラム															
第6回	中間まとめⅠ(カリキュラムの基礎知識)	小テストと講評															
第7回	過去のカリキュラム開発Ⅰ	デューイの子ども中心主義教育思想の系譜:①プロジェクト・メソッド②ドルトン・プラン、③ウィネットカ・プラン															
第8回	過去のカリキュラム開発Ⅱ	ヘルバートの系統主義教育思想の系譜:①モリソン・プラン、②イエナ・プラン															
第9回	授業実践とプランニングⅠ(プランニング実践)	生徒実態の把握、問題点の背景と構造、教育内容・方法の再考、スコープとシークエンス、順次性、PDCAサイクル、マインド・マップ															
第10回	授業実践とプランニングⅡ(プランニング実践)	プランニング、効果と欠点、試行															
第11回	授業実践とプランニングⅢ(プランニング実践)	発表、相互講評、振り返り															
第12回	中間まとめⅡ(プランニングと実践)	レポート作成、小テスト															
第13回	学習指導要領の変遷と成立過程	社会的背景と変遷、産業界の変化と教育の変化、拘束力の変化、成果と課題															
第14回	現行学習指導要領の特徴	生きる力の育成(確かな学力の定着、豊かな心、健やかな身体)、<我的世界>と<我々の世界>、能動的知性の育成															
第15回	教育課程編成の実際	編成の意味、原則、編成の手順、学校目標への収斂性、実施上の配慮事項、カリキュラム・マネージメント															
教科書	田沼茂紀 「豊かな学びを育む教育課程の理論と方法」 北樹出版																
参考書	梶田毅一 「新しい学習指導要領の理念と課題」 図書文化社																
成績評価	単位認定 60 点以上																
授業時間外の学習	復習:相互復習で行った事項を復習してくる。予習:授業終了時に予習事項を提示する。																
履修のポイント	教職への志と情熱が求められます。1年次より学問的レベルが高くなっています。理解のための努力が大切です。																
オフィス・アワー	昼休みです。必ずアポイントをとってください。																

平成26年度 シラバス

科目名	教育方法論		担当者	森山賢一	学科	看護学科 栄養学科	開講期	後期							
区分	教職科目	必修	単位 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	2学年	曜日								
授業の概要	学校生活の大部分を占める授業は生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに今日の教育の方法、技術においての情報機器及び教材の活用の観点から、視聴覚メディアと教育に関する理解も深めていくこととしたい。														
学習目的															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業理論と指導方法についての理解 ・授業における話し方、発問と応答、板書、ノート指導などの理解 ・学習における基本的なしつけについての理解 ・授業の評価と授業研究についての理解 ・視聴覚教育、教育メディアについての理解 ・学習指導案の作成 														
授業計画															
回	主題	授業内容					備考								
第1回	授業という世界	<ul style="list-style-type: none"> ・授業とは何か ・わかる授業とわからない授業 													
第2回	わかる授業の理論と指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習理論と学習指導法 ・わかる授業の理論と指導技術 													
第3回	板書とノート指導	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の機能と目的に応じた工夫 ・ノートの機能とノート指導の留意点 													
第4回	教育におけるメディア利用の歩みと視聴覚メディアの種類・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教育の意味と歴史 ・教育メディアの種類と選択 													
第5回	学習指導案の作成（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成の手順 ・学習指導案の作成の留意点 ・学習指導案の作成 													
第6回	学習指導案の作成（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成 													
第7回	授業の実際（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、情報機器の取扱いなど）を行う 													
第8回	授業の実際（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の過程によって本講義のまとめ（板書、発問、指名、ノート指導、机間指導、情報機器の取扱いなど）を行う 													
教科書	堀松武一、森山賢一著『教育学概論』岩崎学術出版社														
参考書															
成績評価	単位認定 60 点以上														
授業時間外の学習															
履修のポイント															
オフィス・アワー															

平成26年度 シラバス

科目名	生徒指導論		担当者	田口和人	学科	看護学科・栄養学科	開講期	後期						
区分	教職科目 教職科目	自由 必修	単位 (時間)	2単位 30時間	学年	2年次	曜日							
授業の概要	子どもたちを取り巻く状況は、社会の変化に呼応するかのように多様な問題を内包してきています。不登校・いじめ（いじめ自殺）・ネットトラブル・引きこもり・薬物・学級崩壊など、多くの学校でみられるような教育問題が存在しています。生徒指導はこれらに対処することが求められています。これらを前提として、①生徒指導とはなにか、②生徒指導が担うべき役割はなにか、③生徒指導において教師がそなえ持つべき要件はなにか、を基本的な柱として考えたいと思います。													
学習目的	子どもたちの背景にあるものを、広く・深く洞察できるような知識・観点・考え方の学習を目的とします。													
到達目標	次の4つを学習目標とします。 ①学校教育の歴史・現状について認識を深めること ②子どもたちを取り巻く状況についての認識を深めること ③子どもの背景にあるものへの各自の洞察力を育てること ④生徒指導への大胆なアイデアをもつよう努めること													
授業計画														
回	主題		授業内容				備考							
第1回	現代社会と子どもたちの現状		これまでの自分自身の経験も含めながら、子どもたちがどのような社会状況の中に置かれているかについて考える。											
第2回	学校教育の現状		視聴覚教材により、今日の学校教育の現状について考える。その上で、感想・意見などをレポートする。											
第3回	学校教育の歴史過程		戦後の学校教育の歴史過程を大まかにつかむ。											
第4回	学校教育における生徒指導		教科教育と教科外教育の関係の中で、生徒指導の位置を理解する。また、学習指導要領における生徒指導の位置を理解する。											
第5回	子どもの内面への接近		視聴覚教材（楽曲）により、子ども・青年の内面世界への洞察を試みる。その上で、感想・意見などをレポートする。											
第6回	携帯・ネットと生徒指導		社会的問題となっている「携帯・ネット」について、子どもの現状を踏まえながら考える。											
第7回	ジェンダーと生徒指導		ジェンダー（社会的性）による生活・行動様式について、現状と今後の展望という観点から考える。											
第8回	不登校と生徒指導		不登校（あるいは「引きこもり」）の現状へ理解を広げながら、子どもたちの背後にあるものについて考える。											
第9回	いじめと生徒指導Ⅰ		視聴覚教材を用いて、いじめをめぐる現状についての理解を深める。その上で、感想・意見をレポートする。											
第10回	いじめと生徒指導Ⅱ		いくつかのいじめ事例を読み解きながら、いじめの構造へ理解を広げる。											
第11回	進路指導		景気低迷・格差社会のなかで、どのような進路指導が求められるのかについて、意見交換をしながら、その展望を考える。											
第12回	生徒指導の方法Ⅰ		中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。											
第13回	生徒指導の方法Ⅱ		中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。											
第14回	生徒指導の方法Ⅲ		中学校の「学級活動」の1時間を想定して、生徒指導の方法について考える。											
第15回	まとめ		子どもたちが抱える今日的な課題について、生徒指導の観点から自分なりの分析をレポートにまとめる。											
教科書	適宜、資料を配布します。													
参考書														
成績評価	単位認定 60点以上 筆記試験70%以上 レポート30%以上で評価等													
授業時間外の学習	新聞等を通じて、教育に関する情報（例えば、体罰・いじめ問題）に目を通すようにしてください。													
履修のポイント														
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	文献検索とクリティック	担当者	HT マチャコン	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	学部共通科目	選択	単位 (時間)	1単位 (30時間)	学年	3学年	曜日						
							時限						
授業の概要	科学論文の検索方法について理解し、実践し、実際の論文を例にとり、論文の背景や目的、研究方法、結果、考察などの記述の仕方を学ぶ。さらに論文に対する批評的な読解法についても学習する。												
学習目的	科学論文の検索方法を習得し、研究プロセスの基礎を学び、研究計画を立案する基礎的能力を修得する。さらに研究論文に対する批評的な読解法を学び、文献クリティックの基礎能力を養う。												
到達目標	① 情報・文献検索ができる。 ② 論文のクリティックを行うことができる。 ③ 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。												
授業計画													
回	主題	授業内容				備考							
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、インターネットに関する基礎知識											
第2回	情報検索1	情報とは何か、 インターネットで情報検索 (サーチエンジンによる情報検索)											
第3回	文献検索1	文献とは何か、論文調査の進め方											
第4回	文献検索2	単行書・学術雑誌・学術論文の構成											
第5回	文献検索3 (和文編)	国内の電子ジャーナル：医学中央雑誌Web版、JDreamII データベース：メディカルオンライン											
第6回	文献検索4 (欧文編)	外国の電子ジャーナル：Ovid Journals (American Journal of Nursing, Nursing Research), Health & Wellness データベース：Ovid Database (BNI, Manual of Nursing Practice)											
第7回	科学研究序論	研究の種類、研究のプロセス、研究計画											
第8回	科学研究のクリティック	クリティックとは何か											
第9回	グループワーク1	研究論文のクリティック1 国内のジャーナルから原著論文(和文)のクリティック											
第10回	グループワーク2	研究論文のクリティック2 外国のジャーナルから原著論文(英文)のクリティック											
第11回	グループワーク3	研究論文のクリティック3											
第12回	グループワーク4	研究論文のクリティック4											
第13回	グループワーク5	研究論文のクリティック5											
第14回	グループワーク6	課題のプレゼンテーション・インタビュー											
第15回	グループワーク7	課題のプレゼンテーション・インタビュー											
教科書	看護研究のための文献検索ガイド 第4版 増補版 第3刷発行 (日本看護協会出版会) ISBN-13: 978-4818014985												
参考書	1. インターネットで文献検索、JLA図書館実践シリーズ、日本図書館協会 2. 学術情報文献マニュアル、丸善(株) 3. 参考資料を配布する。												
成績評価	単位認定 60 点以上 課題(40%)、プレゼンテーション・インタビュー(60%)で評価する。 *定期試験を実施しない。												
授業時間外の学習	上記授業内容については、あらかじめ自己学習しておくことをすすめる。 学習ポートフォリオの作成については授業時に指示する。												
履修のポイント	①授業時間外での活用が必要である。 ②多くの研究論文を読むことをすすめる。												
オフィス・アワー	随時受け付けますが、事前にメールで連絡を入れること。 E-mail: mach_dr@gmail.com 研究室：9号館3F、第12研究室（情報環境研究室）												

平成26年度 シラバス

科目名	英書講読		担当者	松本恭代	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日									
	(時間)	(30時間)	(時間)	時限												
授業の概要	教科書とコンピュータプログラムが一体化した教材を使用し、リーディング力の向上に必要な基礎スキル (predicting, skimming, scanning, understanding paragraphs, text organization and vocabulary) を学習し、その後、英語学術論文の構成を学び、英文のアブストラクトを読む。															
学習目的	リーディングの基礎スキルを学び、その後英語学術論文の構成を学び、英文のアブストラクトを読むことができるようになる。															
到達目標	楽しくかつスピーディーにリーディングの基礎スキルを身に着け、英語学術論文の構成を学び、英文のアブストラクトを読むことができるようになる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回			ソフトウェアの使用方法と体験													
第2回	Chapter 1		Prediction from clues: Leisure time and People in business													
第3回	Chapter 2		Scanning for words: Eating out and Traveling													
第4回	Chapter 3		Understanding Paragraphs-Identifying topics: Weather and Education													
第5回	Chapter 4		Understanding Text Organization - Identifying pattern: Famous people and Money													
第6回	Chapter 5		Vocabulary Training - Identifying pronouns and synonyms													
第7回	Chapter 6		Skimming – skimming for the general idea: Animals and rescue rats													
第8回			Progressive test 1													
第9回	Chapter 7		Prediction 2													
第10回	Chapter 8		Scanning 2													
第11回	Chapter 9		Understanding Paragraphs 2													
第12回	Chapter 10		Understanding Text Organization 2													
第13回	Chapter 11		Vocabulary Training 2													
第14回	Chapter 12		Skimming 2													
第15回			Final progressive test													
教科書	Effective Reading (online computer software program) by Seibido とプリント教材															
参考書	英文を英語のまま理解するため、参考書は無し。															
成績評価	単位認定 60 点以上 単位認：2回のprogressive tests の点数 60点以下不合格															
授業時間外の学習	自宅学習で、各チャプターを終了しなければ、次のチャプターに進むことはできないので、自宅学習を行うこと！															
履修のポイント	自宅学習で、各チャプターを終了しなければ、次のチャプターに進むことはできないので、自宅学習を行うこと！なお、IDとパスワードが出版社から与えられるので、各自責任をもって管理すること！															
オフィス・アワー	matsumoto-ya@kiryu-u.ac.jp															

平成26年度 シラバス

科目名	チーム連携論		担当者	加 固 正 子 内 田 真 理 子 林 圭 子	学科	看護学科、栄養学科	開講期	後期								
区分	学部共通科目	選択	単位	1単位	学年	3学年	曜日									
		(時間)	(30時間)				時限									
授業の概要	今日の医療提供の対象は拡大し、医療ニーズも多様化している。そのニーズに対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の歴史的背景を振り返り、医療・保健・福祉の場で展開されているチームアプローチの理論と実際について学習する（オムニバス方式全15回）。															
学習目的	チーム医療のあり方や協働の実際などを通し、医療・保健・福祉といった領域の各専門職種の役割、機能、責任を理解し、より良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための知識を習得する。															
到達目標	1. チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる 2. 各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる 3. チーム連携における情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる 4. チーム連携上の課題への取り組み方や効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる															
授業計画																
回	主 题		授 業 内 容				備考									
第1回	チーム医療とは何か		・チーム医療の歴史的過程 ・チーム医療の志向性による要素分類とそれらの要素の関係性 ・チーム医療の論理				加固									
第2回	チーム医療における患者医療者関係		・チームの形態別分類 ・チームの構成員とその役割 ・阻害要因と改善に向けてのアプローチ				加固									
第3回	チーム医療の倫理		・チーム医療の倫理性 ・チーム構成員のあり方とコミュニケーション ・チームとインフォームドコンセント ・グループワークオリエンテーション				加固・内田									
第4回	チーム医療とは何か		・早期体験合同実習を振り返ってのグループワーク				加固・内田・林 (GW)									
第5回	チーム医療とは何か		・グループワーク発表				加固・内田・林 (GW)									
第6回	1. 小児医療におけるチーム医療		・小児医療に関わる職種とチーム医療の実際 ・療養型小児医療施設におけるチーム				加固									
第7回	2. 栄養指導とチーム医療		・糖尿病療養指導におけるチーム医療 ・褥瘡ケアにおけるチーム医療				林圭子									
第8回	3. 高度医療提供とチーム医療		・高度医療提供施設におけるチーム医療 ・高度医療と管理栄養士・看護師の役割拡大				林圭子									
第9回	4. パスを用いた連携の取り方		・クリティカルパスを用いたチーム医療、病院と地域連携				林圭子									
第10回	5. 在宅・地域におけるチーム医療		・在宅におけるチーム医療の実際 ・福祉や保健との連携				内田									
第12回	地域におけるチーム医療の検討(1)		・事例検討グループワーク (オリエンテーション) ・複数の専門領域によるディスカッション				内田・加固・林 (GW)									
第13回	地域におけるチーム医療の検討(2)		・事例検討グループワーク ・複数の専門領域によるディスカッション				内田・加固・林 (GW)									
第14回	地域におけるチーム医療の検討(3)		・事例検討グループワーク ・複数の専門領域によるディスカッション				内田・加固・林 (GW)									
第14回	地域におけるチーム医療の検討(4)		・事例検討グループワーク 発表 ・チームで協働することからの気づき				内田・加固・林 (GW)									
第15回	チーム医療の展望		・患者中心のチーム医療をめざして ・情報の共有と医療過誤の低減				加固									
教科書	鷹野和美編著、『チーム医療論』、医歯薬出版株式会社、2002															
参考書	授業の中で各種資料を配布する。															
成績評価	単位認定 60 点以上 授業中の発表状況・グループワークの参加状況(60%)、レポート(40%)。															
授業時間外の学習	グループワークに向けての事前学習と発表にむけての準備が必要である。															
履修のポイント	患者を中心とした良質な医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。															
オフィス・アワー	研究室にいる場合、いつでも。															

平成26年度 シラバス

科目名	母性看護学実習		担当者	馬橋和恵	学科	看護学科	開講期	前期 後期								
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日									
		(時間)	(90時間)				時限									
授業の概要	ライフサイクルの中の周産期にある女性とその家族を中心とした対象を理解し、正常で健康な妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期を送るために必要な看護援助を、体験を通して学習する。さらに生命誕生の場面や対象との関わりを通して、人の生命の尊さ、母子、親子、父子、パートナーシップ、家族の関係について考えるきっかけとする。															
学習目的	母性看護の対象へ寄り添い、看護援助や看護過程の展開を通して母性看護の実際を学ぶ。いのちの誕生場面や誕生の空間において、自分と相手の“いのち”を感じあうことができる。															
到達目標	1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の対象について、生理的、心理的、社会的特徴を捉え、その理解ができる。 2) 分娩見学、または分娩後早期の母親や早期新生児との関わりを通して対象の思いを共感し、対象のスピリチュアルな側面について共に感じることができる。 3) 妊産婦、新生児に必要な看護を見学し、体験を通して学ぶことができる。 4) 夫、家族も含め、対象と家族の退院後をイメージした入院中の援助を考えることができる。 5) 産褥期にある対象が自らのより健康な状態を目指し、セルフケアができる看護を展開することができる。 6) 妊産婦・新生児の援助を通して、親と子の関係、生命の誕生について、自らの思いを表現できる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回			実習要項参照													
第2回																
第3回																
第4回																
第5回																
第6回																
第7回																
第8回																
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	森恵美他 母性看護学概論 医学書院 (2013)、森恵美他 母性看護学各論 医学書院 (2013)															
参考書	1. マタニティ診断ガイドブック第4版 日本助産診断・実践研究会 2013 医学書院、太田操編著 2. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 2013 医歯薬出版株式会社、3. 病気が見える 産科 第4版 MEDIC MEDIA。他、図書館などで多くの母性関連の本がありますので、実習前に借りて学習しましょう。															
成績評価	実習評価表に沿って評価。実習中の対象は受け持ちの方だけではなく、自分やグループメンバー 単位認定 60点以上 や周囲の人もあります。看護者として、グループメンバーとしての建設的で協調性ある態度を求め、重視します。															
授業時間外の学習	事前課題の内容や技術に関して、しっかり復習した上で実習に臨みましょう。															
履修のポイント	教員は学生の学習の味方であり、実習中の身体と心を支える存在です。事前または実習中に心配なことがあれば相談してください。母性看護を実践する場で多くの感動と一緒に体験しましょう。（良い体験をするには事前の学習は勿論大切です）															
オフィス・アワー	実習、講義、会議、研究活動などで不在のとき以外は、学生さんといつでも話せるようお待ちしています。面談予約して下されば確実です。															

平成26年度 シラバス

科目名	小児看護学実習		担当者	内山かおる	学科	看護学科	開講期	前期 後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日			
		(時間)	90時間				時限			
授業の概要	幼稚園実習で健康状態にある子どもの本来の特性を知り、特別支援学校実習において学齢期にある患児に対する学習支援の意義を学ぶ。それらを生かして病棟実習で患児の成長発達や疾病の回復を促進する援助を実践するとともに付き添う家族への看護について思考する。また、小児科外来実習で継続看護の意義を学び、NICU見学実習でハイリスク新生児の生涯発達について思考する。									
学習目的	子どもの成長発達への阻害要因を最小限として疾病の回復が促進されるよう、家族の理解や協力を得ながら各発達段階の特性を踏まえた看護を実践することを目的とする。									
到達目標	1. 健康状態にある幼児とふれあい、各発達段階の特性と関わり方の実際を学び説明できる。 2. 学齢期にある患児の闘病中における学習の意義を学び、看護師の役割を思考し記述できる。 3. NICUにおけるハイリスク乳児に対して生涯発達の視点をもって看護を思考し表現できる。 4. 継続看護の視点から小児科外来における看護の役割を思考し、外来看護に必要な基礎的看護技術を実践する。 5. 入院する患児の病態生理や発達段階を分析・理解することで、発達段階を考慮して基本的看護援助を実践する。									

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回			
第2回		幼稚園実習（1日）、特別支援学校実習（0.5日）	
第3回		小児科外来実習（1日）、NICU見学実習（1日）	
第4回		小児病棟実習（4～4.5日）、学内演習・まとめ（2～2.5日）	
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
教科書	小児看護学概論／小児保健（メジカルフレンド社）、健康障害をもつ子どもの看護（メジカルフレンド社）、小児看護技術（メディカ）		
参考書	子どものフィジカルアセスメント（金原出版）、子どもの病気の地図帳（講談社）		
成績評価	単位認定 60 点以上		
授業時間外の学習			
履修のポイント			
オフィス・アワー			

平成26年度 シラバス

科目名	成人看護学実習Ⅰ（慢性期）		担当者	粕谷恵美子	学科	看護学科	開講期	前期 後期		
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日			
			(時間)	(90時間)			時限			
授業の概要	慢性疾患成人期の患者を受け持ち、成人期の特性や個別性を理解しながら健康問題をアセスメントし、看護計画を立案、看護援助を実施する。さらに長期的視野に立った継続的な看護の必要性について考える。									
学習目的	成人期にある人々が抱える健康問題を明らかにし、その問題解決に向けて、看護援助ができるための基本的な能力を養う。									
到達目標	1. 成人期の特性や個別性、健康問題の性質を考慮して看護看護過程が展開できる。 2. 回復経過を理解しながら健康問題の特徴に合った看護援助が理解できる。 3. 慢性的な疾患や障害を持った患者に対し継続的な援助の必要性が理解できる。 4. 医療チーム内における看護職の役割を理解し、看護学生として責任のある行動をとることができる									

授業計画

回	主 题	授業内容	備考
第1回		成人看護学実習Ⅰ要項参照のこと	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
第17回			
第18回			

平成26年度 シラバス

第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
教科書	特に指定しない		
参考書	随時紹介する		
成績評価	単位認定 60 点以上 事前学習、実習内容、記録物、提出物などを総合的に評価する		
授業時間 外の学習	受け持ち患者への援助技術を実施する際には事前学習をしておくこと		
履修の ポイント	既に学んだ知識や技術を実際に活用することにより、新たな気づきや不足学習の発見ができるとよいです。さらに看護に必要な基本的能力を高められるように積極的に学習してください。		
オフィス ・アワー	実習のため不在にすることが多いので事前にメールで面談の調整をしてください。 Kasuya-e@kiryu-u.ac.jp		

平成26年度 シラバス

科目名	成人看護学実習Ⅱ		担当者	林 かおり	学科	看護学科	開講期	前期後期								
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日									
			(時間)	(90時間)			時限									
授業の概要	1. 外科領域の病棟・手術室・ICUで実習を行う。 2. 周手術期または急性期にある患者を受け持ち、看護過程の展開、必要な援助を考え、実施及び評価をする。															
学習目的	成人各期の健康のあらゆる段階における患者の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。															
到達目標	1. 周手術期及び急性期にある患者の特徴をふまえて、対象の理解をする。 2. 手術を受ける患者の看護について理解をする。 3. 回復過程の段階をふまえ、患者に必要な援助を考案し実施できる。 4. 患者が健康の維持及び増進を図るために社会資源の活用と援助について理解をする。 5. 患者を支える家族の役割を理解し、その家族をも含めた援助の必要性について理解をする。 6. 保健医療チームの一員としての看護師の役割について理解をする。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回																
第2回																
第3回																
第4回																
第5回																
第6回			詳細については、成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照													
第7回																
第8回																
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書																
参考書	「周手術期看護論」：ヌーベルヒロカワ、各種疾病に関する看護の書籍、成人看護方法論Ⅱで使用した教科書及び配布資料等															
成績評価	単位認定 60 点以上 実習目標の達成度、実習記録、事前学習の内容等によって総合的に評価をする。															
授業時間外の学習	記録物を実習終了後、その日のうちにまとめること、翌日の実習に備えての予習及び資料等をそろえて下さい。															
履修のポイント	既存学習をふまえ、主体的・積極的に実習にのぞむこと。受け持ち患者の病態生理を把握すること。															
オフィス・アワー	在室時に応対します。															

平成26年度 シラバス

科目名	精神看護学実習		担当者	藤川君江	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日									
		(時間)	(90時間)				時限									
授業の概要	1. 精神科病院と社会復帰施設で2週間の実習を行う。 2. 病院実習では1人の対象を受け持ち、全体像を把握し、看護の展開を行う。 3. 社会復帰施設では施設利用者とともに活動する。															
学習目的	精神に障害をもつ人を、一人の生活者として捉える視点を養い、その人のセルフケア能力を高める看護の実際を学ぶ。さらに、地域で生活を営むまでの必要な援助を理解する。															
到達目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から対象を理解することができる。 2. 対象との関わりを通して、コミュニケーションスキルを高めることができる。 3. 対象の個別性を考慮し、援助を実践することができる。 4. 地域精神保健活動の重要性を理解し、チーム医療や看護者の役割を学ぶことができる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回	AM：学内オリエンテーション PM：病院実習		病院オリエンテーション、事前学習の提出、受け持ち患者決定、情報収集													
第2回	病院実習		対象の健康状態の理解、情報収集、カンファレンス													
第3回	病院実習		対象の健康状態の理解、情報収集、プロセスレコード提出、カンファレンス													
第4回	病院実習		対象の健康状態の理解、情報収集、プロフィール～関連図の提出、看護の方向性の確認													
第5回	学内実習		安全と人権についてグループワーク、一週間のまとめ													
第6回	病院実習		看護計画に基づいた看護実習													
第7回	病院実習		看護計画に基づいた看護実習													
第8回	伊勢崎地域活動支援センター		伊勢崎地域活動支援センターの活動を見学、カンファレンス													
第9回	AM：病院実習 PM：病院実習		看護計画に基づいた看護実習、記録のまとめ、個人面接													
第10回	学内実習		記録のまとめ、個人面接													
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	系統看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学〔2〕、オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開															
参考書	精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス（南江堂）															
成績評価	単位認定 60点以上 実習目標の到達度、実習記録、事前学習、実習態度により総合的に評価する															
授業時間外の学習	精神看護学演習、精神看護学実習の履修時の基盤となる知識であるため、配布資料やノートを整理し講義資料の熟読を復習として勧めます。予習は行ってください。															
履修のポイント	既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。															
オフィス・アワー	事前に連絡して下さい。															

平成26年度 シラバス

科目名	高齢期看護学実習Ⅱ		担当者	豊田省子	学科	看護学科	開講期								
区分	専門科目	必修	単位 (時間)	2単位 (90時間)	学年	3学年	曜日 時限								
実習の概要	健康障害をもつ高齢期の患者を1名受け持ち、身体的・心理的・社会的側面から情報を収集する。 健康障害・生活機能障害を理解し、個別性のある看護計画を立案する。 看護を実践し、看護計画を評価・修正することができる。														
学習目的	高齢者の発達課題と特徴、高齢者を取り巻く環境を理解する。 健康レベルに応じた自立支援と、高齢者の生活の質と尊厳を考慮した看護が提供できる。														
学習目標	1. 高齢期にある対象の発達課題と特徴、環境を理解する。 2. 高齢期にある対象の頭在・潜在する看護問題を身体的・心理的・社会的側面からアセスメントする。 3. 保健医療福祉における高齢期看護の役割・機能を理解する。 4. 看護実践を通して高齢期看護の意義を理解する。														
実習計画															
回	主 题	実習内容					備 考								
事前	学内学習	オリエンテーション・事前学習点検・発達課題の確認					'実習要項' 参照								
第1回	臨地実習	病棟オリエンテーション、個人情報保護条例に基づく誓約、インフォームドコンセント（同意書：自己決定支援）、全患者への挨拶、情報収集					インフォームドコンセント・自己決定・個人無情報の保護								
第2回		対象の健康状態の理解、情報集集、日常生活援助の見学					参加観察								
第3回		対象の健康状態の理解、情報収集、日常生活援助見学、関連図による情報の整理、問題の優先度					関連図、優先度：マズローの欲求階層理論								
第4回		関連図発表、					身体・心理・社会的側面、頭在・潜在している問題、個別性								
第5回	学内学習	看護計画立案					個別性・具体性								
第6回	臨地実習	看護計画に沿った実施、評価 看護計画の発表					安全・安楽・安心								
第7回							自立支援 QOL								
第8回		看護計画に沿った実施、評価、修正					患者の自己決定 教育的支援								
第9回							高齢者の尊厳								
第10回	学内実習	記録の整理、課題レポート作成、実習評価面接					統合・まとめ								
教科書	特に指定はしません。 日頃から定期的に大学図書館を訪ねて、「プチナース」・「Nursing Today」・「月刊ナーシング」、「コミュニケーションケア」などの看護専門雑誌をブラウジング(本棚を漫然と眺めて、気になる本があれば取り出して読むこと)しておきましょう。														
参考書	随時、紹介します														
成績評価	実習最終日に、「評価面接」を実施します。 単位認定60点以上 事前学習、実習内容、実習記録、提出物などを総合的に評価します。														
履修のポイント	高齢者が生きてきた時代背景の理解、コミュニケーション、生活機能、自己決定（尊厳・尊重）支援の実践														
オフィス・アワー	在室時対応														

平成26年度 シラバス

科目名	在宅看護学実習		担当者	木部 内田 高橋	学科	看護学科	開講期	前期 後期								
区分	専門科目	必修	単位	2単位	学年	3学年	曜日									
	(時間)	(90時間)					時限									
授業の概要	在宅看護の特徴は、対象となる人々とその家族の「生活」の場で看護を展開するという点にある。そのため、人々がそれぞれにもつ生き方、生活、健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点をもち、療養生活の質の向上と療養生活の維持が在宅看護の目的となる。在宅看護学実習では、訪問看護ステーションの看護師に同行し、疾病や障害をもらなながら、在宅で生活する人の看護や介護の実際にふれ、在宅療養生活をおくる対象者の特徴や支援方法とともに、在宅ケアシステムや社会資源の活用・調整方法について学ぶ。さらに学内実習では在宅療養者の看護事例を展開し学習を深める。															
学習目的	在宅で疾病や障害を持って療養している人とその家族の生活を理解し、在宅看護の目的と機能、看護展開のための基礎的知識・技術を学ぶ。															
到達目標	1. 在宅看護の対象者とその家族の特徴と生活が理解できる。 2. 在宅看護の特徴とその意義・目的、役割・機能が理解できる。 3. 在宅で療養生活を送る対象者とその家族の健康問題・生活障害をアセスメントし、個別のニーズに応じた援助が立案できる。 4. 在宅ケアチームとの連携とチームにおける看護職の役割・機能が理解できる。 5. 在宅で療養生活を送る対象者とその家族の生活を支援する社会保障制度及び社会資源の活用方法が理解できる。															
授業計画																
回	主題		授業内容				備考									
第1回																
第2回			実習方法：													
第3回			1. 3年前後期の実習期間にローテーションで行う。 2. 実習施設、実習スケジュール等については、実習開始時期に提示する。													
第4回	訪問看護ステーション		3. 実習施設は、群馬県内の訪問看護ステーションと在宅療養者が利用する居宅サービス提供施設（デイサービス・通所リハビリテーション施設など）とし、1施設学生2～4名の配置で実習を行う。													
第5回	在宅関連施設での実習		4. 訪問看護ステーションの看護師と同行し、在宅療養者の看護ケアを行なう。居宅支援事業所、デイサービス・通所リハビリテーション施設などを見学する。													
第6回			5. 訪問事例の看護過程を展開（学内事例検討）する。													
第7回			6. 実習施設内在宅看護カンファレンスを行う。 7. 学内においては、「実習オリエンテーション」、既習学習を含めた演習等から基礎的知識と看護技術の確認（事前学習）、学内実習では、実習記録の整理、翌週の援助の技術演習（練習）を行う。実習最終日には「実習のまとめ及び反省会」「評価面接」を行う。													
第8回			8. 学内実習指導は実習初日と各週金曜日に行なう。													
第9回																
第10回																
第11回																
第12回																
第13回																
第14回																
第15回																
教科書	秋山 正子他著： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 定価 2,520円 (税込)															
参考書	岡崎 美智子著： 根拠がわかる在宅看護技術 メディカルフレンド社 定価 4,935円 (税込) 木下 由美子編著： Essentials在宅看護学 医歯薬出版 定価 2,730円 (税込) 実習前指定															
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験60%以上・レポート20%以上・課題20%以上															
授業時間外の学習	時事前学習レポート、学習テーマ別個人演習（技術練習）															
履修のポイント	欠席による時間数不足、内容不足などに対する再実習はできないため、注意すること。															
オフィス・アワー	10号館1F 高齢期在宅看護学研究室、学習テーマ別個人演習（技術練習）															

平成26年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅱ [発達段階に対応した保健活動・健康課題に対応した保健活動]		担当者	高橋美砂子	学科	看護学科	開講期	後期									
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	3学年	曜日										
	(必修)	(時間)	(30時間)	時限													
授業の概要	あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動として、地域の母子保健活動、成人・高齢者保健活動、障害者保健活動、精神保健福祉活動、難病保健活動、感染症保健活動等の実際を学ぶ。各種保健活動における関係機関と職種の協働と連携の重要性について理解をする。																
学習目的	あらゆる発達段階、健康状態に対応する保健活動の対象者の特性と社会背景、活動の基盤となる法律や制度について学習し、保健師の具体的な活動について理解を深めることが目的である。																
到達目標	1) 地域における母子保健活動について理解する。2) 地域における成人保健活動について理解する。3) 地域における高齢者保健活動について理解する。4) 難病保健活動について理解する。5) 精神保健福祉活動について理解する。6) 障害者(児)保健活動について理解する。7) 感染症保健活動について理解する。																
授業計画																	
回	主題	授業内容					備考										
第1回	ガイダンスとこれまでの振り返り	・授業の進め方 　・地域保健活動と保健師の置かれている現状															
第2回	発達段階に対応した保健活動 －母子保健活動①	・母子保健活動の対象 　・健康課題と社会背景 　・活動の基盤となる法律と制度(健やか親子21)															
第3回	発達段階に対応した保健活動 －母子保健活動②	・母子保健活動の実際(具体的活動)と保健師の役割															
第4回	発達段階に対応した保健活動 －成人保健活動①	・成人保健活動の対象 　・健康課題と社会背景 　・活動の基盤となる法律と制度(健康日本21 特定健診・特定保健指導)															
第5回	発達段階に対応した保健活動 －成人保健活動②	・成人保健活動の実際(具体的活動)と保健師の役割															
第6回	発達段階に対応した保健活動 －高齢期保健活動	・高齢者保健活動の対象 　・健康課題と社会背景 　・介護保険制度 　・具体的活動と保健師の役割															
第7回	健康課題に対応した保健活動 －難病保健活動①	・難病とは 　・難病対策要綱 　・難病に対する保健医療福祉の支援について 　・A L S の地域ケアシステム															
第8回	健康課題に対応した保健活動 －難病保健活動②	・地域における難病保健活動の実際と保健師の役割					中間授業評価										
第9回	健康課題に対応した保健活動 －精神保健福祉活動	・精神保健福祉活動の対象 　・健康課題と社会背景 　・活動の基盤となる法律と制度(障害者自立支援法) 　・活動の実際と保健師の役割															
第10回	健康課題に対応した保健活動 －障害者保健活動	・障害者(児)保健活動の対象 　・健康課題と社会背景 　・活動の基盤となる法律と制度(障害者基本法と障害者自立支援法、障害者手帳) 具体的活動															
第11回	健康課題に対応した保健活動 －感染症保健活動①	・感染症とは 　・感染症の予防対策と動向 　・活動の基盤となる法律と制度 　・結核管理															
第12回	健康課題に対応した保健活動 －感染症保健活動②	・H I V / A I D S / S T D の動向と相談体制、医療機関との連携感染症対策の実際と公衆衛生専門職の役割															
第13回	健康課題に対応した保健活動 －口腔保健活動	・歯科保健の動向 　・障害を通じた歯科保健 　・口腔機能低下予防の取り組み															
第14回	健康課題に対応した保健活動 －災害時保健活動	・災害とは、 　・避難所での看護(初動) 　・避難所での活動のポイント															
第15回	地域保健活動を支える人材・機関	・地域保健活動において連携協働する専門職と地域の人々、組織					【まとめテスト】 授業評価										
教科書	最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論1 最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論2 (金川克子編)																
参考書	国民衛生の動向(厚生統計協会)																
成績評価	単位認定 60点以上 資料・レポート作成50% 試験50% (ミニテスト・まとめテストの総合)																
授業時間外の学習	まとめテストを適宜実施し、知識を確認するので、復習を必ずする。実習に直結する資料作りがかなりあります。																
履修のポイント	保健師課程の科目です。実習に行くために必要不可欠な内容ですので、休まず出席すること。																
オフィス・アワー	具体的な曜日は、授業開始までに提示する。在室時はいつでも対応する。																

平成26年度 シラバス

科目名	公衆衛生看護活動論Ⅳ (産業における保健活動)		担当者	山田淳子	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門科目 講義	必修	単位 (時間)	1単位 15時間	学年	3	曜日 時限							
授業の概要	人々のライフステージの多くのをしめる労働生活を支援することは非常に重要であり、その担い手である産業看護職の役割は大きい。労働者の健康と労働生活の両立を支える産業保健・看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。													
学習目的	労働者が抱える健康問題と労働の場の特徴を学習し、労働者の健康と労働生活の両立を支える産業看護職の役割と機能について理解することができる。さらに、産業保健活動の重要性について考えることができる。													
到達目標	①労働の場の特徴や労働者が抱える健康問題について理解する。②労働関係法規を理解する。③労働衛生管理体制(組織と人)を理解する。④産業看護職の役割と業務を理解する。⑤産業保健活動の重要性を認識することができる。													
授業計画														
回	主 题		授 業 内 容				備考							
第1回	オリエンテーション、労働衛生の実態と産業保健・看護の対象者の特徴		産業構造、労働衛生の動向、労働者の健康をめぐる現状											
第2回	産業保健・看護の理念と背景		産業保健の目的、産業看護の定義、産業保健・看護の歴史、労働衛生行政と関連法規(労働安全衛生法等)											
第3回	産業保健・看護の制度とシステム		労働衛生管理体制(組織と人)、関連機関、労働衛生管理体制における産業看護職の役割											
第4回	産業保健の5分野(3管理)		総括管理、健康管理、作業環境管理、作業管理、労働衛生教育											
第5回	健康課題別の産業看護職の機能・役割①		職業性疾病と作業関連疾患の種類と予防対策											
第6回	健康課題別の産業看護職の機能・役割②		生活習慣病予防対策、職場のメンタルヘルスケア、職場復帰支援、ワークライフバランスなど											
第7回	職場のヘルスプロモーションにおける産業看護職の機能・役割		健康教育、健康相談、職場の健康づくり活動、ヘルスプロモーション、快適職場											
第8回	中小規模事業場の健康支援、地域・職域連携		中小規模事業場に所属する労働者への健康支援、地域・職域連携活動											
教科書	資料プリントを配布する													
参考書	Essentials 地域看護学 木下由美子編著 医歯薬出版(株) 最新保健学講座5 公衆衛生看護支援技術 最新保健学講座2 公衆衛生看護管理論 メジカルフレンド社													
成績評価	単位認定 60 点以上 試験 60 % 講義終了後のリアクションペーパー 40 %													
授業時間外の学習	労働者の健康問題は社会情勢に大きく影響されます。日頃から新聞等に目を通し社会情勢について理解することは重要です。また、講義終了後のリアクションペーパーは次回講義で返却しますので、講義資料を見ながら復習してください。													
履修のポイント	産業保健に関する法規や制度を理解することは、職種に関わらず、いずれ「労働者」となる皆さんにとって重要です。興味関心を持って臨んでください。保健師国家試験とも関連付けて学習してください。													
オフィス・アワー														

平成26年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅱ（看護管理）		担当者	島崎すえ子	学科	看護学科	開講期	後期							
区分			単位 (時間)	1単位 (15時間)	学年	3学年	曜日								
授業の概要	看護におけるマネジメントの機能は、「良質な看護サービスをより円滑に提供するための仕組みやその運営活動」であり、看護実践のあるところ、すべてにおいて必要とされる。														
学習目的	看護サービスの提供を組織とマネジメントの視点からとらえ、看護におけるマネジメントの機能について学ぶ。														
到達目標	①看護におけるマネジメントの機能について理解する ②組織における看護管理のあり方について理解する ③看護管理の特性について学ぶ ④看護管理を総合的に捉えることができる ⑤リーダーシップとマネジメントについて知識を深める ⑥看護管理を看護実践に活かすことができる														
授業計画															
回	主題	授業内容					備考								
第1回	看護におけるマネジメント	看護マネジメントの必要性													
第2回	組織化とマネジメント	組織における看護管理の重要性													
第3回	看護管理のシステムアプローチ	看護管理システム													
第4回	看護サービス管理の特性	マネジメントの機能													
第5回	リーダーシップとマネジメント	看護管理に必要なリーダーシップのあり方													
第6回	看護管理の実際	看護管理を総合的に捉える													
第7回	グループワーク	臨地実習での看護実践を振り返り、看護管理の機能について考える													
第8回	グループワーク	授業を受けて、看護におけるマネジメントの機能について振り返る													
第9回	まとめ	グループワークでの発表													
第10回															
第11回															
第12回															
第13回															
第14回															
第15回															
教科書	看護管理（医学書院）														
参考書	看護管理学習テキスト 看護管理概説論、看護マネジメント論														
成績評価	単位認定 60 点以上 授業及び実習態度、グループワーク発表、レポートによる														
授業時間外の学習															
履修のポイント	看護の機能を統合的に捉え、臨床実践で活かすことができるように学んでもらいたい														
オフィス・アワー															

平成26年度 シラバス

科目名	学校保健Ⅰ		担当者	青柳 千春	学科	看護学科	開講期	後期						
区分	専門科目	選択	単位	1単位	学年	3年	曜日							
	教職科目	(必修)	(時間)	(15時間)			時限							
授業の概要	学校保健の目的と意義、学校保健の変遷と沿革、学校教育における使命と目的を明確にする。 安全な環境の下で、心身ともに健康な発育発達を支援する学校保健の領域は、保健管理、保健教育、組織活動によりなる。児童生徒の健康課題の解決を図る中核的役割をもつ養護教諭に対して、学校保健の推進について講義をする。 学校における児童生徒等及び職員の健康の保持増進を図るためにの保健管理・安全管理、および教育活動全体を通して基盤となる健康と体力について保健教育と心身の調和的発達を図る保健計画、計画を実践していく組織活動について実践的に学習する。													
学習目的	学校保健の概要を学び、児童生徒の実態から健康課題を把握し、健康課題の解決や健康の保持増進を図るためにの学校保健の運営について理解する。													
到達目標	①学校保健の目的・意義と変遷を理解することができる ②児童生徒の心身の健康実態と環境アセスメントの理解、発育発達段階を理解することができる。 ③発育発達段階、ニーズ、学習指導要領に基づいて保健指導・保健学習の学習指導計画を立て、指導案に基づいて指導ができる。 ④学校保健計画の試案を考えることができる。													
授業計画														
回	主 题		授 業 内 容				備考							
第1回	学校保健とは		学校保健の意義及び内容、変遷、学校保健関係職員と保健室											
第2回	児童生徒の心身の発達と健康		発育発達から見た児童生徒の健康課題											
第3回	学校保健計画・学校保健組織活動		学校保健計画作成の法的根拠と意義、作成手順及び留意事項、内容と評価、校内組織活動（学校保健委員会、教職員保健部会、児童生徒保健委員会）				小テスト①							
第4回	保健管理と健康診断		保健管理とは、児童生徒の健康診断（健康診断の意義、実施時期と検査項目、健康診断票と保健調査、事後措置）職員の健康診断、就学時の健康診断											
第5回	教育課程と養護教諭		教育課程とは何か、学習指導要領とは何か、学校における健康教育の位置づけ、進め方及び評価方法											
第6回	危機管理及び学校安全		危機管理、学校安全の構造、安全管理、安全教育				小テスト②							
第7回	疾病管理		学校における疾病管理の目的、学齢期の子どもの健康状況、疾病管理の進め方（学校生活管理表の活用）											
第8回	ヘルスプロモーションと養護教諭の新たな役割		ヘルスプロモーションの概念・歴史 ヘルスプロモーションスクール				小テスト③							
第9回														
第10回														
第11回														
第12回														
第13回														
第14回														
第15回														
教科書	「新・学校保健」杉浦守邦・野村和雄（東山書房）													
参考書	「学校保健マニュアル」改訂8版 衛藤隆、岡田加奈子（南山堂）													
成績評価	単位認定 60 点以上 課題レポート（40点）、小テスト（50点）、授業態度（10点）													
授業時間外の学習	教科書を活用し、予習を必ず行うこと。配布された資料や文献により復習を行うこと。													
履修のポイント	児童生徒の健康課題や教育に関する時事問題にクリティカルシンキング。													
オフィス・アワー	アポイントを取ること。													

平成26年度 シラバス

科目名	養護概論		担当者	青柳千春	学科	看護学科	開講期	後期								
区分	専門科目	選択	単位	2単位	学年	3年	曜日									
	教職科目	(必修)	(時間)	(30時間)			時限									
授業の概要	教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨に基づき「養護」の本質や概念、歴史的沿革、職務内容の変遷、養護教諭の職務内容などの養護教諭の『職』について学ぶ。															
学習目的	学校保健を推進する中核的役割をもつ養護教諭の職務と機能、役割を理解し、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学習する。															
到達目標	'養護'の本質や概念、沿革、職務内容の変遷を理解するとともに、児童生徒の健康・安全を守り、課題を解決するための、学校保健活動の在り方を理解することができる。															
授業計画																
回	主 题		授業内容				備考									
第1回	教育関係法令と教育行政		教育関係法令等、教育行政、教育改革の動向													
第2回	学校教育と学校保健		教育の目的、学校経営とは、教育課程と学習指導要領、学校保健 養護教諭の制度の変遷、養護教諭の職務													
第3回	児童生徒の発育発達と健康課題		幼児期、児童期、青年前期・後期の発育発達 子どもの健康課題 の推移 各発達段階に即した保健指導													
第4回	学校における救急処置		学校における救急処置の目的 適切な見極めと判断 救急体制づくり 簡単なけがの手当て													
第5回	健康観察と疾病管理		健康観察の目的、機会と内容 疾病管理の目的と内容及び留意点 感染症予防（吐物処理、手洗い、うがい、マスク）													
第6回	学校における精神保健・健康相談と 養護教諭の役割		子どもの心の問題の内容 対応にあたっての留意点及び健康相談 の意義・法的根拠と進め方・教育相談の基本的な考え方と養護教 諭の役割													
第7回	健康診断の計画と実施		健康診断の意義と目的、計画の立て方と実施の流れ													
第8回	健康診断の実際		演習（身体測定・聴力、視力検査・内科検診・歯科検診等）													
第9回	学校環境衛生		学校環境衛生の目的 関係法令 日常点検と措置 演習（水質検査、照度検査、二酸化炭素測定）													
第10回	効果的な教材の活用		保健だより、掲示物の作成													
第11回	保健教育		教科保健（保健学習）と保健指導のねらい、内容、進め方、教材 の活用													
第12回	保健指導の構想		保健指導の授業構想、指導案作成													
第13回	模擬授業の提案		グループ発表													
第14回	安全管理と危機管理		学校安全とは、安全教育と安全管理の進め方 日本スポーツ振興センター													
第15回	保健室経営		保健室経営の重要性、保健室経営計画の作成上の留意点と評価													
教科書	「新養護概説（第7版）」采女智津江 少年写真新聞社															
参考書	「養護概説」 三木とみ子 ぎょうせい															
成績評価	単位認定 60 点以上 筆記試験（40%）小テスト、レポート（50%）授業への参加度・学習態度等（10%）															
授業時間外の学習	グループ学習を取り入れるので、各自が自学自習に励み互いに学びあいができるよう準備をすること。															
履修のポイント	授業は学び方のヒントである。養護教諭の根本となる基礎基本であるので、復習予習をして授業に臨むこと。															
オフィス・アワー	アポイントを取ること。															

平成26年度 シラバス

平成26年度 シラバス

科目名	機能看護学Ⅲ 看護研究		担当者	加固 正子	学科	看護学科	開講期	後期							
区分	専門科目	必修	単位 (時間)	1単位 15	学年	3学年	曜日 時限								
授業の概要	看護実践充実に関わる研究成果の収集と実践への応用の視点から、看護実践における課題や疑問の解決に向けた研究成果の応用の重要性と研究方法の基礎について教授する														
学習目的	研究方法の基礎、および看護実践における課題や疑問の解決に向けた研究成果の応用の重要性について理解する														
到達目標	1. 看護実践充実に関わる研究の役割を知る 2. 研究方法の基礎として、研究の概念枠組み、研究デザイン、データ収集方法、データ分析方法について学習する 3. 看護実践上の疑問を研究手法を用いて解明する意義を理解する 4. 看護実践上の疑問解決のためにこれまでの研究成果を活用することを思考する 5. 研究論文の書き方の基本について、量的研究と質的研究の例を学習する														
授業計画															
回	主題	授業内容				備考									
第1回	看護研究の意義	看護における研究の意義と文献				講義									
第2回	研究疑問とは	研究疑問と研究方法 概念枠組み、研究デザイン、データ収集方法、データ分析方法				講義									
第3回	研究計画書作成まで	研究疑問に対する研究計画書の書き方 グループごとの研究データ収集計画				講義・演習 ①個別に研究計画書を書く 1回目提出									
第4回	データ収集	質問紙による実態調査、生理的データ測定等のグループ分かれて データ収集を行う				グループ別提出物 ②洗練した研究計画書 ③データ収集表									
第5回	データ収集	質問紙調査、観察調査、生理的データ測定等のグループ分かれて データ収集を行う													
第6回	データ分析	収集したデータの集計、図表化、結果記述を行う				グループワーク									
第7回	データ分析	結果・考察を整理し、発表原稿を作成する				グループワーク									
第8回	結果発表	グループごとに、研究結果の発表を行う				発表会 ④発表原稿提出（グループ別）									
教科書	富田真左子：パソコンで進めるやさしい看護研究、オーム社、2014. (2,800円)														
参考書	授業中、紹介する														
成績評価	単位認定 60 点以上_グループワークへの参加 (50%)、①②③④個別提出物 (20%)、②③④グループ別提出物 (30%) を総合して評価する														
授業時間外の学習	3年次臨地実習などで気づいた看護上の課題や疑問点を大切に記録しておく														
履修のポイント	看護研究の基礎としての、研究ステップ、用語を理解すること														
オフィスアワー	水曜日16:30以降														